南部拠点地区遺跡群 No.2

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 No.2

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南部拠点地区遺跡群No.2
2009.3
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南部拠点地区遺跡群 No.2

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 No.2

２００９．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南部拠点地区遺跡群No.2　7・8区1面遠景

7・8区1面全景

6区1面全景

7区1面全景

はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前の旧石器時代から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上毛野の国の中心地として栄え、また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担うなど、まさに、歴史性豊かな街です。

南部拠点地区遺跡群№２は、市の南東部に位置し、前橋南インターチェンジ一帯の土地区画整理事業に伴う道路建設に先立つ事前発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108年）の浅間山噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。本水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎大地に広く展開する貴重な条里制遺構です。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、湧水の中、泥んこになりながら直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　**依　田　三次郎**

例　　言

1　本報告書は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴って実施した、南部拠点地区遺跡群№２（６区～８区）の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地　群馬県前橋市下阿内町80－１番ほか

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　依田三次郎）の指導のもとに委託者、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会（代表　持田頼男）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。

調査担当者　　山下歳信・須藤健夫・塩坪丈夫・岩丸展久（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　　板垣　宏（スナガ環境測設株式会社）

4　発掘調査期間　平成20年10月30日～平成21年３月10日
整 理 期 間　平成21年２月28日～平成21年３月19日

5　調 査 面 積　9,092㎡（畦畔確認432㎡　畦畔調査5,780㎡　トレンチ調査2,880㎡）

6　調査にかかわる図面・写真・出土遺物等は、前橋市教育委員会が保管する。

7　調査・測量計画を須永眞弘（測量士第52614号）、調査指導・安全管理を金子正人、測量を板垣・下田・佐々木・細井・星野、遺構・遺物写真を板垣、作業事務を須永豊が担当した。

8　本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設㈱が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰは山下歳信（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、その他は板垣が担当した。また、編集・校正を須永・金子、図書の編集・版下作成・トレース・遺物実測他は板垣・荻野博巳・黒田・佐々木・星野、内業事務を須永が担当した。

9　プラント・オパール分析は、株式会社古環境研究所が、土壌サンプル採取は東京農工大学　須永薫子（農学博士）が行った。

10　発掘調査に参加した方々（敬称略）
上村一視　下田　弘　小林益二　長澤俊男　松井道男　諸田伊勢寿　秋山文雄　中野光雄　山本良政
北爪一郎　菊川　勝　武井知司　黒田雄司　菊川　毅　佐々木智恵子　細井美佐子　星野陽子
石川さわ子　内山恵美子　山本恵美子　品川浪江　高林　操　田胡智子

凡　　例

1　遺跡の略称は、(20Ｇ62）である。

2　遺構名の略称　溝跡…W。土坑…Ｄ。ピット…Ｐ。実測図中の記号　Ｓ…石。

3　実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構平面図（1/150・1/250・1/400)、遺構断面図（1/60・1/300)、遺物実測図は1/3・1/5を使用した。

4　挿図に国土地理院発行の２万５千分の１「前橋」を使用した。

5　本文中の計測値については（　）検出値、現存値、［　］推定値を表す。その他はその都度表した。
また、As-B 水田平面図中の畦畔番号には、（　）を付けて表した。

6　土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

7　土層注記及び本文中には、1783年降下浅間山起因の軽石の略称を As-A、1108年降下浅間山起因の軽石の略称を As-B、６世紀中葉榛名山起因の軽石の略称を Hr-FP、６世紀初頭榛名山起因の軽石の略称を Hr-FA、４世紀初頭降下浅間山起因の軽石の略称を As-C として使用した。

8　土層注記中の粘は粘性、締は締まりとし、強・中・弱・なしの４段階に区分した。

目　　次

はじめに

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査の方針と経過 …… 6

1　調査方針 …… 6

2　調査経過 …… 6

Ⅳ　層　　序 …… 7

Ⅴ　調査の概要 …… 8

Ⅵ　検出された遺構と遺物 …… 8

1　古墳時代、平安時代、中・近世の調査 …… 8

⑴　溝（6区、7区、7・8区） …… 8

⑵　土坑（6区、7区、7・8区） …… 11

⑶　ピットについて（7区、7・8区） …… 12

⑷　As-B軽石下水田跡（6区、7区、7・8区） …… 15

Ⅶ　ま と め …… 20

1　As-B水田と条里制について …… 20

2　畦畔上の石について …… 20

付章　自然科学分析報告（南部拠点地区遺跡群№2におけるプラント・オパール分析） …… 44

挿　図

第１図　遺跡位置図（原形前橋市都市計画図）…２
第２図　遺跡位置図（昭和43年調整前橋市都市計画図）……３
第３図　周辺遺跡図……５
第４図　基本土層断面図……７
第５図　As-B 下水田と条里制地割り図……21
第６図　６区、７・８区１・２面出土遺物……23

６区１・２面

第７図　南部拠点地区遺跡群№.２　６区１・２面平面図（西側）……24
第８図　南部拠点地区遺跡群№.２　６区１・２面平面図（東側）……25
第９図　６区１面エレベーション……26
第10図　６区１面北壁①～③セクション、畦畔上の石、Ｂ水田①～④エレベーション、２面北壁④、Ｄ-６セクション……27
第11図　６区２面Ｗ－９・10・11号溝セクション……28

７区１・２面

第12図　南部拠点地区遺跡群№.２　７区１面平面図……29
第13図　南部拠点地区遺跡群№.２　７区２面平面図……30
第14図　７区１面Ｗ－７、畦畔、北壁　２面東壁①～③、Ｗ－12・13・14、Ｄ－７、Ｐ－109セクション……31

７・８区１・２面

第15図　南部拠点地区遺跡群№.２　７・８区１面平面図（西側）……32
第16図　南部拠点地区遺跡群№.２　７・８区１面平面図（東側）……33
第17図　７・８区１面Ｂ水田①～④エレベーション……34
第18図　７・８区１面Ｂ水田⑤～⑦エレベーション、大畦畔東壁セクション……35
第19図　７・８区１面東・西・南・北壁、Ｄ－１・２～４セクション、水口、小畦畔上の石検出状況、Ｄ－５エレベーション…36
第20図　７・８区１面Ｂ水田大畦畔、大畦畔上の痕跡・№.４～８検出状況、Ｗ－３エレベーション……37
第21図　７・８区１面Ｂ水田、ピット、土坑、溝平面図……38
第22図　７・８区１面Ｐ－１～50セクション・エレベーション……39
第23図　７・８区１面Ｐ－51～98セクション・エレベーション……40
第24図　７・８区１面Ｗ－１～５・８セクション・エレベーション２面Ｐ－99～108、Ｗ－15東壁セクション……41
第25図　南部拠点地区遺跡群№.２　７・８区２面遺構確認トレンチ・Ｗ－15、Ｐ－100～104・108平面図（西側）……42
第26図　南部拠点地区遺跡群№.２　７・８区２面遺構確認トレンチ・Ｗ－15、Ｐ－99・105～107平面図（東側）……43

付図　南部拠点地区遺跡群№.２平面図７・８区１面

表

第１表　周辺遺跡概要一覧表……４
第２表　ピット計測表……13
第３表　水田計測表……16
第４表　畦畔計測表……17
第５表　出土遺物観察表……19

写真図版

巻首図版１　南部拠点地区遺跡群№２
７・８区１面遠景、７・８区１面全景
巻首図版２　６区１面全景、７区１面全景

図版１
６区調査前全景（西から）
６区１面Ｂ水田全景（西から）
６区１面Ｂ水田全景（東から）
６区１面Ｂ水田全景（東から）
６区１面Ｂ水田全景（東から）
６区１面北壁②セクション
６区１面畦畔上の石№10出土状況
６区２面⑲トレンチ全景（東から）
図版２
６区２面⑲トレンチ全景（西から）
６区２面№14遺物出土状況
６区２面Ｗ―９全景（北から）
６区２面Ｗ―10全景（南から）
６区２面Ｗ―11全景（東から）
６区２面Ｄ―６セクション
６区２面Ｄ―６完掘
６区埋め戻し完了全景（西から）
図版３
７区調査前全景（南から）
７区調査前全景（東から）
７区１面Ｂ水田全景（東から）
７区１面Ｂ水田全景（南から）
７区１面北壁セクション
７区１面Ｂ水田畦畔検出状況
７区１面Ｂ水田畦畔セクション
７区１面Ｂ水田畦畔検出状況
図版４
７区１面Ｗ―７全景（南から）
７区１面Ｗ―７北壁セクション
７区２面⑯トレンチ全景（南から）
７区２面⑰トレンチ全景（南から）
７区２面⑱トレンチ全景（西から）
７区２面東壁①セクション
７区２面Ｗ―12全景（西から）
７区２面Ｗ―13全景（西から）
図版５
７区２面Ｗ―14全景（西から）
７区２面Ｗ―12～14セクション
７区２面Ｗ―12～14　全景（西から）
７区２面Ｄ―７全景
７区２面Ｐ―109セクション
７区２面Ｐ―109完掘全景
７区埋め戻し完了全景（南から）
７区埋め戻し完了全景（西から）
図版６
７・８区全景（空撮　南から）
７・８区調査前全景（東から）
７・８区調査前全景（北から）
７・８区１面Ｂ水田全景（南から）
７・８区１面Ｂ水田全景（北から）
図版７
７・８区１面Ｂ水田全景（西から）
７・８区１面Ｂ水田全景（北から）
７・８区１面Ｂ水田全景（東から）
７・８区１面Ｂ水田全景（北から）
７・８区１面Ｂ水田全景（東から）
７・８区１面Ｂ水田全景（西から）
７・８区１面Ｂ水田全景（西から）
７・８区１面Ｂ水田全景（北から）
図版８
７・８区１面Ｂ水田全景（大畦畔北から）
７・８区１面Ｂ水田全景（大畦畔南から）
７・８区１面Ｂ水田、Ｗ―１・２全景（東から）
７・８区１面Ｂ水田全景（南から）
７・８区１面Ｂ水田全景（南から）
７・８区１面Ｂ水田全景（東から）
７・８区１面Ｂ水田全景（東から）
７・８区１面大畦畔東壁セクション
図版９
７・８区１面畦畔上の石№１出土状況
７・８区１面畦畔上の石№３出土状況

7・8区1面畦畔上の石№4出土状況（大畦畔）
7・8区1面畦畔上の石№7出土状況（大畦畔）
7・8区1面畦畔上の石№8出土状況（大畦畔）
7・8区1面畦畔上の石№9出土状況
7・8区1面D－1セクション
7・8区1面D－1完掘全景
図版10
7・8区1面D－2セクション
7・8区1面D－3セクション
7・8区1面D－5完掘全景
7・8区1面P－1セクション
7・8区1面P－4セクション
7・8区1面P－4完掘全景
7・8区1面P－9完掘全景
7・8区1面P－10完掘全景
図版11
7・8区1面P－12完掘全景
7・8区1面P－16セクション
7・8区1面P－20セクション
7・8区1面W－1・2東壁セクション
7・8区1面W－1・5全景（西から）
7・8区1面W－3全景（北から）
7・8区1面W－4セクション
7・8区1面W－5西壁セクション
図版12
7・8区1面W－6全景（西から）
7・8区1面W－8セクション
7・8区1面北壁①セクション
7・8区1面東壁②セクション
7・8区2面全景（東から）
7・8区2面全景（南から）
7・8区2面全景（西から）
7・8区2面①トレンチ全景（西から）
図版13
7・8区2面④トレンチ全景（西から）
7・8区2面⑥トレンチ全景（西から）
7・8区2面⑦トレンチ全景（北から）
7・8区2面⑧トレンチ全景（北から）
7・8区2面⑩トレンチ全景（北から）
7・8区2面⑪トレンチ全景（北から）
7・8区2面⑫トレンチ全景（北から）
7・8区2面⑮トレンチ全景（北から）
図版14
7・8区2面P－99セクション
7・8区2面P－100完掘全景
7・8区2面P－102完掘全景
7・8区2面P－105セクション
7・8区2面P－108完掘全景
7・8区2面W－15東壁セクション
7・8区2面W－15全景（東壁側）
7・8区2面W－15全景（西壁側）
図版15
7・8区2面西壁セクション
7・8区内基本土層断面（南壁）
7・8区2面№13遺物出土状況
7・8区2面遺物出土状況
プラント・オパール№1採取状況
7・8区1面作業風景（北から）
7・8区埋め戻し完了全景（南から）
7・8区埋め戻し完了全景（北から）
図版16
6区、7・8区1・2面出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う公共道路建設事業に伴い実施された。

平成20年９月12日、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会　代表　持田頼男より、埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　依田三次郎）（以下「調査団」という。）に対し調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による発掘調査を進める方針を決め、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会　代表　持田頼男と調査団の間で平成20年９月29日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。

これに基づき、10月23日付けで、依頼者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会　代表　持田頼男と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、その後、10月30日付けで民間調査会社であるスナガ環境測設株式会社代表取締役　須永眞弘との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群№２」（市遺跡コード：20Ｇ62）とした。

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

１　遺跡の立地

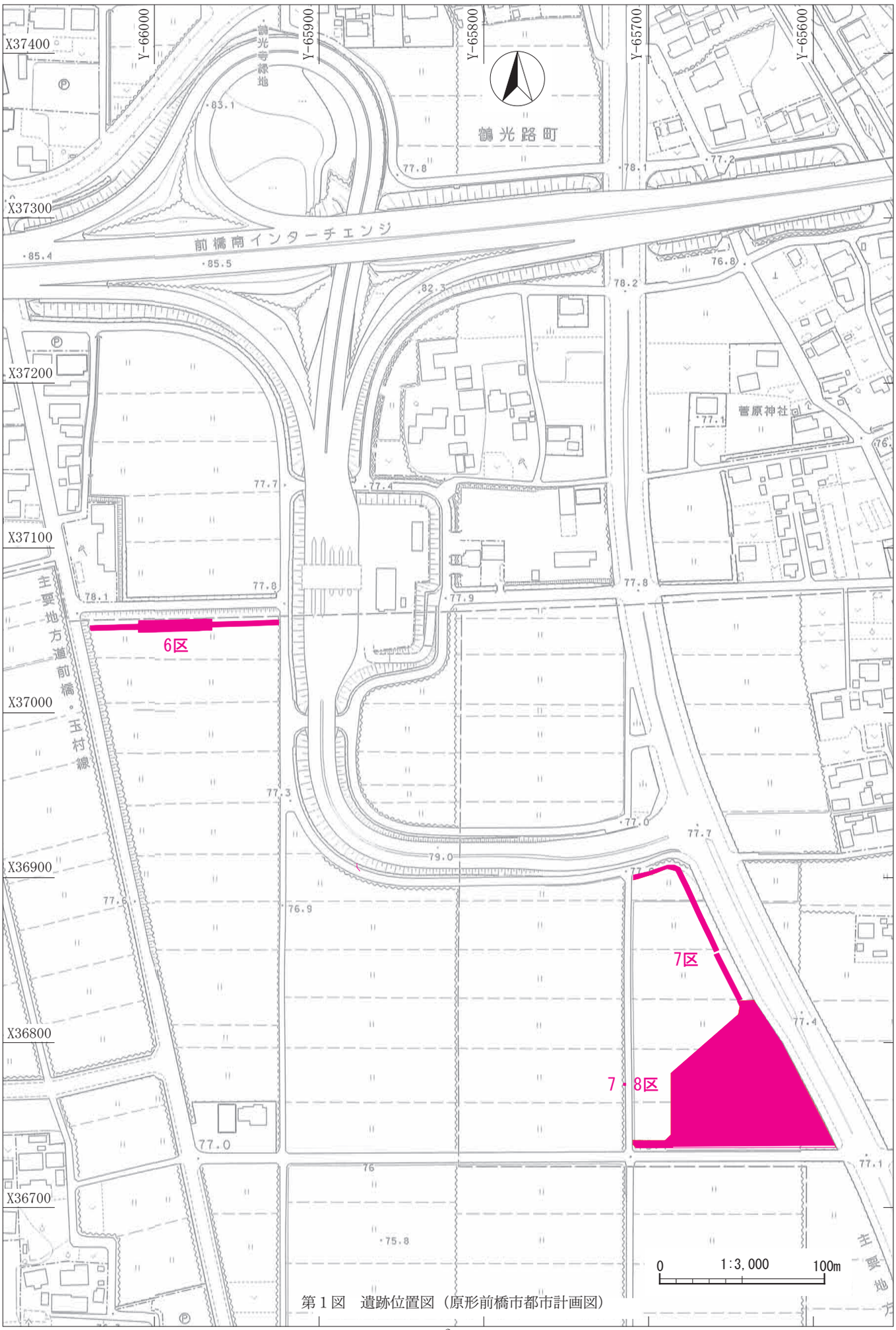
本遺跡は、前橋市役所の南東約７㎞に位置し、調査区は下阿内町と新堀町にまたがる。北1.7㎞には県道高崎駒形線が東西に走り、これと交差する県道前橋玉村線が西側を南北に走り、すぐ北側には北関東自動車道、東側には前橋玉村線バイパスが位置する。遺跡の周辺は、圃場整備により整然と区画された水田地帯が広がり、北西には鶴光路町、南西には新堀町、東には下阿内町の住宅街が形成されている。近年、前橋市の人口増加に伴うドーナツ化現象により、周辺地域は団地ができ宅地化が進み、大型店舗や工業団地の建設が相継いでいる。

前橋市は地形的に区分すると、北東部の赤城火山斜面、南西部の洪積台地（前橋台地）、この両者に挟まれる形で位置する沖積低地(広瀬川低地帯)、および現利根川氾濫原の四地域からなる。本遺跡は、そのうちの前橋台地上にある。前橋台地は、前橋市街地を北端に南方向一帯に広がる沖積平野で、前橋泥流堆積物層が形成された洪積世後期の約24,000年前から利根川に浸食されずに沖積化が進んだ地域で、広瀬川低地帯より一段高い洪積層である。多少の起伏は見られるものの概ね平坦な土地である。この台地上には利根川をはじめいくつかの中小河川が流れ、小規模ながら氾濫原を形成している。本遺跡の東には端気川が南流し、その東には藤川が流れる。端気川は、広瀬川から分かれ９㎞ほど南下し、南部農耕地域の重要な用水である。

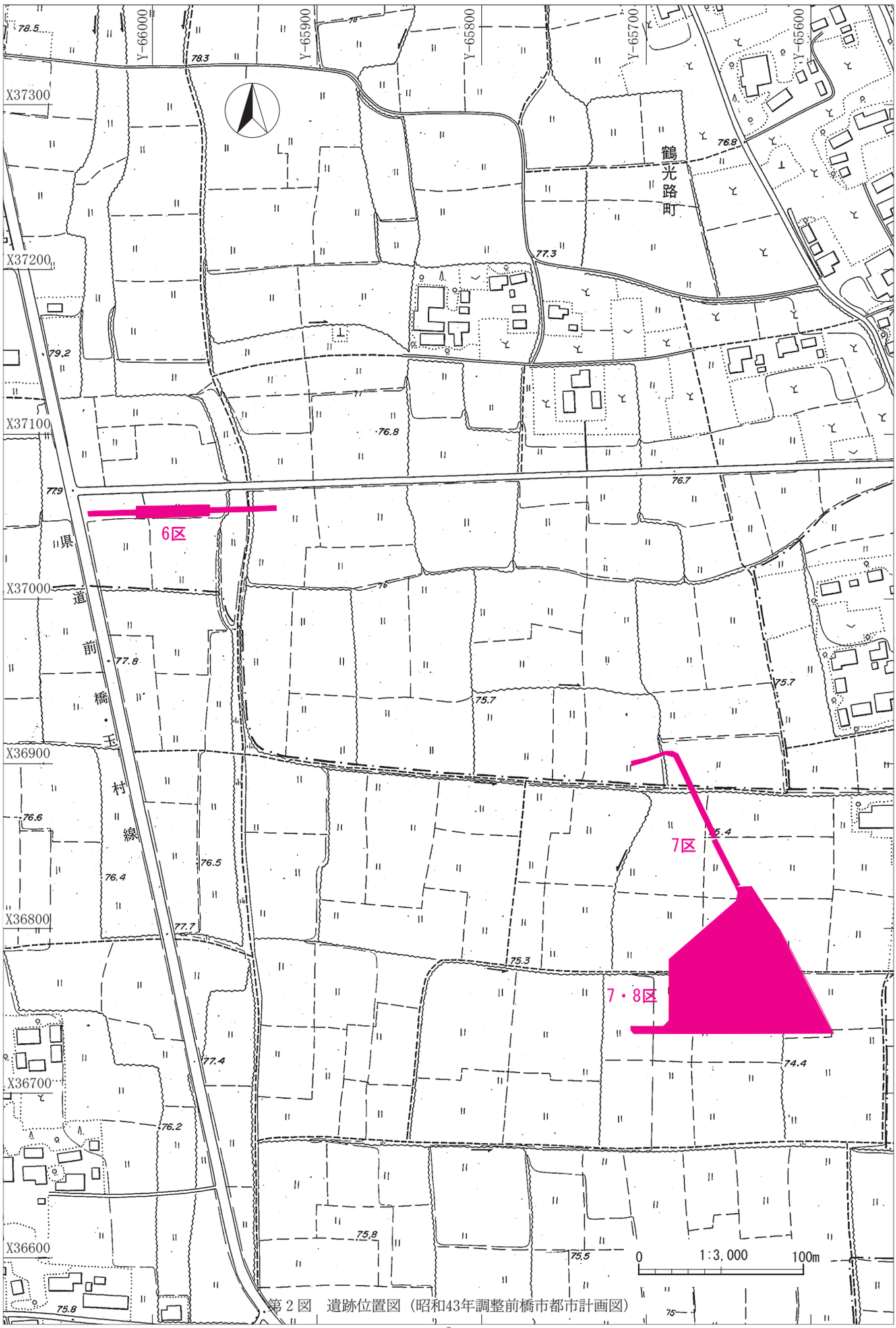
２　歴史的環境

本遺跡が所在する前橋南部地域では、近年北関東自動車道をはじめ多くの開発事業が実施され、それに伴う埋蔵文化財発掘調査も多数行われている。調査の結果、縄文時代から近世のものまで様々な遺構が検出されているが、旧石器時代の遺跡は発見されていない。

縄文時代には、草創期の微隆起線文土器や有舌尖頭器等が出土した徳丸仲田遺跡(48)、縄文中期後半の遺物が出土した村中遺跡（県事業団調査)(30)などがあり、生活の痕跡が希薄である。弥生時代に入ってもあ



第１図　遺跡位置図（原形前橋市都市計画図）



第２図　遺跡位置図（昭和43年調整前橋市都市計画図）

まり変わらず、櫛島川端遺跡（県事業団調査）(10)で後期の竪穴住居跡が確認されている程度である。

古墳時代になると、遺跡数は増大する。広瀬川右岸の自然堤防上に位置する広瀬・朝倉古墳群には古墳時代の前期から後期にわたる大小150基ほどの古墳が存在する。前期では、古墳時代初頭期の前方後方墳である前橋八幡山古墳(4)、前方後円墳の前橋天神山古墳(5)があり、地域の盟主の墓と考えられている。集落も台地上の各地に営まれるようになる。後閑団地遺跡(7)、櫛島川端遺跡（市調査団調査）(9)などがある。生産址も広範囲に行われるようになる。４世紀初頭降下と考えられる As-C 軽石に埋没した水田や、As-C 軽石を耕作土に含む水田が西田遺跡（県事業団調査）(37)、村中遺跡(30)、徳丸仲田遺跡(48)、下阿内前田遺跡(45)などから検出されている。

後期の古墳としては、６世紀前半の帆立貝式古墳である亀塚山古墳、６世紀後半の前方後円墳で金銅制冠を出土した金冠塚古墳などがある。

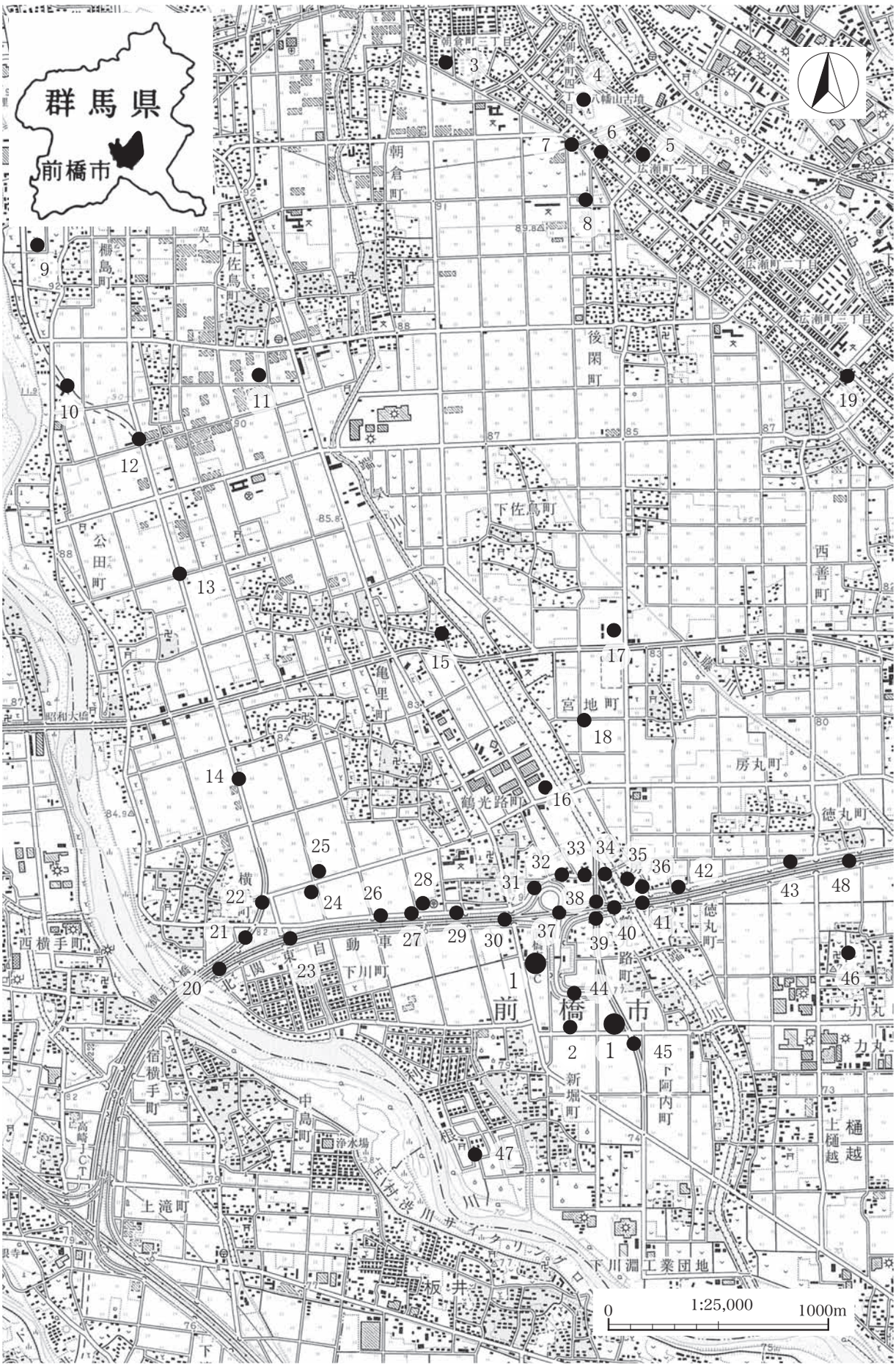
集落は後期に新しく開始される遺跡が多い。後閑Ⅱ遺跡(8)、西田遺跡(37)などがある。生産址は、６世紀初頭降下と考えられる Hr-FA で埋没した水田跡や６世紀中葉降下と考えられる Hr-FP で埋没した水田跡が各地で検出されている。櫛島川端遺跡(10)、横手湯田遺跡（県事業団調査）(23)、横手宮田遺跡(22)などがある。奈良・平安時代では、本遺跡周辺の低地部分のほとんどの遺跡で平安時代後期の1108年に降下した As-B 軽石で埋没した水田跡が検出されている。宮地中田遺跡(18)、鶴光路練引遺跡(28)、徳丸仲田遺跡(48)、横手湯田遺跡(23)、横手湯田Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ遺跡(26、29、27)、西田遺跡（市調査団調査）(39)、西田Ⅱ遺跡(32)、村中遺跡(30)などがある。集落遺跡は、後閑団地遺跡(7)、後閑Ⅱ遺跡(8)、西田遺跡(37)、西田Ⅱ・Ⅲ遺跡(32、31)などから検出されている。

中世では、県教育委員会が実施した城郭分布調査によって、前橋南部地域に環濠遺構群の存在が多数確認されている。力丸城(46)、宿阿内古城(16)、宿阿内城(15)、新堀城(47)などがある。

近世の遺構では、村中遺跡(30)で、埋土・出土遺物から近世に比定される環濠屋敷が、西田遺跡(37)から多数の土坑墓が確認されている。また、1783年（天明３年）噴火の As-A 軽石を処理した灰掻き穴等が、下阿内壱町畑遺跡(44)、下阿内前田遺跡(45)などから検出されている。

第１表　周辺遺跡概要一覧表

No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	本遺跡	13	公田池尻遺跡	25	亀里銭面Ⅱ遺跡	37	西田遺跡（県事業団）
2	南部拠点地区遺跡群No.１	14	亀里平塚遺跡	26	横手湯田Ⅱ遺跡	38	西田Ⅳ遺跡
3	鎮守廻り遺跡	15	宿阿内城	27	横手湯田Ⅵ遺跡	39	西田遺跡（市調査団）
4	八幡山古墳	16	宿阿内古城	28	鶴光寺練引遺跡	40	鶴光寺榎橋遺跡
5	前橋天神山古墳	17	東田遺跡	29	横手湯田Ⅳ遺跡	41	徳丸高堰遺跡
6	坊山遺跡	18	宮地中田遺跡	30	村中遺跡	42	徳丸高堰遺Ⅱ遺跡
7	後閑団地遺跡	19	木の宮遺跡	31	西田Ⅲ遺跡	43	徳丸仲田Ⅲ遺跡
8	後閑Ⅱ遺跡	20	横手南川端遺跡	32	西田Ⅱ遺跡	44	下阿内壱町畑遺跡
9	櫛島川端遺跡（市調査団）	21	横手早稲田遺跡	33	西田Ⅵ遺跡	45	下阿内前田遺跡
10	櫛島川端遺跡（県事業団）	22	横手宮田遺跡	34	鶴光寺榎橋Ⅱ遺跡	46	力丸城
11	上佐鳥中原前遺跡	23	横手湯田遺跡（県事業団）	35	徳丸高堰Ⅲ遺跡	47	新掘城
12	公田東遺跡	24	亀里銭面遺跡	36	徳丸高堰Ⅳ遺跡	48	徳丸仲田遺跡


群馬県
前橋市
朝倉町
後閑町
下佐鳥町
公田町
西善町
亀里町
宮地町
房丸町
鶴光路町
徳丸町
横手町
西横手町
下川町
新堀町
上滝町
中島町
宿横手町
上樋越
樋越
板井
下川淵工業団地
前橋市
1:25,000
0
1000m

第3図　周辺遺跡図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

調査区名は、同時期に調査を行っていた南部拠点地区遺跡群№１が５区に分けられており、本遺跡は３区に分けられ、それぞれ６区、７区、８区（８区については７区の一部が並行するため、その範囲を含めた全体を７・８区として表した。）と呼称されているため、それを使用した。

グリッドは、公共座標に基づいて４×４ｍで設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３、……、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３、……、と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用している。また水準点 B.M…75.70m、76.30m、77.20mを使用し、等高線は５㎝間隔とした。各調査区の公共座標（世界測地系　第Ⅸ系）は次のとおりである。

６区	Ｘ350、Ｙ62	Ｘ＝37,052.00m	Ｙ＝－66,000.00m
７・８区	Ｘ435、Ｙ135	Ｘ＝36,760.00m	Ｙ＝－65,660.00m

調査の手順は、表土掘削・遺構確認・杭打ち測量・遺構精査・写真撮影・図面作成の順に行った。図面作成は、平板と遣り方を用いて、平面図は1/40・1/50・1/100、断面図は1/20・1/100の縮尺で作図を行った。遺物については遺物分布平面図を作成し、遺物台帳に記載し、付番処理して取り上げた。遺構等の写真撮影は、35㎜モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を使用した。

2　調査経過

調査は、市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。10月30日、調査範囲の確認のため立会を行う。11月11日に調査の開始にあたり休憩所、仮設トイレ等の設置、資材、重機等を搬入した。調査区南側の道路沿いに安全対策用防護ネット、東側及び西側にはロープを設置して調査準備を行った。

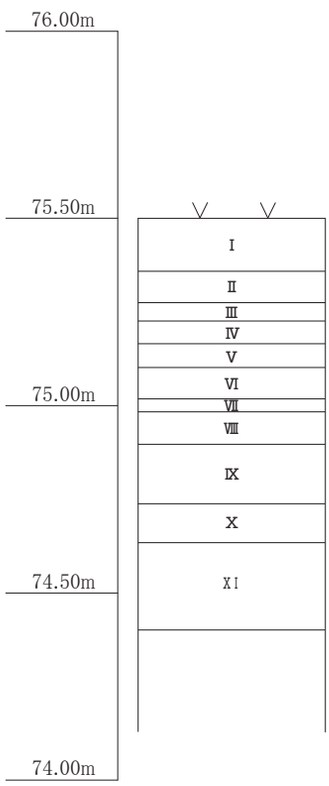
11月14日、１面の表土掘削は、試掘の結果、遺構の残り具合がよく調査面積が広い７・８区の南側から、バックホウ（0.45）により開始した。残土運搬には10ｔ・６ｔキャリーを使用した。11月18日、基準点からグリッド杭の測設を行い、図面作成作業を進めた。１月中旬には６区１面の発掘調査も大詰めに入り、１月17日、１面の終了検査を受け、空中写真撮影を行った。

２面のトレンチ調査は、１月19日に６区から始め、７区・８区へと進めた。２月12日、プラント・オパール分析のため、土壌サンプル採取を４ヶ所で行なった。２月16日に最終検査を受け、平成21年３月10日をもって、調査をすべて終了した。

Ⅳ　層　　序

本遺跡の基本土層は、７・８区の南壁側に入れた深掘りトレンチをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また圃場整備のため、ほとんどの調査区でAs-A軽石は、現耕作土にすき込まれていた。さらに、一部の調査区では、As-B軽石も同様にすき込まれていた。地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第４図に示したとおりである。

第Ⅳ層が浅間山起因のAs-B軽石層でその直下の第Ⅴ・Ⅵ層が平安時代末期水田跡の土層である。また、第Ⅷ層が浅間山起因のAs-C軽石層である。土層断面写真は、図版15を参照されたい。



（土層注記）

Ⅰ．黒褐色土層（2.5Y3/2）粘締弱　As-A軽石（φ１～２㎜）を７％含む

Ⅱ．黒褐色土層（2.5Y3/2）粘締中　As-A軽石（φ１～２㎜）を５％、As-B軽石をやや多く含み、赤褐色の酸化跡あり

Ⅲ．黒褐色土層（2.5Y3/2）粘締中　As-A軽石（φ１～２㎜）を２％、As-B軽石を非常に多く含み、赤褐色の酸化跡あり

Ⅳ．鈍い黄褐色（10YR4/3）～褐灰色（10YR4/1）粘なし締中　As-B軽石層

Ⅴ．黒褐色粘質土層（10YR3/1）粘締強

Ⅵ．褐灰色粘質土層（10YR4/1）粘締強　赤褐色の酸化跡あり

Ⅶ．黒褐色粘質土層（10YR3/1）粘締強　As-C軽石を少量含む

Ⅷ．褐灰色砂質土層（10YR6/1）粘なし締弱　As-C軽石層

Ⅸ．黒色粘質土層（10YR2/1）粘締強

Ⅹ．黒褐色粘質土層（10YR3/1）粘締強　白色軽石（φ１～２㎜）を３％含む

Ⅺ．鈍い黄褐色粘質土層（10YR5/3）粘締強　白色軽石（φ１～２㎜）を７％含む

第４図　基本土層断面図

Ⅴ　調査の概要

本遺跡の調査では、まず基本土層Ⅳ層（As-B 軽石）まで除去して、第１面で中・近世と平安時代の遺構を調査し、次の第２面では幅３ｍのトレンチを入れてⅥ層まで除去し、古墳時代の遺構を調査した。

１面２面で確認した中近世の遺構は、６区２面から溝跡３条と土坑１基、７区１面で溝跡１条、２面から溝跡３条、土坑１基、ピット１基、７・８区１面から溝跡７条・土坑５基・ピット98基がある。

平安時代の遺構は、６区、７区、７・８区１面でＢ軽石下水田跡、古墳時代の遺構は、７・８区２面で溝跡１条・ピット10基がある。

Ⅵ　検出された遺構と遺物

１　古墳時代、平安時代　、中・近世の調査

⑴　溝（６区、７区、７・８区）

Ｗ－１号溝〔第15・16・21・24図、図版８・11〕

位置は７・８区１面のＸ428、Ｙ132・133～Ｘ449、Ｙ133グリッドで検出された。走行方向は、西から東へ（Ｎ―92°―Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は82.73m、上幅0.75～1.80m、底幅0.20～0.70m、深さ0.21～0.33mである。掘り込みは基本土層のＩ層下からでほかの遺構との重複関係は、Ｗ－２・４・８と重複しているが、これらの遺構に対して後出でＷ－３とはほぼ同じと思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、西75.06m～中央74.02m～東74.95mからも西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は黄褐色土と As-A 軽石を含む灰黄褐色土で埋っている。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・ガラス・鉄製品等の破片である。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡（県事業団調査）Ｃ区２号溝と結合する。

Ｗ－２号溝〔第16・24図、図版８・11〕

位置は７・８区１面のＸ445、Ｙ135～Ｘ449、Ｙ133グリッドで検出された。走行方向は、東から西へ（Ｎ―84°―Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は19.24m、上幅0.40～0.70m、底幅0.10～0.33m、深さ0.18～0.25mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からと思われ、ほかの遺構との重複関係は、Ｗ－１と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。水路として使われた可能性が高く底の標高差、東75.06m～西74.97mからも東から西へ水が流れていたと考えられる。埋土は As-A 軽石を含む灰黄褐色土でＷ－１に切られている。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・磁器・鉄製品・砥石等の破片である。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。

Ｗ－３号溝〔第16・20・24図、図版11〕

位置は７・８区１面のＸ446、Ｙ133～Ｘ445・446、Ｙ141グリッドで検出された。走行方向は北から南へ（Ｎ－２°―Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は33.48m、上幅1.35～1.90m、底幅0.30～1.20m、深さ0.29～0.36mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係は、Ｗ－１・２・５・６と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構がＷ－２・５より後出でＷ－１とはほぼ同じと思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北74.93m～南74.83mを測り北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土は As-A 軽石を含む褐灰色土層で自然堆積である。出土遺物は土師器・

須恵器・陶磁器・磁器・灰釉・軟質陶器・砥石・ビニール等の破片である。以上のことから本遺構は土地改良前の水路と考えられる。

W－４号溝〔第15・21・24図、図版11〕

位置は７・８区１面のＸ432、Ｙ133～Ｘ432、Ｙ134グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ（Ｎ－４°－W）と推定される。検出全長は6.53m、上幅0.38～0.82m、底幅0.10～0.28m、深さ0.03～0.11mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係は、W－１、W－５と重複しW－１より前出でW－５とほぼ同時期と思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北75.27m～南75.25mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を多く含む暗褐色土層で自然堆積である。出土遺物は土師器・陶器の破片が９点である。以上のことから本遺構は近世頃の水田等に伴う水路と考えられる。

W－５号溝〔第15・16・21・24図、図版11〕

位置は７・８区１面のＸ428、Ｙ133～Ｘ445、Ｙ133グリッドで検出された。走行方向は西から東へ（Ｎ－91°－Ｅ）と推定され、西側は調査区外に延びている。検出全長は［68.95m］、上幅0.24～1.00m、底幅0.08～0.60m、深さ0.01～0.11mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係は、W－４、W－８と重複しているが、これらの遺構に対して、本遺構がW－４とほぼ同時期と思われW－８より前出と思われる。水路として使われた可能性が高く底の標高差、西75.31m～東75.24mで西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を多く含む灰黄褐色土層で自然堆積である。出土遺物は磁器の破片が１点である。以上のことから本遺構は近世頃の水田等に伴う水路と考えられる。

W－６号溝〔第16・20図、図版12〕

位置は７・８区１面のＸ446、Ｙ134～Ｘ448、Ｙ134グリッドで検出された。走行方向は東から西へ（Ｎ－88°－Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は7.17m、上幅0.32～1.00m、底幅0.10～0.65m、深さ0.04～0.07mである。ほかの遺構との重複関係は、W－３と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が前出である。水路として使われた可能性が高く底の標高差、東75.15m～西75.12mで東から西へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む黄褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。また、下阿内前田遺跡（県事業団調査）Ｃ区１号溝と結合する。

W－７号溝〔第12・14図、図版４〕

位置は７区北端１面のＸ427、Ｙ98～Ｘ427、Ｙ99グリッドで検出された。走行方向は北から南へ（Ｎ－23°－W）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は2.0m、上幅0.78～0.85m、底幅0.26～0.35m、深さ0.13～0.18mである。掘り込みは基本土層のⅢ層からでほかの遺構との重複関係はない。水路として使われた可能性が高く底の標高差、北75.68m～南75.63mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む暗褐色砂質土と黒褐色粘性土である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内壱町畑遺跡（県事業団調査）７区19号溝と結合する。

W－８号溝〔第15・24図、図版12〕

位置は７・８区１面のＸ438、Ｙ133～Ｘ438、Ｙ135グリッドで検出された。走行方向は北から南へ（Ｎ－

５°―W）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は7.39m、上幅1.30～1.60m、底幅0.65～1.10m、深さ0.10～0.13mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係は、W―１、W―５と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構はW―１より前出でW―５より後出と思われる。水路として使われた可能性が高く、地形的に北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む灰黄褐色・褐灰色土で自然堆積である。出土遺物は土師器１点・陶器１点である。以上のことから本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。

W―９号溝〔第８・11図、図版２〕

位置は６区２面のX361・362、Y61グリッドで検出された。走行方向は北から南へ（N―４°―W）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.05m、上幅［0.78～2.80］m、底幅［0.28～2.23］m、深さ0.75mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係は、W―11と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、北75.86m～南75.76mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土はAs-A軽石を含む灰黄褐色・にぶい黄褐色土で自然堆積である。出土遺物は黒色土器１点である。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。

W―10号溝〔第８・11図、図版２〕

位置は６区２面のX364、Y62グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ（N―６°―W）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.02m、上幅1.00～1.27m、底幅0.46～0.57m、深さ0.27～0.35mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係はないが西側にW―９・11が位置する。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、南76.15m～北76.14mで比高差がなく地形的には、北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・にぶい黄褐色・黒褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は土地改良前の水田等に伴う水路と考えられる。

W―11号溝〔第８・11図、図版２〕

位置は６区２面のX361、Y61～X363、Y61グリッドで検出された。走行方向は北から南への走行と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.00m、上幅（12.40）m、底幅（7.50）m、深さ（0.65）mである。掘り込みは２面の確認面を掘り込んでいる。ほかの遺構との重複関係は、W―９と重複し掘り込まれており、これらの遺構に対して本遺構が前出である。水路として使われた可能性が高く、底の標高差、北75.92m～南75.90mで北から南へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・黒褐色土で砂を多く含み自然堆積である。出土遺物は黒色土器１点・結晶片岩１点である。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。

W―12号溝〔第13・14図、図版４・５〕

位置は７区２面のX432・433、Y105グリッドで検出され北側は試掘トレンチにあたる。走行方向は西から東への走行と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.36m、上幅［0.48～0.72］m、底幅［0.30～0.45］m、深さ0.28～0.34mである。掘り込みは基本土層のⅡ層からでほかの遺構との重複関係はないが南側にW―13・14が近接する。水路として使われた可能性が高く、地形的に西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は灰黄褐色・褐色・暗褐色土で砂を多く含み自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから、本遺構は近世以降の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡（県事業団調査）D

区１号溝と結合する。

Ｗ―13号溝〔第13・14図、図版４・５〕

位置は７区２面のＸ432・433、Ｙ105グリッドで検出された。走行方向は西から東へ（Ｎ―88°～116°―Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は3.69m、上幅0.50～0.55m、底幅0.20～0.23m、深さ0.03～0.05mである。掘り込みは基本土層のⅢ層からでほかの遺構との重複関係はないが、北側にＷ―12、南側にＷ―14が近接する。水路として使われた可能性が高く底の標高差では、西75.54m～東75.52mで西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は白色軽石を含む灰黄褐色土で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡（県事業団調査）Ｄ区２ａ号溝と結合する。

Ｗ―14号溝〔第13・14図、図版５〕

位置は７区２面のＸ432・433、Ｙ105グリッドで検出された。走行方向は西から東へ（Ｎ―94°―Ｅ）と推定され調査区外に延びている。検出全長は3.46m、上幅0.34～0.40m、底幅0.13～0.15m、深さ0.04～0.05mである。掘り込みは基本土層のⅢ層からでほかの遺構との重複関係はないが、北側にＷ―12・13が近接する。水路として使われた可能性が高く底の標高差では東西で75.53mと同じであるが、地形的に西から東へ水が流れていたと考えられる。埋土は褐色砂質土で自然堆積である。出土遺物は土師器の小片がある。以上のことから本遺構は中世から近世の水田等に伴う水路と考えられる。また下阿内前田遺跡（県事業団調査）Ｄ区２ｂ号溝と結合する。

Ｗ―15号溝〔第24・25・26図、図版14〕

位置は７・８区２面のＸ428、Ｙ132～Ｘ444、Ｙ123・124グリッドで検出された。走行方向は東北東から西南西へ（Ｎ―60°―Ｅ）と推定され、調査区外に延びている。検出全長は71.55m、上幅〔1.35〕～〔3.20〕m、底幅〔1.48〕～〔2.81〕m、深さ0.05～0.14mである。掘り込みは基本土層のⅦ層からでほかの遺構との重複関係はないが、２面の確認面を掘り込んでいる。水路として使われた可能性が高く底の標高差では東北東75.10mと西南西75.09mで差はないが、地形的に東北東から西南西へ水が流れていたと考えられる。埋土はにぶい黄褐色・暗褐色・黒褐色土層で自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから、本遺構はＢ水田下層より検出したことから、それより前出の古墳時代から平安時代にかけての水路と考えられる。

⑵　土坑（６区・７区、７・８区）

Ｄ―１号土坑〔第15・19図、図版９〕

位置は７・８区１面のＸ429、Ｙ133・134グリッドで検出された。平面形は上位楕円型、中位円形状に掘られ、大きさは長軸2.35×短軸1.78m、深さは0.86mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からで、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して、本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。出土遺物はガラス・鉄塊である。以上のことから本遺構は近世以降と考えられる。

Ｄ―２号土坑〔第15・19図、図版10〕

位置は７・８区１面のＸ437、Ｙ133グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ大きさは長軸1.12×短軸0.81m、深さは0.30mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土はAs-B軽石を含む。

遺物は土師器の小片１点と拳大の石が南壁底面付近から出土している。以上のことから本遺構は、中世以降の土坑と考えられる。

Ｄ－３号土坑〔第15・19・21図、図版10〕

位置は７・８区１面のＸ431、Ｙ129・130グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ、大きさは長軸1.37×短軸0.92m、深さは0.20mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土は As-B 軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世以降の土坑と考えられる。

Ｄ－４号土坑〔第15・19・21図〕

位置は７・８区１面のＸ433、Ｙ128グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは長軸1.02×短軸0.57m、深さは0.12mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土は As-B 軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世以降の土坑と考えられる。

Ｄ－５号土坑〔第15・19・21図、図版10〕

位置は７・８区１面のＸ434、Ｙ133グリッドで検出された。平面形は不定形状に掘られ、大きさは長軸1.34×短軸1.15m、深さは0.38mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土は As-B 軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

Ｄ－６号土坑〔第８・10図、図版２〕

位置は６区２面のＸ360、Ｙ61グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは長軸0.95×短軸0.54m、深さは0.15mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、これらの遺構に対して本遺構が後出である。埋土は As-B 軽石を含む。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

Ｄ－７号土坑〔第13・14図、図版５〕

位置は７区２面のＸ438、Ｙ118グリッドで検出された。平面形は（楕円形）状に掘られ、大きさは長軸0.86×短軸〔0.38〕m、深さは0.82mである。掘り込みは基本土層のⅤ層より上層からでほかの遺構との重複関係は、Ｂ軽石下水田と重複しているが、その遺構に対して本遺構が後出である。埋土は As-B 軽石を含み自然堆積である。出土遺物はない。以上のことから本遺構は中世の土坑と考えられる。

⑶　ピットについて（７区、７・８区）

７・８区の１面で98基、７区の２面で１基、７・８区の２面で10基の計109基を検出した。形状は円形、楕円形、不定形、双円形で長径23～169㎝、短径16～119㎝、深さ６～36㎝を測る。また、掘り込みは基本土層のⅤ層（Ｂ水田層）で確認したものが多く、埋土に As-B 軽石を含むものが多い。また各ピットの位置は、７・８区のＸ431～435、Ｙ129～132グリッド範囲に集中して見られ、その他は数基単位で位置する。その中で部分的に列状に並ぶものがＰ－48・49・52・54・91などがあり、東西間約3.20～3.30m、南北間約1.35～1.40mの間隔が見られ、形状や掘り込みなども類似していた。他の遺構との関連については掘立柱建

物などに付随するものか不明な点が残る。また１面で検出したものの構築面としては、As-B 軽石を含むことから As-B 軽石層より上面で、中世～近世にかけてのものと推測され、２面で検出したものは、B 水田以前に位置するものと推測される。いずれの面においても性格や利用の状況確認はむずかしく、検出状況のみの報告となった。ピットの計測値は、第２表　ピット計測表にまとめて報告する。

第２表　ピット計算表　　（　　）は検出値を表す。

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備　　考
P－1	X443，Y140	61	55	14	楕円形	7・8区1面
P－2	X441，Y140	62	44	11	楕円形	7・8区1面
P－3	X438，Y139	50	50	10	円　形	7・8区1面
P－4	X437，Y140	61	38	12	楕円形	7・8区1面
P－5	X432，Y138	68	44	9	楕円形	7・8区1面
P－6	X432，Y138	90	52	14	楕円形	7・8区1面
P－7	X431，Y139	47	45	13	円　形	7・8区1面
P－8	X430，Y139	52	40	10	楕円形	7・8区1面
P－9	X430，Y140	51	43	13	円　形	7・8区1面
P－10	X430・431，Y141	50	36	14	楕円形	7・8区1面
P－11	X430，Y141	38	32	12	楕円形	7・8区1面
P－12	X429，Y141	48	43	10	円　形	7・8区1面
P－13	X436，Y125	53	41	16	楕円形	7・8区1面
P－14	X437，Y125	86	48	20	楕円形	7・8区1面
P－15	X439，Y125	52	40	19	楕円形	7・8区1面
P－16	X438，Y128	59	40	14	楕円形	7・8区1面
P－17	X438，Y128	47	33	12	楕円形	7・8区1面
P－18	X438，Y128	32	23	14	楕円形	7・8区1面
P－19	X439，Y128	32	30	13	円　形	7・8区1面
P－20	X442，Y126	41	29	19	楕円形	7・8区1面
P－21	X442，Y125	55	39	9	楕円形	7・8区1面
P－22	X441，Y124	57	25	18	双円形	7・8区1面
P－23	X436，Y129	63	46	12	楕円形	7・8区1面
P－24	X444，Y128	45	38	10	円　形	7・8区1面
P－25	X443，Y131	72	42	12	楕円形	7・8区1面
P－26	X432，Y136・137	82	40	11	楕円形	7・8区1面
P－27	X432，Y135	64	45	14	楕円形	7・8区1面
P－28	X431，Y133	37	35	15	円　形	7・8区1面
P－29	X429，Y136	41	39	13	円　形	7・8区1面
P－30	X430，Y133	64	47	14	楕円形	7・8区1面
P－31	X445，Y127	49	39	7	楕円形	7・8区1面
P－32	X446，Y140	51	38	8	楕円形	7・8区1面
P－33	X447，Y139	46	33	19	楕円形	7・8区1面
P－34	X447，Y137	37	33	11	円　形	7・8区1面
P－35	X442，Y138	51	46	10	円　形	7・8区1面
P－36	X443，Y136	60	34	9	楕円形	7・8区1面
P－37	X442，Y136	63	47	12	楕円形	7・8区1面
P－38	X442，Y136	65	41	9	楕円形	7・8区1面
P－39	X442，Y135	169	119	12	不定形	7・8区1面
P－40	X441，Y136	103	28	14	楕円形	7・8区1面
P－41	X440，Y137	68	51	13	楕円形	7・8区1面
P－42	X440，Y137	44	27	14	楕円形	7・8区1面
P－43	X440，Y138	54	29	13	楕円形	7・8区1面
P－44	X436，Y133	40	25	17	楕円形	7・8区1面
P－45	X428，Y131	39	35	20	円　形	7・8区1面
P—46	X429，Y131	43	37	21	円　形	7・8区1面
P—47	X429，Y131	37	28	27	不定形	7・8区1面
P—48	X431，Y130	43	38	18	円　形	7・8区1面
P—49	X431，Y131	34	31	26	円　形	7・8区1面
P—50	X431，Y131	26	25	18	円　形	7・8区1面

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備　　考
P―51	X432，Y130	39	30	28	楕円形	7・8区1面
P―52	X432，Y130	39	39	20	円　形	7・8区1面
P―53	X432，Y131	26	16	19	楕円形	7・8区1面
P―54	X432，Y131	39	32	17	円　形	7・8区1面
P―55	X429，Y132	32	20	7	楕円形	7・8区1面
P―56	X429，Y131	26	24	8	円　形	7・8区1面
P―57	X430，Y131	26	25	14	円　形	7・8区1面
P―58	X432，Y128	28	18	8	楕円形	7・8区1面
P―59	X431，Y129	35	28	7	楕円形	7・8区1面
P―60	X428，Y131	34	31	36	円　形	7・8区1面
P―61	X432，Y131	23	20	13	円　形	7・8区1面
P―62	X432，Y130	29	27	26	円　形	7・8区1面
P―63	X432，Y130	24	20	23	円　形	7・8区1面
P―64	X433，Y130	37	31	14	円　形	7・8区1面
P―65	X431，Y129	43	29	10	楕円形	7・8区1面
P―66	X433，Y130	23	22	8	円　形	7・8区1面
P―67	X433，Y130	40	26	14	楕円形	7・8区1面
P―68	X432・433，Y131	30	30	11	円　形	7・8区1面
P―69	X433，Y131	32	23	14	楕円形	7・8区1面
P―70	X433，Y131	29	25	22	円　形	7・8区1面
P―71	X433，Y132	37	24	18	楕円形	7・8区1面
P―72	X433，Y132	29	19	14	楕円形	7・8区1面
P―73	X433・434，Y132	39	26	8	楕円形	7・8区1面
P―74	X433・434，Y131	30	26	11	円　形	7・8区1面
P―75	X434，Y131	34	27	31	楕円形	7・8区1面
P―76	X433，Y132	23	18	20	楕円形	7・8区1面
P―77	X434，Y131	35	30	21	円　形	7・8区1面
P―78	X433，Y129	27	24	6	円　形	7・8区1面
P―79	X434，Y131	42	36	12	楕円形	7・8区1面
P―80	X434，Y131	25	22	24	円　形	7・8区1面
P―81	X434，Y130	28	27	23	円　形	7・8区1面
P―82	X434，Y132	50	45	13	円　形	7・8区1面
P―83	X435，Y131	37	31	22	円　形	7・8区1面
P―84	X435，Y131	31	24	14	楕円形	7・8区2面
P―85	X435，Y131	33	25	16	楕円形	7・8区3面
P―86	X434，Y131	25	23	14	円　形	7・8区1面
P―87	X434，Y130	29	25	19	円　形	7・8区1面
P―88	X434，Y130	29	29	16	円　形	7・8区1面
P―89	X433，Y130	30	25	31	円　形	7・8区1面
P―90	X434，Y130	45	30	10	楕円形	7・8区1面
P―91	X433，Y130	35	33	23	円　形	7・8区1面
P―92	X432，Y130	28	26	16	円　形	7・8区1面
P―93	X432，Y130	37	37	11	円　形	7・8区1面
P―94	X434，Y132	(42)	28	9	楕円形	W―1に切られる　7・8区1面
P―95	X434，Y131	29	20	18	楕円形	7・8区1面
P―96	X435，Y128	50	26	20	楕円形	7・8区1面
P―97	X437，Y132	55	43	12	楕円形	7・8区1面
P―98	X435，Y125	64	44	17	楕円形	7・8区1面
P―99	X440，Y119	52	50	13	円　形	7・8区2面
P―100	X437，Y125	39	23	15	楕円形	7・8区2面
P―101	X432，Y128	52	48	18	円　形	7・8区2面
P―102	X436，Y133	35	35	10	円　形	7・8区2面
P―103	X436，Y134	31	31	20	円　形	7・8区2面
P―104	X434，Y134	80	50	12	楕円形	7・8区2面
P―105	X442，Y125	60	46	13	楕円形	7・8区2面
P―106	X440，Y130	45	36	14	楕円形	7・8区2面
P―107	X445，Y133	60	46	9	楕円形	7・8区2面
P―108	X424，Y141	62	47	10	楕円形	7・8区2面
P―109	X438，Y118	32	29	24	円　形	7区2面

⑷　As-B 軽石下水田跡（６区、７区、７・８区）

６区、７区、７・８区の１面で As-B 軽石下水田を検出した。Ｂ水田面を覆う As-B 軽石層（基本土層Ⅳ）は４～８㎝の堆積が見られるが、部分的に西壁、南壁側の一部で検出されない区画もあった。さらに後世の耕作や圃場整備等で区画整備されているためか、現耕作土からＢ水田面までの堆積土層は薄い。全体で66面検出した水田区画の状態は、畦畔と水田面との比高差が小さく不明な区画もあり、完全に１区画の面積を計測できるものは、最小50号水田の30.25㎡、最大36号水田の167.48㎡などがあり、大きさに規則性は見られない。さらに水田を区画する畦畔については、南北方向で直進性が見られ座標北に近い、東西方向は直進する畦畔はわずかで南北に比べて少ない。大畦畔については、７・８区の東側に南北方向のものが１本検出された。規模は上幅60～230㎝、下幅（70）～283㎝で高さ１～８㎝を測り、他の畦畔とは規模がことなることがわかる。また、中央に溝状のくぼみがあり上幅40～83㎝、下幅８～15㎝、深さ２～5.5㎝を測り、Ｗ―１・２号溝を挟んで北側に見られる。南側はＷ―３号溝と重複し、大畦畔の大部分が掘り込まれている関係で溝状のくぼみは不明である。

この大畦畔は条里制地割りに伴う坪境畦畔と思われ、区画割りを見ると南北方向間では、大畦畔から西側の小畦畔間隔で、20～24ｍ間隔を測り12間（21.8ｍ）に近い、南北方向畦畔を区切る東西方向畦畔では、Ｗ―１・２号溝から北側の19号畦畔の一部で、南北間が30間（54.5㎜）の区割りに近い状況も見られたが規則性はない。また条里制区画割りの半折型と長池型に合せると、南北方向の畦畔は直進する長い畦畔が残り、間隔的には半折型に近いものと推測でき、東西方向畦畔では、南北方向畦畔を細分する状況は見られたがはっきりしない。この状況は、付近で調査された As-B 水田区画や、検出された大畦畔などとの係わりが推測でき、付近の調査事例に合せてみると条理水田の広がりが確認できた。

また水口については、畦畔と水田面との比高差から見て低い畦畔が多い中で、19・20号水田間の24号畦畔に１箇所痕跡が見られた。さらに水田面には、足跡や株物跡等の痕跡は検出されなかった。また水田に引水するための水路、溝跡などの検出はなく７・８区に限っては、北側の16号水田で標高75.45ｍ、南東側の66号水田で75.10ｍを測り、この標高差から見て北から南東方向へ配水したと考えられる。

As-B 水田の計測値は、第３表、第４表にまとめて報告する。

参考文献

西田遺跡	1996	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
宮地中田遺跡	1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西田Ⅱ遺跡	1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西田Ⅲ遺跡	1999	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西田Ⅳ遺跡	1999	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
鶴光路練引遺跡	1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
下阿内壱町畑遺跡	2001	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
下阿内前田遺跡	2001	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
村中遺跡	2002	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
西田遺跡	2002	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第３表　水田計測表　　（　　）は検出値を表す。

水田№	面積(m²)	東畦(m)	西畦(m)	南畦(m)	北畦(m)	備　　考
1	(16.37)	(2.37)		(9.36)		６区１面
2	(4.36)	(0.78)			(9.36)	６区１面
3	(20.83)	(2.23)	(2.37)	(11.12)		６区１面
4	(3.58)	(0.76)	(0.78)		(10.05)	６区１面
5	(13.85)	(3.53)	(2.23)	(9.28)		６区１面
6	(9.42)	(3.78)	(0.76)		(10.34)	６区１面
7	(25.55)	(3.13)	(3.53)	(11.53)		６区１面
8	(39.74)	(4.15)	(3.78)		(11.53)	６区１面
9	(21.65)		(3.13)	(12.88)		６区１面
10	(118.01)	(7.14)	(4.15)		(12.88)	６区１面
11	(69.11)		(7.14)			６区１面
12	(28.53)	(2.20)				７区１面
13	(45.93)		(2.20)	(3.24)		７区１面
14	(35.32)			(3.09)	(3.24)	７区１面
15	(24.68)				(3.09)	７区１面
16	(14.93)	(4.42)		(3.94)		７・８区１面
17	(20.62)	5.84		(6.49)	(3.94)	７・８区１面
18	(61.20)		(9.52)	(10.23)		７・８区１面
19	(3.46)	(2.29)		(3.40)		７・８区１面
20	(42.81)	6.12	(2.42)	9.76	(6.49)	７・８区１面
21	(75.93)		6.86	(15.75)	(10.23)	７・８区１面
22	(31.92)	3.30		(16.37)	(13.16)	７・８区１面
23	(15.00)	(6.37)		(6.48)		７・８区１面
24	(59.12)	6.48	(6.37)	9.05	(6.69)	７・８区１面
25	38.00	4.70	5.20	10.80	9.68	７・８区１面
26	53.76	5.86	6.05	11.37	10.80	７・８区１面
27	164.36	13.92	13.86	17.35	10.97	７・８区１面
28	(41.86)		13.92	(4.80)	(4.78)	７・８区１面
29	(0.41)	(1.24)		(2.46)		７・８区１面
30	(11.44)	5.29		(4.19)	(2.46)	７・８区１面
31	(20.27)	(5.34)			(4.19)	７・８区１面
32	(0.64)	(1.25)		(2.52)		７・８区１面
33	(21.79)	4.54	(1.24)	8.78	(1.26)	７・８区１面
34	(129.32)	8.53	(7.04)	15.90	(6.48)	７・８区１面
35	64.05	10.80	8.53	7.91	9.05	７・８区１面
36	167.48	8.79	5.29	23.32	24.68	７・８区１面
37	(101.33)	(8.76)	(5.34)		23.32	７・８区１面
38	59.09	8.92	9.92	7.25	7.91	７・８区１面
39	(40.49)	(5.52)	(7.63)		7.25	７・８区１面
40	(240.79)	(24.93)	(20.47)		11.37	７・８区１面
41	(310.05)	(8.75)	18.36	25.66	(22.15)	７・８区１面
42	(244.93)	(15.63)	(6.57)		25.66	７・８区１面
43	(1.78)		(4.04)	(1.91)		７・８区１面
44	(71.80)		17.42		(1.91)	７・８区１面
45	(9.13)	(5.38)		(1.75)		７・８区１面
46	(12.49)	10.28		(2.06)	(1.75)	７・８区１面
47	(14.03)	(3.94)				７・８区１面
48	(85.81)	(13.05)	(3.94)		(2.06)	７・８区１面
49	(37.57)	(6.10)	(8.86)	6.17		７・８区１面
50	30.25	6.72	6.80	5.92	6.17	７・８区１面
51	(67.74)	(12.32)	(13.05)		5.92	７・８区１面
52	(204.03)	(13.48)	(12.81)	15.85		７・８区１面
53	(92.40)	(13.91)	(13.48)	8.05		７・８区１面
54	(265.48)	(11.23)	(12.32)		23.90	７・８区１面
55	(216.46)	(15.73)	(13.91)	17.51		７・８区１面
56	(171.97)	(10.07)	(11.23)		17.51	７・８区１面
57	(90.83)	(7.70)	(9.25)	10.18		７・８区１面
58	57.84	8.23	6.48	9.17	10.18	７・８区１面
59	(65.94)	(6.68)	(7.70)	9.92		７・８区１面
60	81.45	9.55	8.23	10.11	9.92	７・８区１面
61	(170.03)	(9.13)	(10.07)		19.28	７・８区１面
62	(124.78)		(21.52)	(6.10)		７・８区１面
63	(60.20)		(11.28)		(6.10)	７・８区１面
64	(5.80)					７・８区１面
65	(330.30)	(11.92)				７・８区１面
66	(32.48)		(11.92)			７・８区１面

第４表　畦畔計測表　（　）は検出値、Ｅ－Ｗ－Ｎ－Ｓは東西南北を表す。

畦畔No.	グリッド	上端幅(cm)	下端幅(cm)	畦畔の高さ（cm）				走行方向	備　考
				北側	南側	東側	西側		
1	X340～342，Y62		67～82	—	2.0～4.5			W－E	6区1面
2	X342，Y61・62	43～47	80～87			0.5～2.5	0.5～1.0	N－S	6区1面
3	X342，Y62	54	92			2.5	0.5	N－S	6区1面
4	X342～345，Y62		68～79	—	1.0～4.0			W－E	6区1面
5	X345，Y62	59	84			3.0	3.0	N－S	6区1面
6	X345，Y61・62		72～80			—	—	N－S	6区1面
7	X345～347，Y61・62		42～65	—	2.5～5.0			W－E	6区1面
8	X347，Y60・61	42～58	114			1.0～1.5	2.5	N－S	6区1面
9	X347，Y61・62	33～51	70～86			2.5～3.5	1.5～5.0	N－S	6区1面
10	X347～350，Y61		68～83	—	1.0～4.0			W－E	6区1面
11	X350，Y60・61		88～96			2.0～3.0	—	N－S	6区1面
12	X350，Y61・62	50～57	89～101			3.0～4.0	1.0～6.0	N－S	6区1面
13	X350～353，Y60・61		81～113	—	1.0～4.0			W－E	6区1面
14	X356，Y60～62		73～104			—	1.5～4.0	N－S	6区1面
15	X425，Y99	55～70	105～115			3.0～5.0	1.5～3.0	N－S	7区1面
16	X429・430，Y99		50～70	—	—			W－E	7区1面
17	X430・431，Y102		60～80	—	—			W－E	7区1面
18	X440，Y119・120		54～64			—	—	N－S	7・8区1面
19	X439・440，Y120		(38～58)	—	—			W－E	7・8区1面
20	X440，Y120・121	27～62	94～108			1.0～3.0	1.0～2.0	N－S	7・8区1面
21	X438～440，Y121		82～96	—	1.5～4.0			W－E	7・8区1面
22	X440～442，Y121		66～91	(0.5～3.0)	(1.0～3.0)			W－E	7・8区1面
23	X440，Y121～123	56～70	(109～118)			(1.0～3.0)	2.0～3.5	N－S	7・8区1面
24	X437，Y122・123	36～46	88～92			2.0～2.5	1.5～2.5	N－S	7・8区1面
25	X436・437，Y123	30～62	82～99	3.5～6.0	1.5～2.0			W－E	7・8区1面
26	X437～440，Y123	(35～62)	91～100	3.0～5.0	(1.0～3.0)			W－E	7・8区1面
27	X440～442，Y123	40～85	70～137	2.0～3.0	2.0～4.5			W－E	7・8区1面
28	X442～444，Y123		86～104	—	2.0～5.0			W－E	7・8区1面
29	X440，Y123・124	(49～66)	83～98			(1.5)	(0.5)	N－S	7・8区1面
30	X436・437，Y124		62～123	—	0.5～2.5			W－E	7・8区1面
31	X437～440，Y124		76～106	—	2.0～4.0			W－E	7・8区1面
32	X435，Y124～126	58～73	103～110			1.0～3.0	1.0～2.0	N－S	7・8区1面
33	X437，Y124・125		98～108			—	1.0～2.0	N－S	7・8区1面
34	X437～440，Y125		75～107	—	1.5～4.0			W－E	7・8区1面
35	X440，Y124・125		98～118			(2.0～2.5)	—	N－S	7・8区1面
36	X442～444，Y123～126	33～67	62～110			1.0～5.0	1.0～3.0	N－S	7・8区1面
37	X433～435，Y126	(50)	82～104	(1.0)	(1.0～2.0)			W－E	7・8区1面
38	X435～437，Y125・126	37～84	104～140	1.0～2.5	1.0～4.0			W－E	7・8区1面
39	X437，Y125・126	(48～56)	92～108			(0.5～4.0)	(1.0)	N－S	7・8区1面
40	X440，Y125・126	60～70	102～111			0.5～3.0	0.5～2.5	N－S	7・8区1面
41	X437～440，Y126		74～98	—	1.0～5.0			W－E	7・8区1面
42	X440～444，Y126	24～63	63～124	0.5～3.5	1.5～3.0			W－E	7・8区1面
43	X444・445，Y126	36～56	93～95	1.0～3.0	1.0～3.5			W－E	7・8区1面
44	X429，Y129・130		109			1.5～2.5	—	N－S	7・8区1面
45	X428・429，Y130		82	—	2.0～3.5			W－E	7・8区1面
46	X429，Y130・131	27～39	84～86			3.0～4.0	3.0～4.0	N－S	7・8区1面
47	X428・429，Y131		84～101	3.0～4.5	—			W－E	7・8区1面
48	X431，Y127・128		86～95			—	—	N－S	7・8区1面
49	X431，Y128		82～119	—	—			W－E	7・8区1面
50	X429，Y128・129		84～99			—	—	N－S	7・8区1面

畦畔No.	グリッド	上端幅(cm)	下端幅(cm)	畦畔の高さ（cm）				走行方向	備　考
				北側	南側	東側	西側		
51	X429～431，Y129・130	(48)	90～105	(0.5～1.5)	(1.0～3.0)			W－E	7・8区1面
52	X431～435，Y128・129		82～107	—	—			W－E	7・8区1面
53	X429～435，Y130・131		62～107	—	—			W－E	7・8区1面
54	X429，Y131・132		99～116			—	—	N－S	7・8区1面
55	X435，Y126～128	34～50	87～96			1.0～3.0	1.0～3.0	N－S	7・8区1面
56	X435～437，Y128		68～100	—	—			W－E	7・8区1面
57	X435，Y128～130		75～116			—	—	N－S	7・8区1面
58	X435～437，Y130・131		67～74	—	—			W－E	7・8区1面
59	X435，Y131・132		67～88			—	—	N－S	7・8区1面
60	X437，Y126・128	48～91	56～104			—	—	N－S	7・8区1面
61	X437，Y128・130		77～106			—	—	N－S	7・8区1面
62	X437，Y130・132		(90～121)			—	—	N－S	7・8区1面
63	X440，Y126・131	(50～69)	96～114			(1.0～5.0)	(0.5～3.5)	N－S	7・8区1面
64	X440，Y131・133		82～120			—	—	N－S	7・8区1面
65	X440～446，Y129～131	40～68	86～115	1.0～3.0	2.5～5.5			W－E	7・8区1面
66	X446，Y127～129	60～83	194～211			3.5～5.5	2.5～6.0	N－S	7・8区1面
67	X446・447，Y128		70～80	—	2.0～3.0			W－E	7・8区1面
68	X446，Y129～133	160～230	190～283			1.0～8.0	1.0～5.0	N－S	7・8区1面
69	X429，Y134・135		(70～80)			—	—	N－S	7・8区1面
70	X428・429，Y135		107	—	—			W－E	7・8区1面
71	X429，Y135～138		87～112			(0.5～1.5)	—	N－S	7・8区1面
72	X428・429，Y138		126	—	—			W－E	7・8区1面
73	X429，Y138～141		84～134			1.0～3.0	—	N－S	7・8区1面
74	X424，Y141・142	32～48	69～86			2.0～4.0	1.0～2.0	N－S	7・8区1面
75	X430，Y135～137		(90～114)			—	—	N－S	7・8区1面
76	X429・430，Y136・137		82～102	—	—			W－E	7・8区1面
77	X430，Y137・138		86～100			—	—	N－S	7・8区1面
78	X429・430，Y138	35～71	68～110	(1.0～2.0)	(2.5～3.5)			W－E	7・8区1面
79	X430，Y138～141	32～50	89～96			1.0～2.0	1.0～3.0	N－S	7・8区1面
80	X430～434，Y138		62～93	—	—			W－E	7・8区1面
81	X434・435，Y135～138		(75～112)			—	—	N－S	7・8区1面
82	X434～436，Y138		71～91	—	—			W－E	7・8区1面
83	X436，Y135～138		(74～100)			—	—	N－S	7・8区1面
84	X436，Y138～141		79～99			—	—	N－S	7・8区1面
85	X436～441，Y138・139		70～90	—	—			W－E	7・8区1面
86	X440，Y135～137		(88～97)	—	—			N－S	7・8区1面
87	X440・441，Y137～139		87～112	—	—			N－S	7・8区1面
88	X441，Y139～141	34～76	60～97	1.0～3.5	2.0～3.0			N－S	7・8区1面
89	X440～443，Y137		75～85	—	—			W－E	7・8区1面
90	X441～443，Y139		65～87	—	(1.0～3.0)			W－E	7・8区1面
91	X443，Y135～137		(93～103)			—	—	N－S	7・8区1面
92	X443，Y137～139		71～105			—	—	N－S	7・8区1面
93	X443～445，Y137		62～90	—	—			W－E	7・8区1面
94	X443～445，Y139		66～115	—	—			W－E	7・8区1面
95	X446，Y133～138	(60～124)	(70～150)			(0.5～4.5)	—	N－S	7・8区1面
96	X443～448，Y138		(82～103)	—	—			W－E	7・8区1面
97	X446，Y138～141	(60～224)	(75～237)			1.0～3.5	—	N－S	7・8区1面
98	X452，Y138～141		71～100			—	—	N－S	7・8区1面

第５表　出土遺物観測表

遺物番号	台帳番号	器種	法量(cm)	①胎土②焼成③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	実測図	図版
1	７・８区 １面Ｓ－１	石	長さ13.1	幅9.4　厚さ6.1　重さ775ｇ	④一部欠、安山岩、２面使用痕	6	16
2	７・８区 １面Ｓ－２	石	長さ(16.2)	幅8.3　厚さ5.5　重さ1,005ｇ	④一部欠、凝灰岩	6	16
3	７・８区 １面Ｓ－３	石	長さ21.4	幅9.2　厚さ6.3　重さ1,785ｇ	④完形、安山岩	6	16
4	７・８区 １面Ｓ－５	砥石	長さ25.8	幅9.9　厚さ5.8　重さ2,436ｇ	④一部欠、安山岩、１面使用痕	6	16
5	７・８区 １面Ｓ－６	石	長さ9.4	幅6.9　厚さ4.5　重さ288ｇ	④割れ石、安山岩	6	16
6	７・８区 １面Ｓ－７	石	長さ11.1	幅6.8　厚さ6.5　重さ529ｇ	④割れ石、安山岩	6	16
7	７・８区 １面Ｓ－８	石	長さ8.7	幅5.5　厚さ5.9　重さ353ｇ	④割れ石、安山岩	6	16
8	７・８区 １面Ｓ－９	石	長さ10.7	幅7.2　厚さ7.0　重さ567ｇ	④割れ石、安山岩	6	16
9	７・８区 １面Ｓ－10	石	長さ24.8	幅12.7　厚さ8.0　重さ3,665ｇ	④完形、安山岩	6	16
10	６区１面 Ｓ－11	石	長さ23.1	幅12.9　厚さ9.6　重さ3,669ｇ	④完形、結晶片岩	6	16
11	７・８区１面 Ｘ434Ｙ139 グ№.３	砥石	長さ(10.7)	幅8.0　厚さ6.7　重さ866ｇ	④割れ石、安山岩、４面使用痕	6	16
12	６区２面 Ｗ－11一括	石	長さ(17.1)	幅7.9　厚さ3.0　重さ766ｇ	④一部欠、結晶片岩	6	16
13	７・８区２面Ｘ435 Ｙ133 グ№.５	石	長さ(11.4)	幅(4.8)　厚さ(2.4)　重さ160ｇ	④割れ石、結晶片岩	6	16
14	６区２面 Ｘ349Ｙ62 グ№.１	深鉢	長さ（7.4）	①細粒、石英②良好、酸化 ③7.5YR7/2明褐灰④破片	器面磨耗、縄文加曽利Ｅ－４か	6	16
15	６区２面 Ｘ349Ｙ62 グ№.２	深鉢	長さ（4.4）	①細粒、石英、黒色粒②良好、酸化 ③7.5YR7/2明褐灰④破片	器面磨耗、縄文加曽利Ｅ－４か	6	16
16	７・８区 ２面一括	壺	長さ（4.6）	①細粒、白色粒②良好、酸化 ③5YR6/6橙④破片	外面簾状文、波状文　内面ナデ　樽式土器	6	16

注）（　）は現存値を、各径はcm、台帳番号のグはグリッド、Ｓは石、Ｗは溝を表す。

Ⅶ　ま と め

1　As-B 水田と条里制について

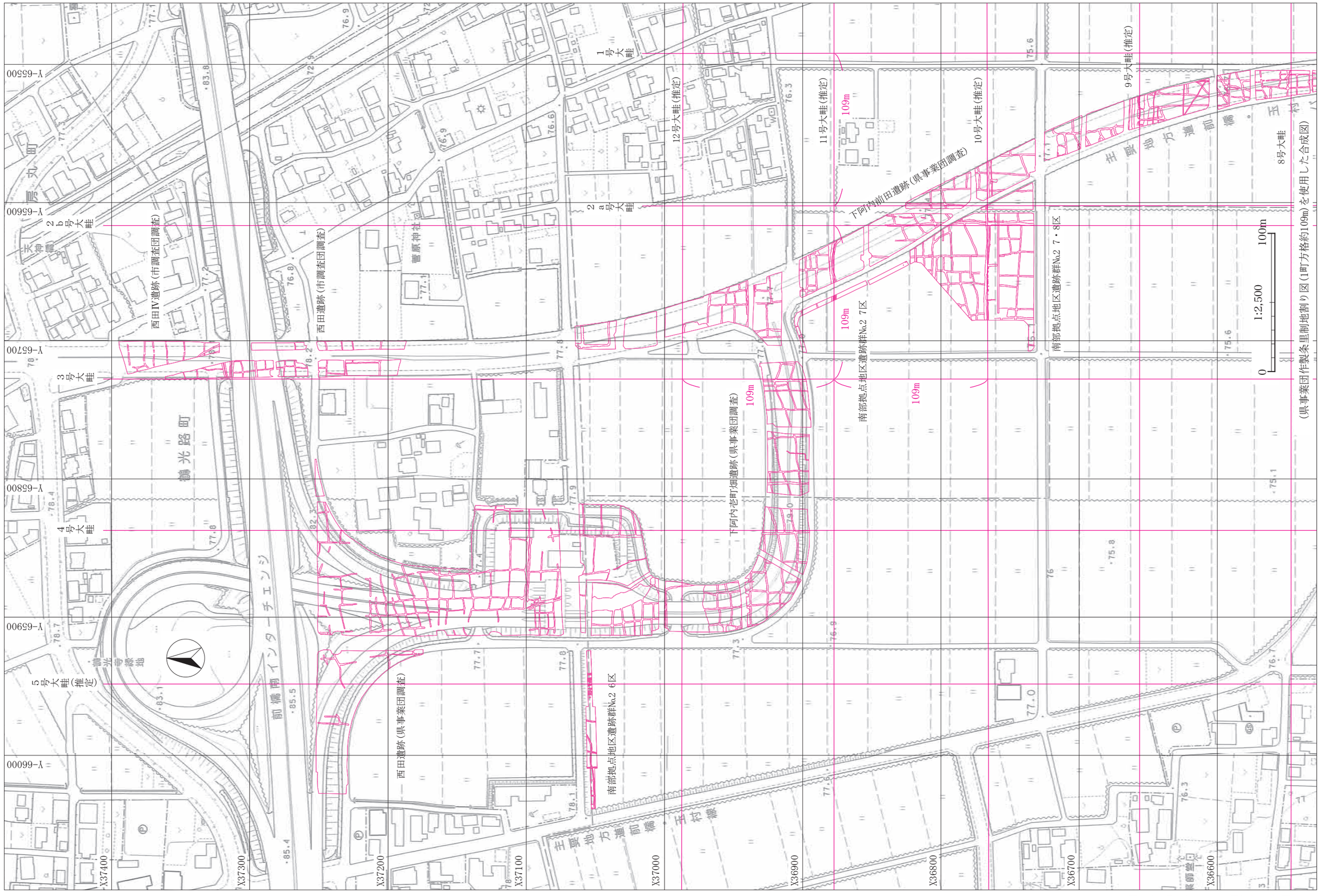
前橋台地の周辺では、大規模開発に伴い多くの古代水田の発掘調査が行われ、各時代ごとの水田跡が検出されている。その中で As-B 軽石で埋没した平安時代の水田跡は、律令制下の土地区画制度に基づく条里制があったことを裏付ける資料とされている。本遺跡を含め、As-B 水田は周辺遺跡の西田遺跡、村中遺跡、下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡（県事業団調査、以下県調査とする）などで検出されており、広範囲で確認されている。この時期の水田には条里制の土地割りを残している状況が考えられている。このため、水田の様相や地割り形態などの点について、周辺で検出された As-B 水田区画の大畦畔で１町方格（１町約109m）四方の条里地割り図上や内部形態の長地型、半折型について見ていきたい。

本遺跡の浅間Ｂ軽石下水田跡は、隣接する下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡（県調査）の調査で検出した As-B 水田と同じであり、県調査では大畦畔（坪境畦畔）５本（１・３・４・７・８号大畦）と７本の大畦畔推定ライン上には中世・近世～近代の溝等が確認されている。

本遺跡の７・８区でも南北方向の大畦畔が１本検出されており、この状況を県調査の発掘成果図に合成すると、第５図 As-B 下水田と条里制地割り図の結果となった。またその現況は、検出した大畦畔とＷ－１・２号溝が交差する（Ｘ446、Ｙ133グリッド内）所から条里制地割り図に合せてみると、南北方向の大畦畔は、北に位置する南北方向の２ｂ号大畦（県調査では、同じく東側に２ａ号大畦が検出され２本が並行する）と方向が同じで延長上にあることが確認された。また東西方向では、11号大畦（県調査推定）から約109m南に本調査区のＷ－１・２号溝（近世以降）があり、その延長上に10号大畦（県調査推定）ラインがある。この状況は11号大畦畔推定ライン上に確認された、中世・近世～近代の溝（下阿内前田遺跡の１号溝・２ａ・２ｂ号溝）が構築されている状況と，本遺跡のＷ－１・２号溝の状況とが同じで、10・11号推定大畦畔ラインの位置には、後世では溝が作られたと推測される。本遺跡の大畦畔とＷ－１・２号溝の位置は、条里地割りにあてはまる状況がうかがえ、As-B 水田構築時には、大畦畔が位置していたと推測できる。これは、条理地割り図に本調査区を当てはめた結果である。また、大畦畔区画内を区割りする畦畔は、東西方向では、斜め方向や曲線を描くものが多く、南北方向では比較的直線状に延び、条里制の半折型に近い間隔をもつ区画が推測される。かつて、この一体は律令制を支えた水田が、広範囲に耕作されていたことがうかがえる。

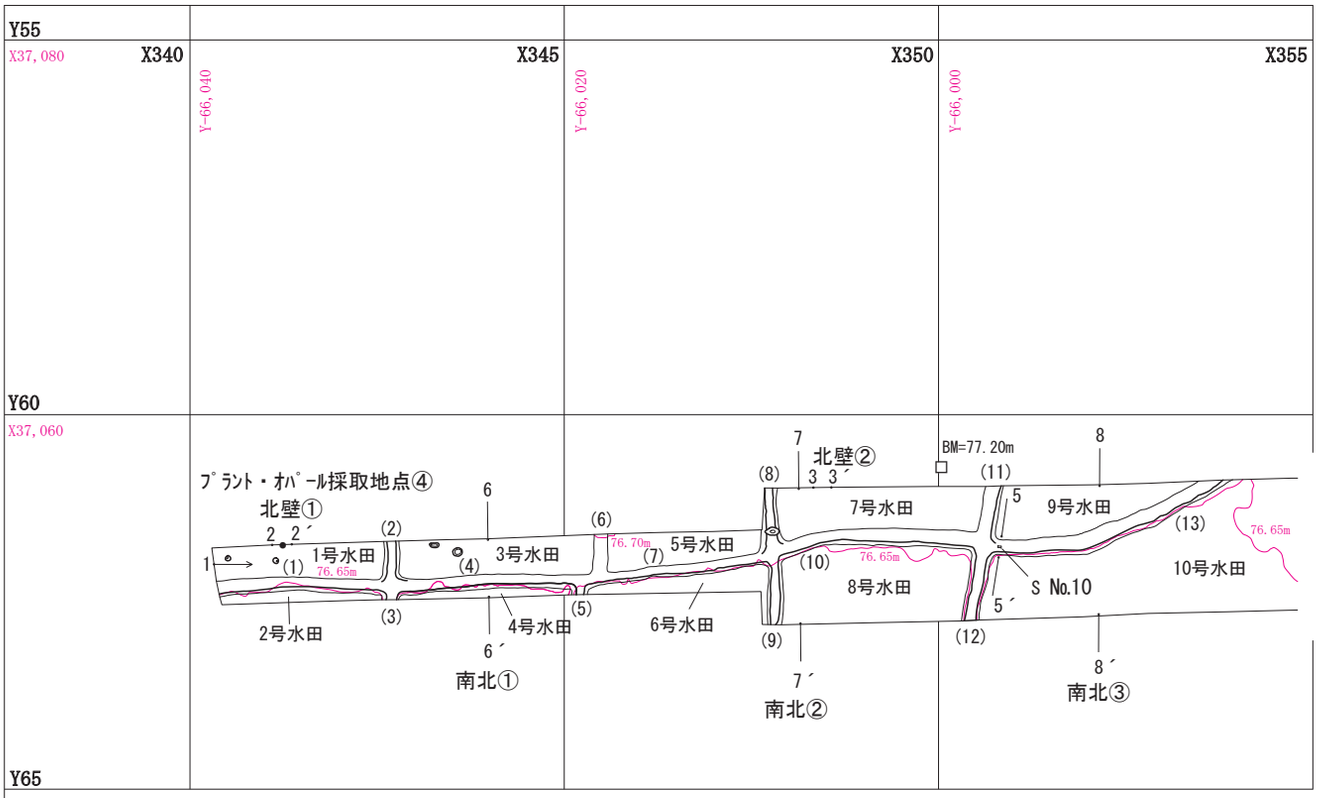
2　畦畔上の石について

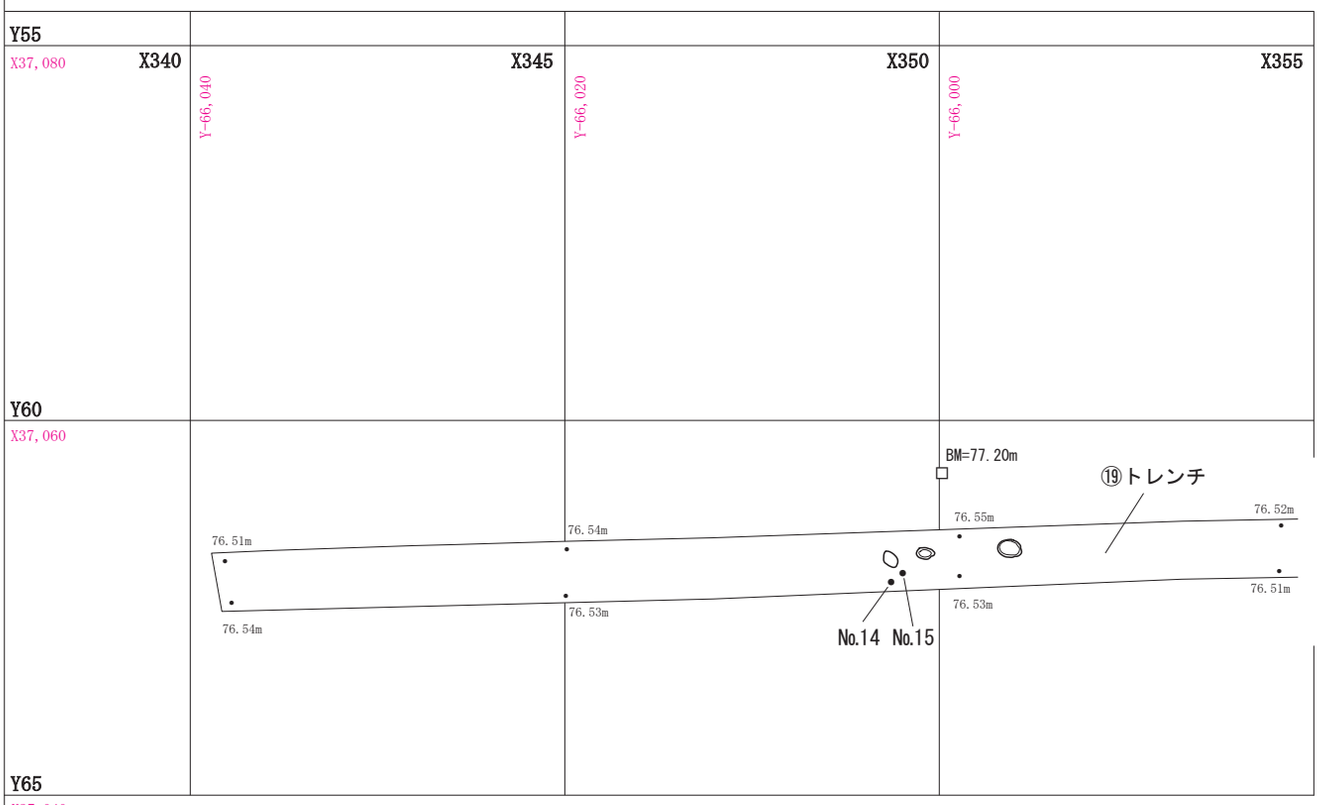
６区で１箇所、７・８区で10箇所（Ｘ446、Ｙ129グリッド内大畦畔上の石は、表土掘削時に不明で［長さ18×幅15㎝］痕跡のみ残る。以下石の痕跡とする。）の畦畔上に埋められた置き石を検出した。その状況は小畦畔上では、６区でＳ―№10、７・８区でＳ―№１、№２、№３、№９と７・８区の大畦畔上で、石の痕跡１箇所と、Ｓ―№４、№５、№６、№７、№８を検出した。規模は長さ8.7～24.8㎝、幅5.5～12.9㎝、重さ288～3669ｇを測る。この中で大畦畔上の石の痕跡とＳ―№７（Ｘ446、Ｙ139グリッド内）は、畦畔の交差する部分にある。その他は、大畦畔の中心から東寄りが多い。また、石の間隔は、石の痕跡からＳ―№４で7.70m、Ｓ―№４～№５は25.50m、Ｓ―№５～№６まで2.25m、Ｓ―№６～№７は4.15m、Ｓ―№７～№８まで7.55m測り、その中で畦畔交差部からの間隔では、石の痕跡とＳ―№４が7.70m、Ｓ―№７と№８が7.55mを測りほぼ同じである。石材は、安山岩等の使用が見られた。また、置き石の目的は南北方向の大畦畔上に集中している点を推測すると、目標的な意味合いが考えられ、特に畦畔の交差部にあるものは、区画の境を決める重要な石と思われ、耕作地の所有関係を明示するなどの目的が推測されるが、検出状況のみ記して報告とする。



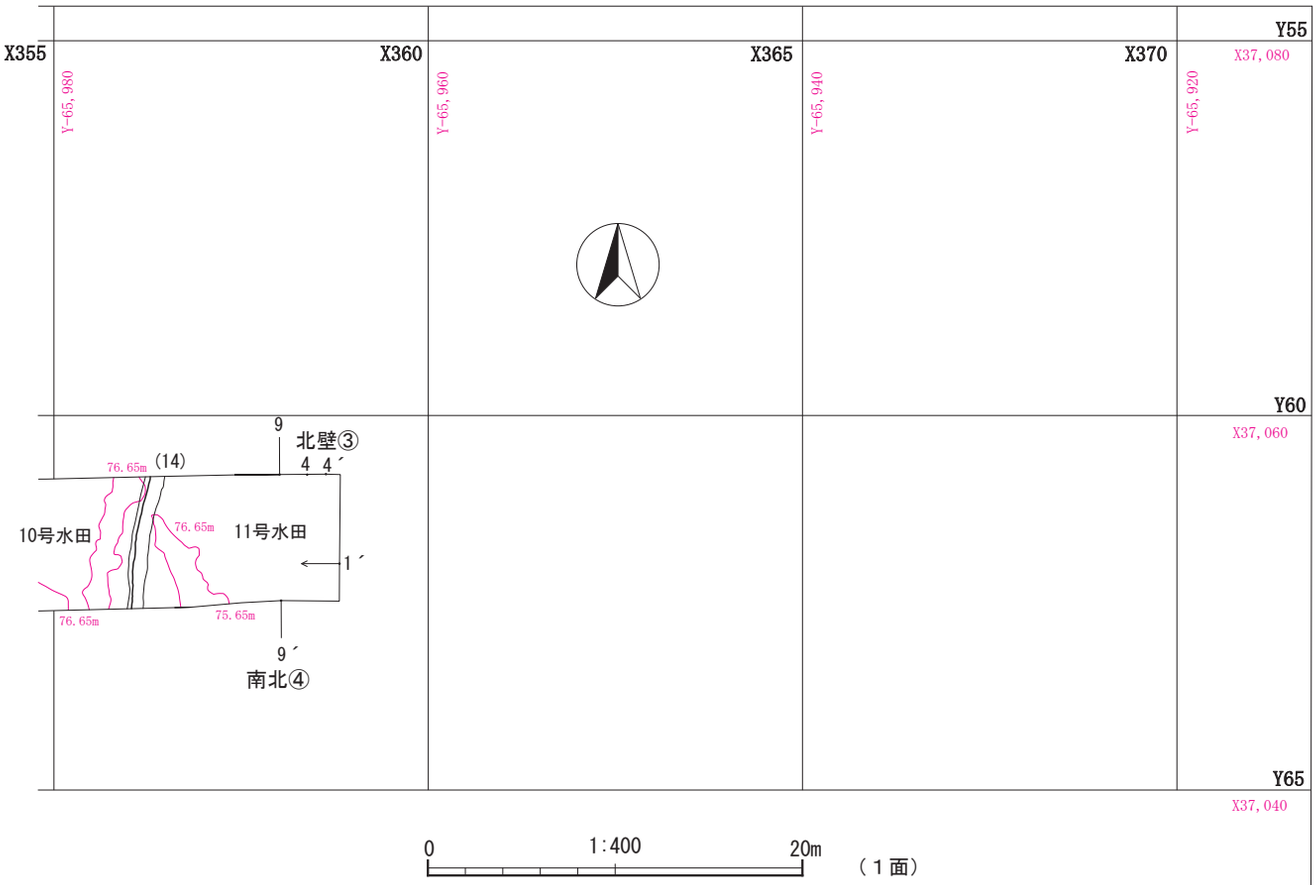
第５図　As-B 下水田と条里制地割り図

第６図　６区、７・８区１・２面出土遺物

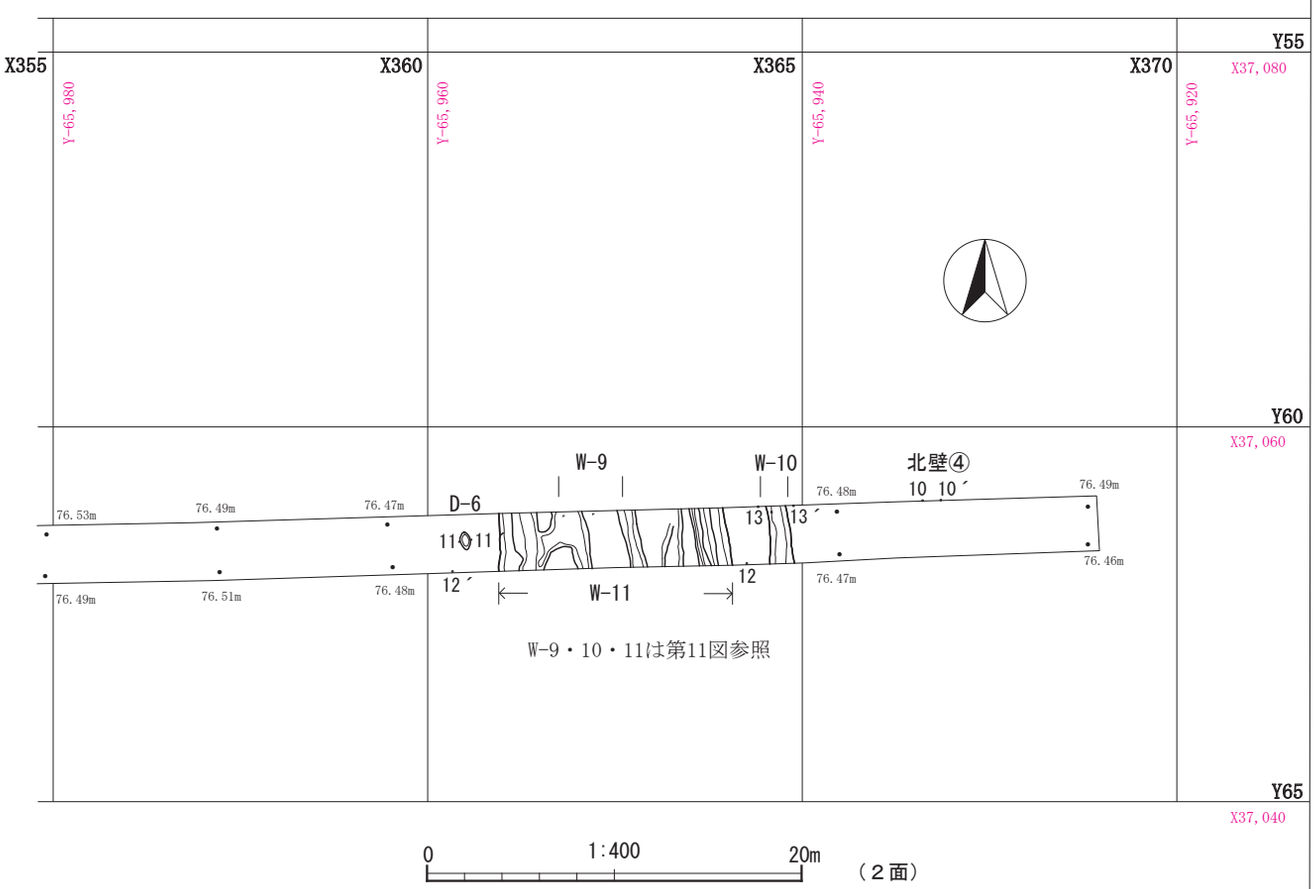




第７図　南部拠点地区遺跡群№２　６区１・２面　平面図（西側）

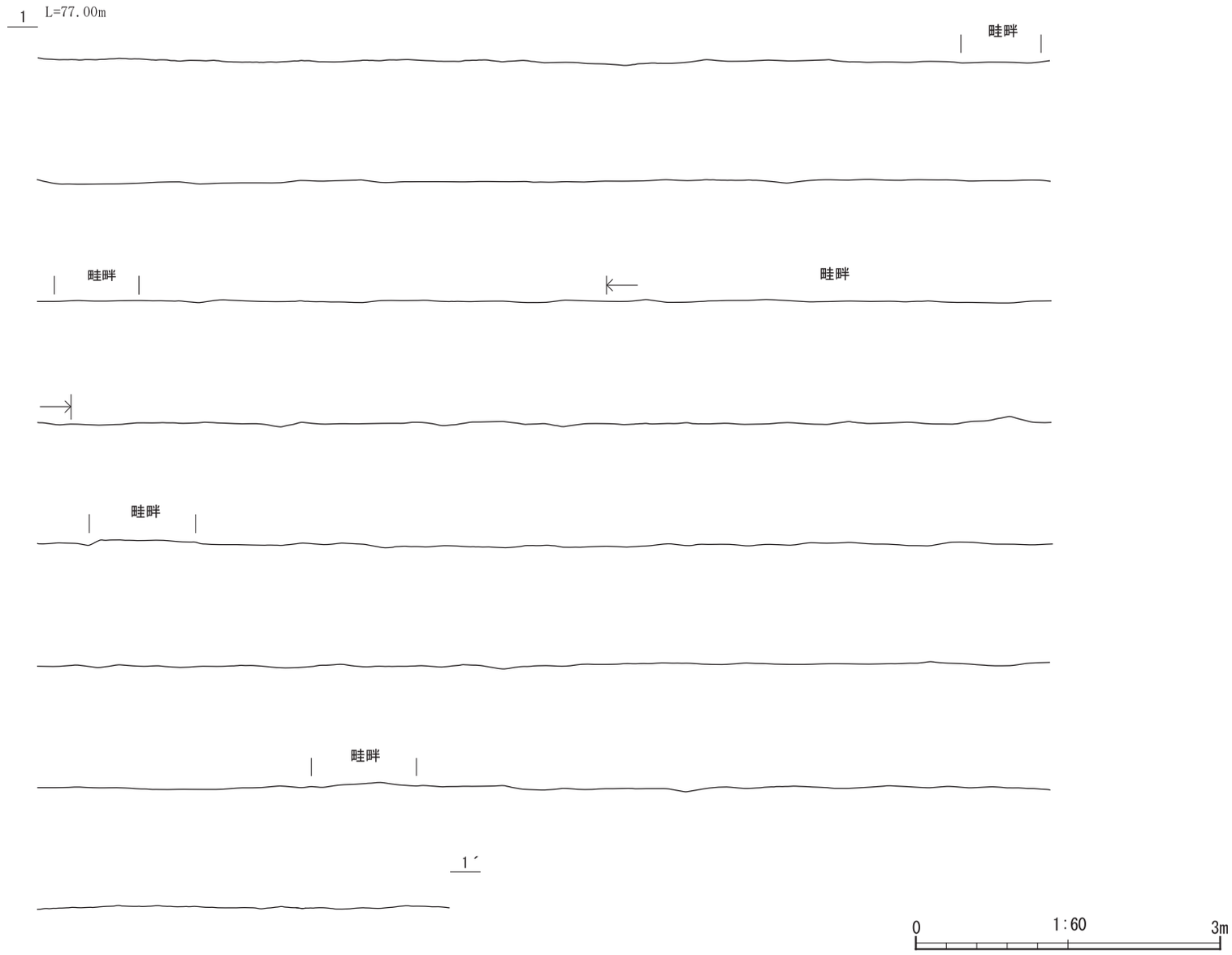


0 1:400 20m （１面）

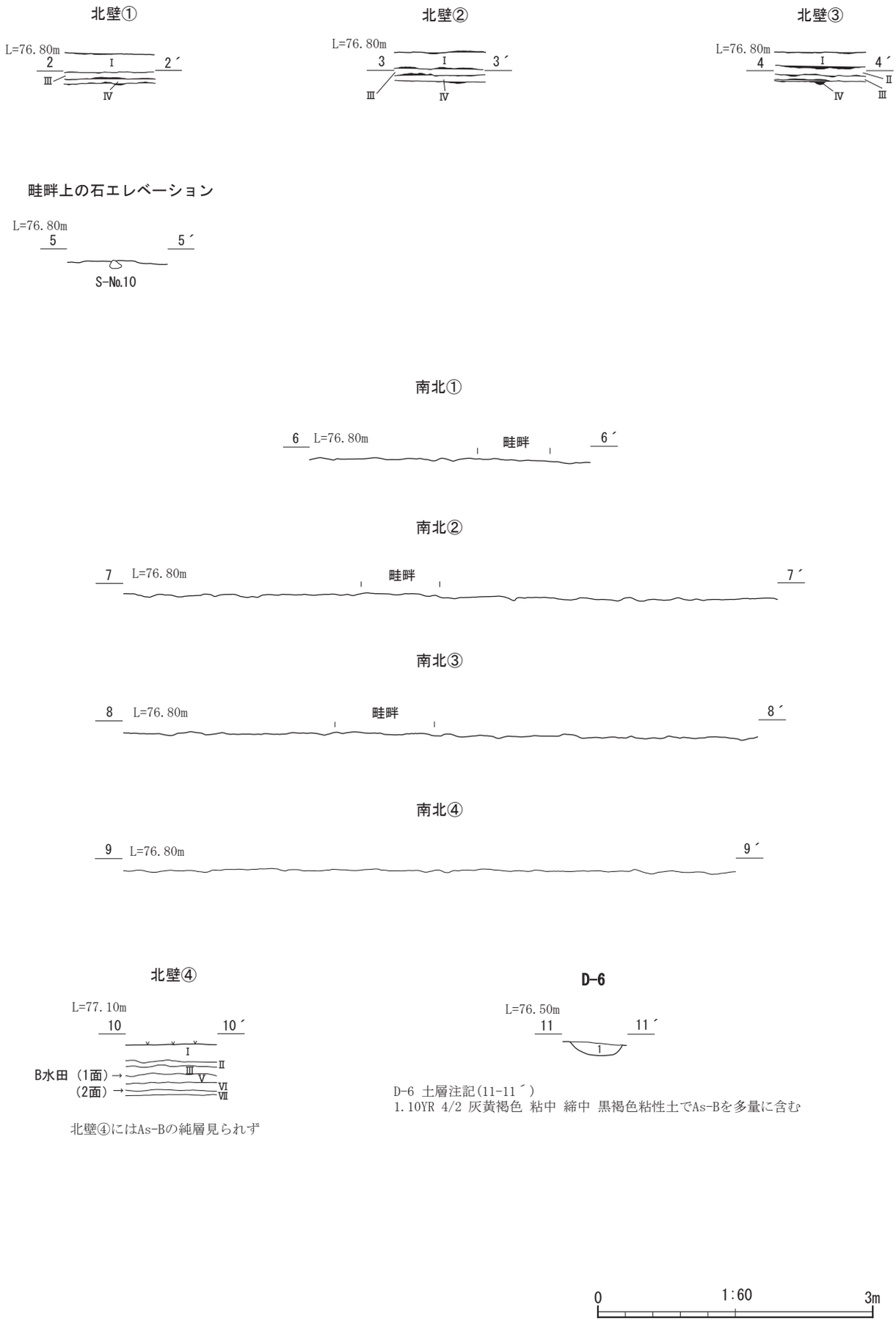


0 1:400 20m （２面）

第８図　南部拠点地区遺跡群No.２　６区１・２面　平面図（東側）

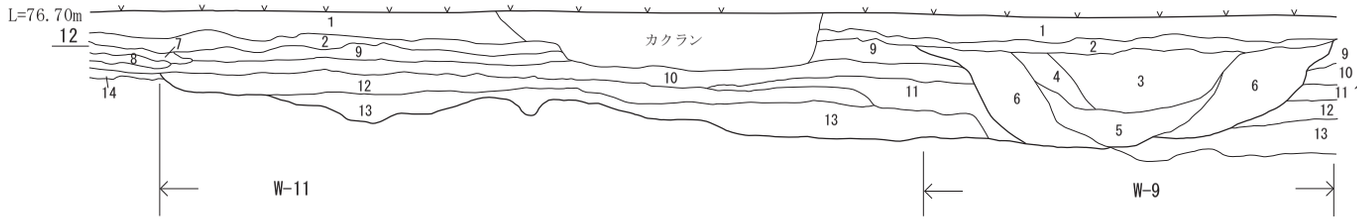


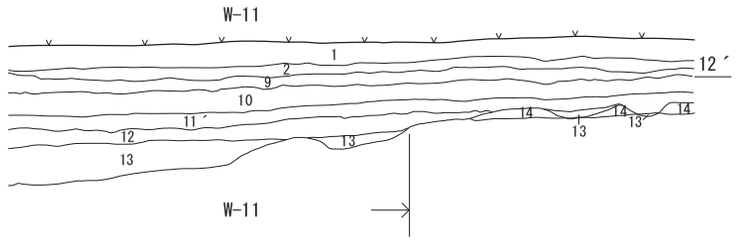
第９図　６区１面エレベーション



第10図　6区1面北壁①～③セクション、畦畔上の石、B水田①～④エレベーション、2面北壁④、D－6セクション

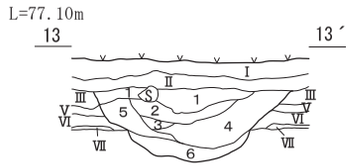
W-9・11南壁





W-9・11南壁セクション土層注記(12-12´)
1.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締弱 表土（耕作土）
2.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 As-A（φ1mm）を5%含む
3.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 As-A（φ1～2mm）を7%含む　底位にラミナ状に砂、ビニール片、小石含む
4.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締中 As-A（φ1mm）を3%含む
5.10YR 3/3 暗褐色 粘弱 締中 ラミナ状に砂層を幾重にも含む
6.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 As-A（φ1mm）を3%含む　小石含む
7.10YR 4/1 褐灰色 粘弱 締中 As-A（φ1mm）を3%含む　小石含む（道跡とみられる．土地改良前のもの）
8.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 As-A（φ1mm）を3%、As-Bを多量に含む　小石含む（道跡とみられる．土地改良前のもの）
9.10YR 4/6 褐色 粘中 締中 As-A（φ1mm）を1%含む
10.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 As-Bを含む　鉄分が酸化している層
11.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締弱 砂質土
11´.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 砂を含む
12.10YR 3/2 黒褐色 粘弱 締弱 砂を多量に含む
13.10YR 3/2 黒褐色 粘なし 締中 ラミナ状に砂層を幾重にも含む
14.10YR 2/1 黒色 粘中 締中 As-Cを含む　(2面確認面)

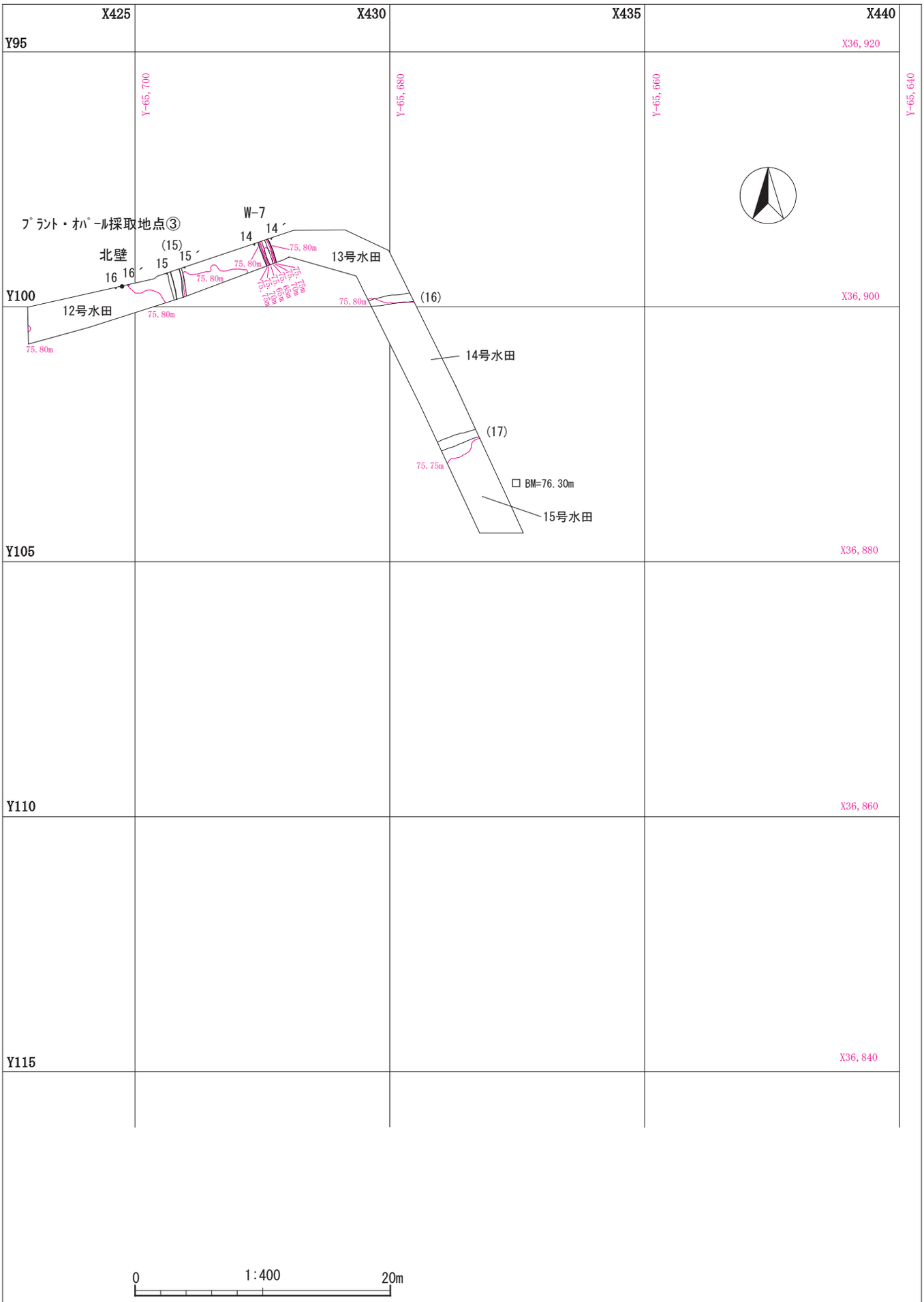
W-10 北壁



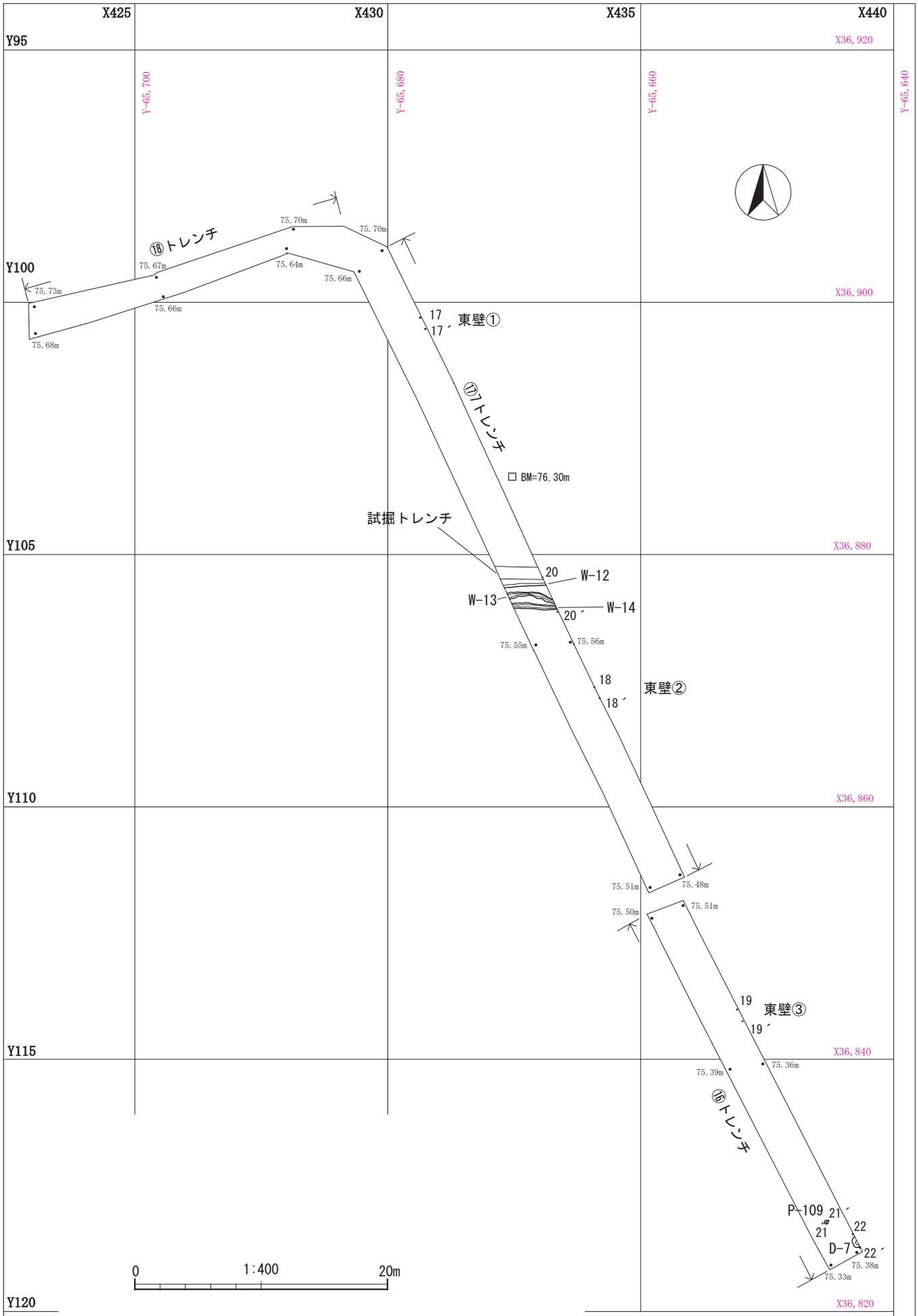
W-10北壁セクション土層注記(13-13´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘弱 締弱 ビニール、小石含む
2.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 小石含む
3.10YR 3/2 黒褐色 粘中 締中 小石含む
4.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 小石含む
5.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締弱 小石含む
6.10YR4/3 にぶい黄褐色 粘強 締弱 砂

0　1:60　3m

第11図　6区2面W―9・10・11号溝セクション

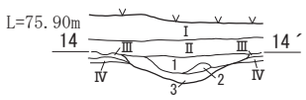


第12図　南部拠点地区遺跡群No.2　7区1面　平面図



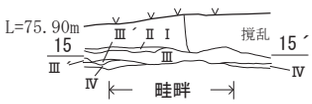
第13図　南部拠点地区遺跡群No.2　7区2面　平面図

W-7



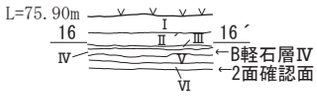
W-7 土層注記(14-14´)
1.10YR 3/4 黒褐色 粘弱 締中 As-Aを5%含む
2.10YR 3/3 暗褐色 粘なし 締中 As-Aを2%含む砂質土
3.10YR 3/2 黒褐色 粘中 締中 As-Aを3%含む

畦畔



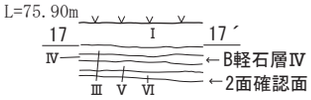
畦畔セクション 土層注記(15-15´)
Ⅲ´.10YR 3/2 黒褐色 粘なし 締強
As-Bを多量に含み硬い 鉄分が酸化している

北壁

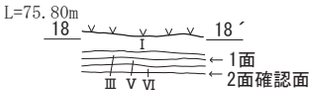


北壁セクション 土層注記(16-16´)
Ⅱ´.灰黄褐色 粘弱 締中 (耕作土)

東壁①

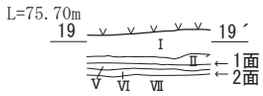


東壁②



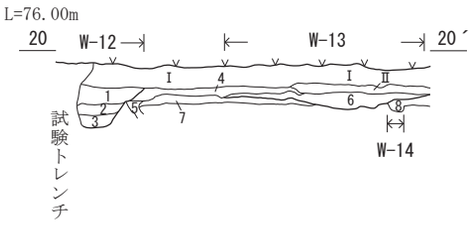
Ⅱ層見えず
As-B軽石の純層もない

東壁③



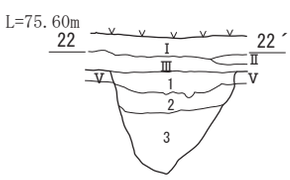
Ⅲ層見えず
As-Bの純層なし
Ⅱ´.Ⅴ層をブロック状に含む
As-Bも含む

W-12・13・14東壁

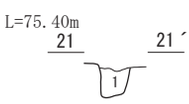


W-12・13・14 土層注記(20-20´)
1. 10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 白色軽石 (φ1mm) 2%含む (W-12)
2. 10YR 4/4 褐色 粘弱 締中 砂をラミナ状に含む (W-12)
3. 10YR 3/4 暗褐色 粘弱 締中 砂をラミナ状に含む (W-12)
4. 10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 Ⅴ層に砂を少量含む
5. 10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締弱 砂を少量含む
6. 10YR 5/2 灰黄褐色 粘弱 締強 Ⅴ層に白色軽石 (As-A?φ1mm) を2%、砂を含む (W-13)
7. 10YR 5/2 灰黄褐色 粘中 締弱 Ⅴ層に砂を含む
8. 10YR 4/6 褐色 粘弱 締弱 砂質土 (W-14)

D-7

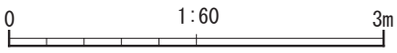


P-109

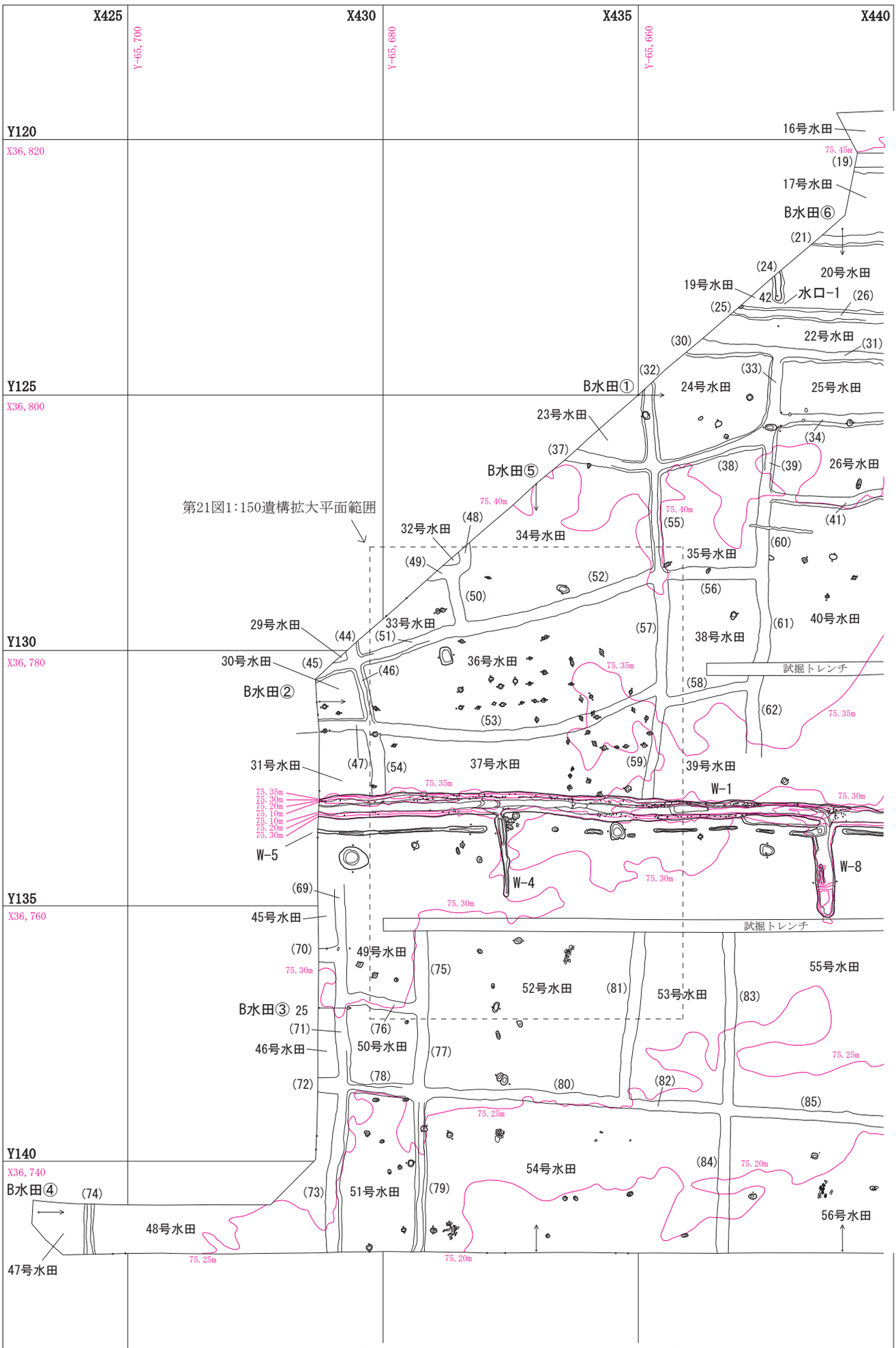


P-109 土層注記(21-21´)
10YR 3/2 黒褐色 粘なし 締中 As-Bを多量に含む

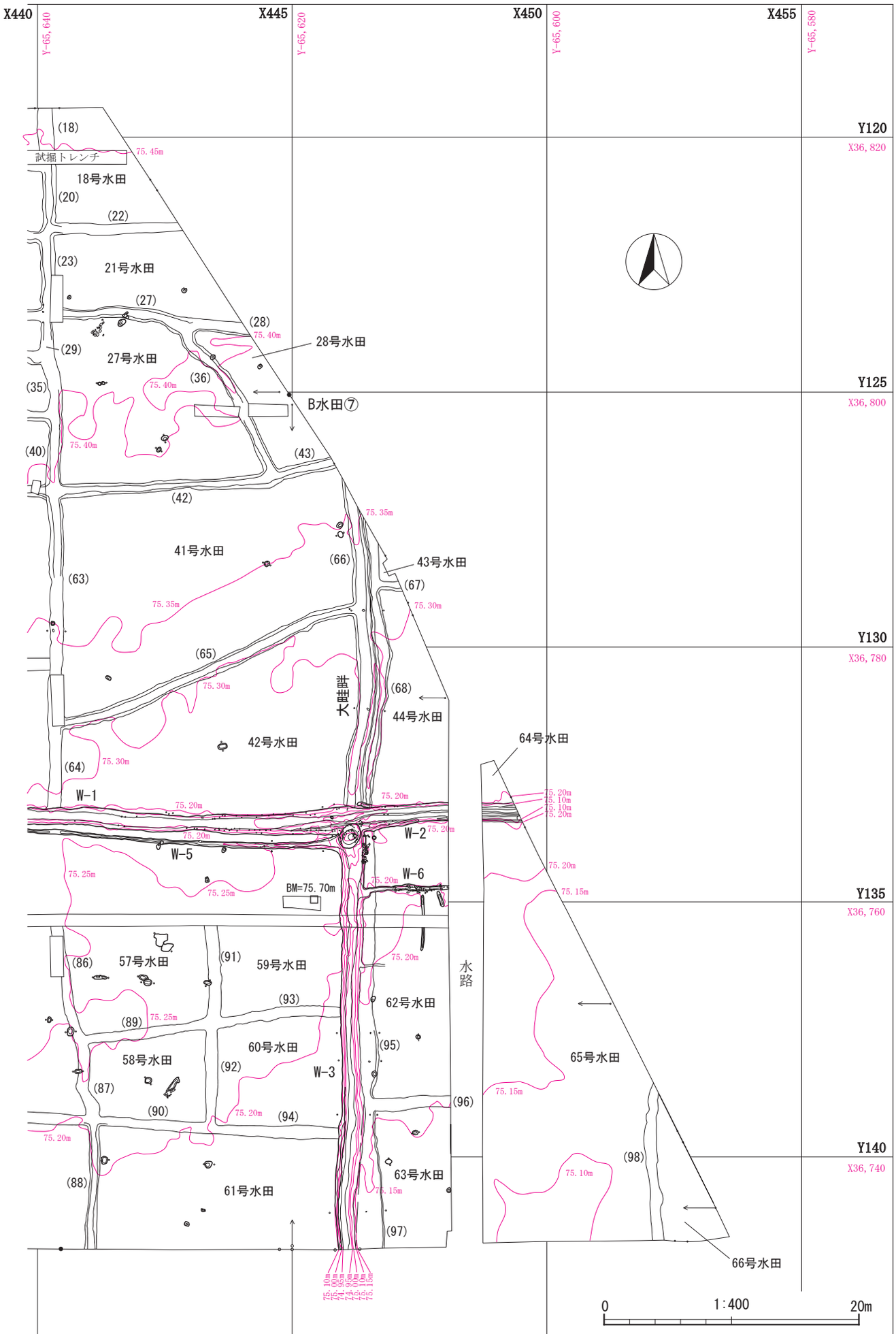
D-7 土層注記(22-22´)
1.10YR 3/3 暗褐色 粘弱 締中 As-Bに黒褐色粘性土と黄褐色粘性土をまだら状に含む
2.10YR 3/1 黒褐色 粘中 締中 黒褐色粘性土と灰白色粘性土をまだら状に含み、As-Bを含む
3.10YR 3/1 黒褐色 粘弱 締弱 灰白色粘性土を含まない。As-Bを多量に含む



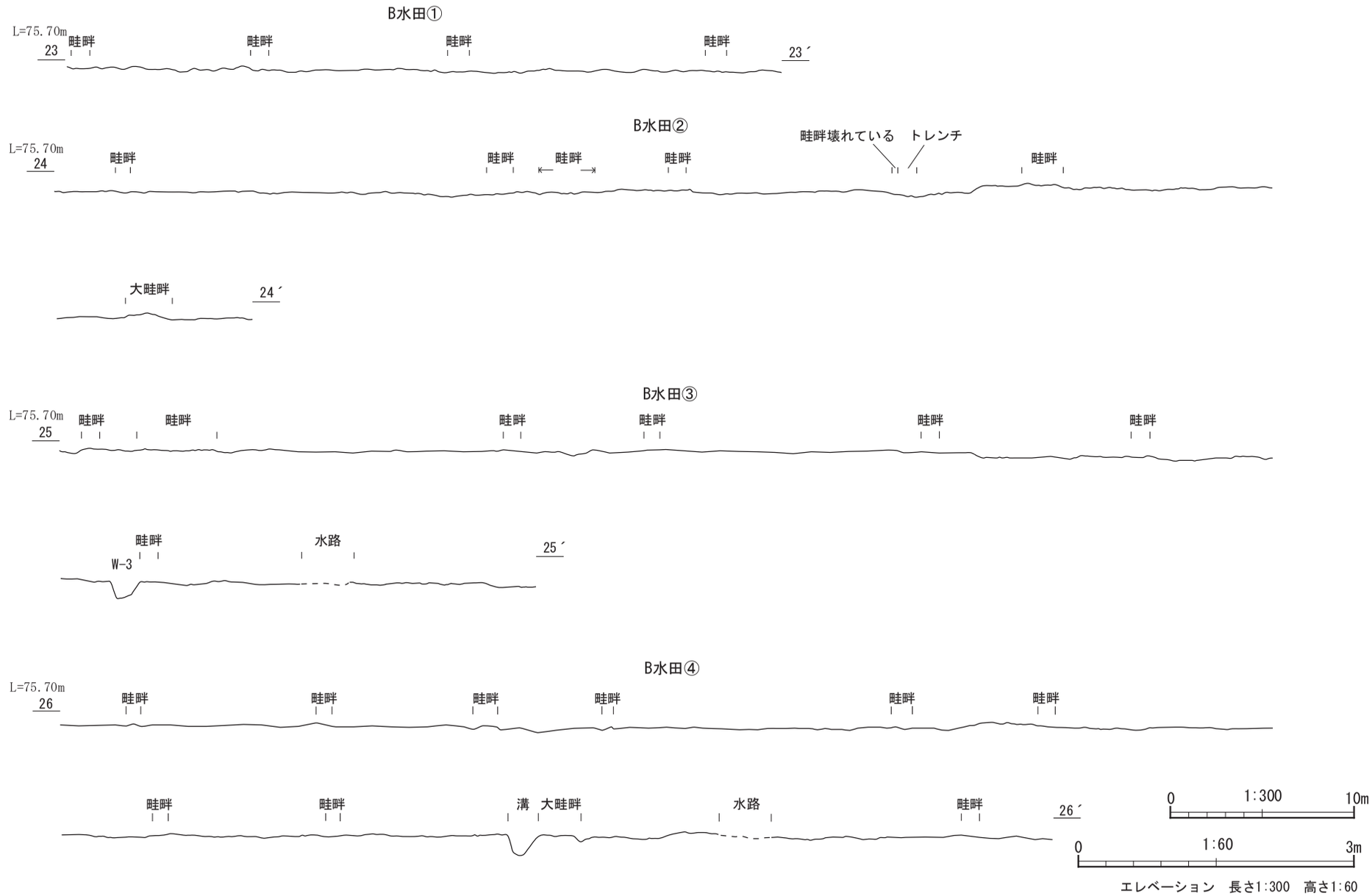
第14図 7区1面W―7、畦畔、北壁 2面東壁①～③、W―12・13・14、D―7、P―109セクション



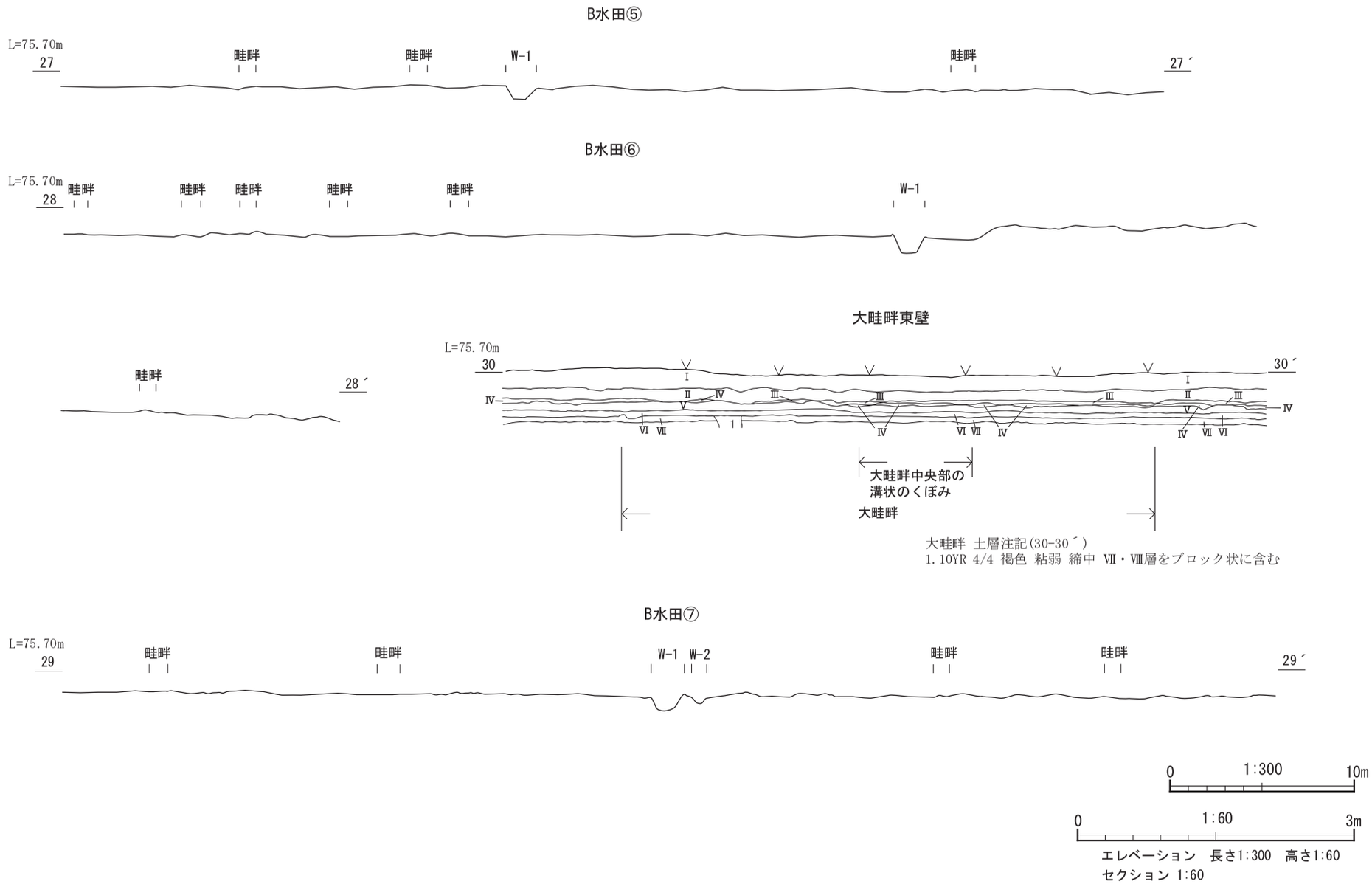
第15図　南部拠点地区遺跡群No.2　7・8区1面　平面図（西側）



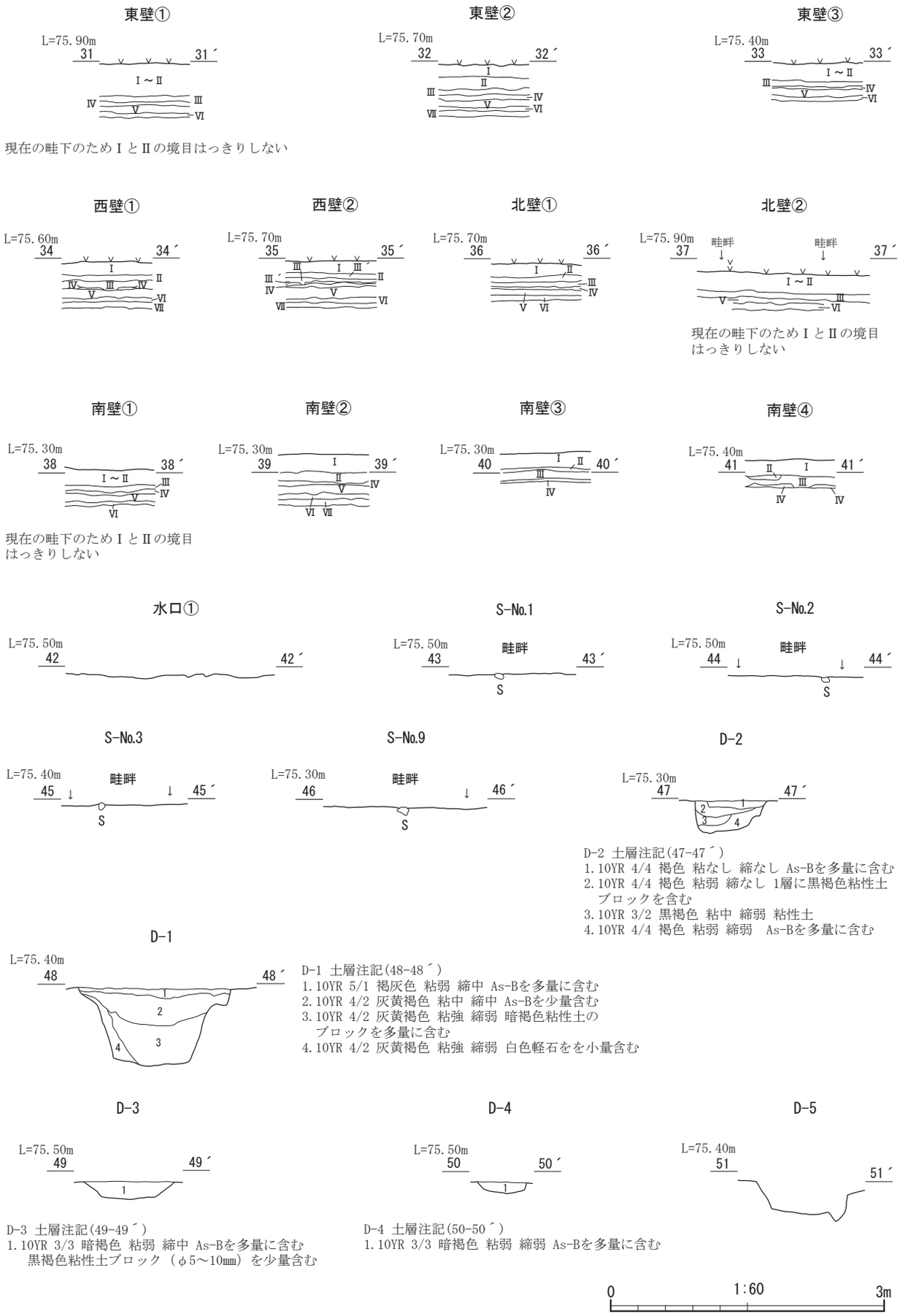
第16図　南部拠点地区遺跡群No.2　7・8区1面　平面図（東側）



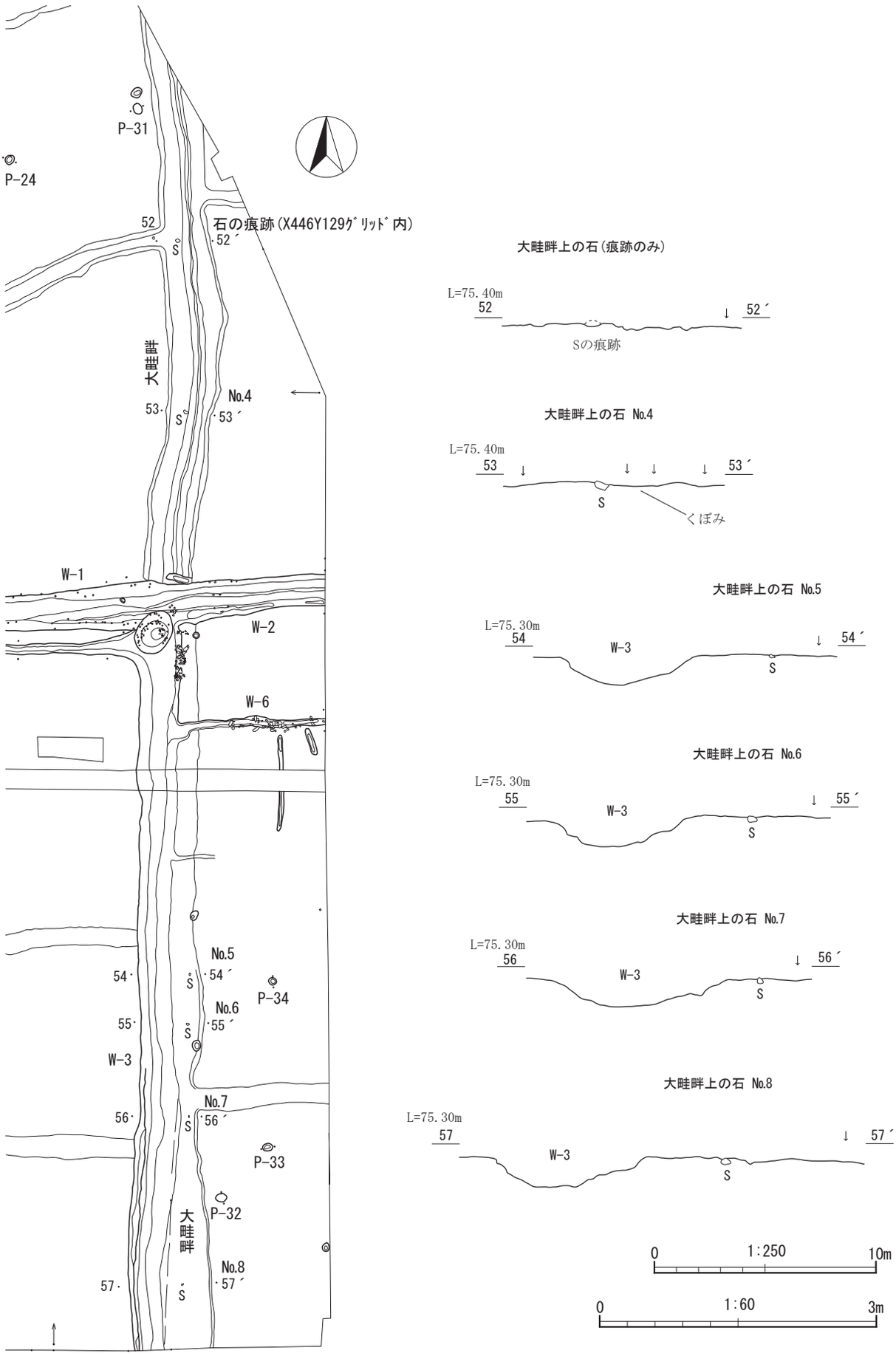
第17図　7・8区1面B水田①～④エレベーション



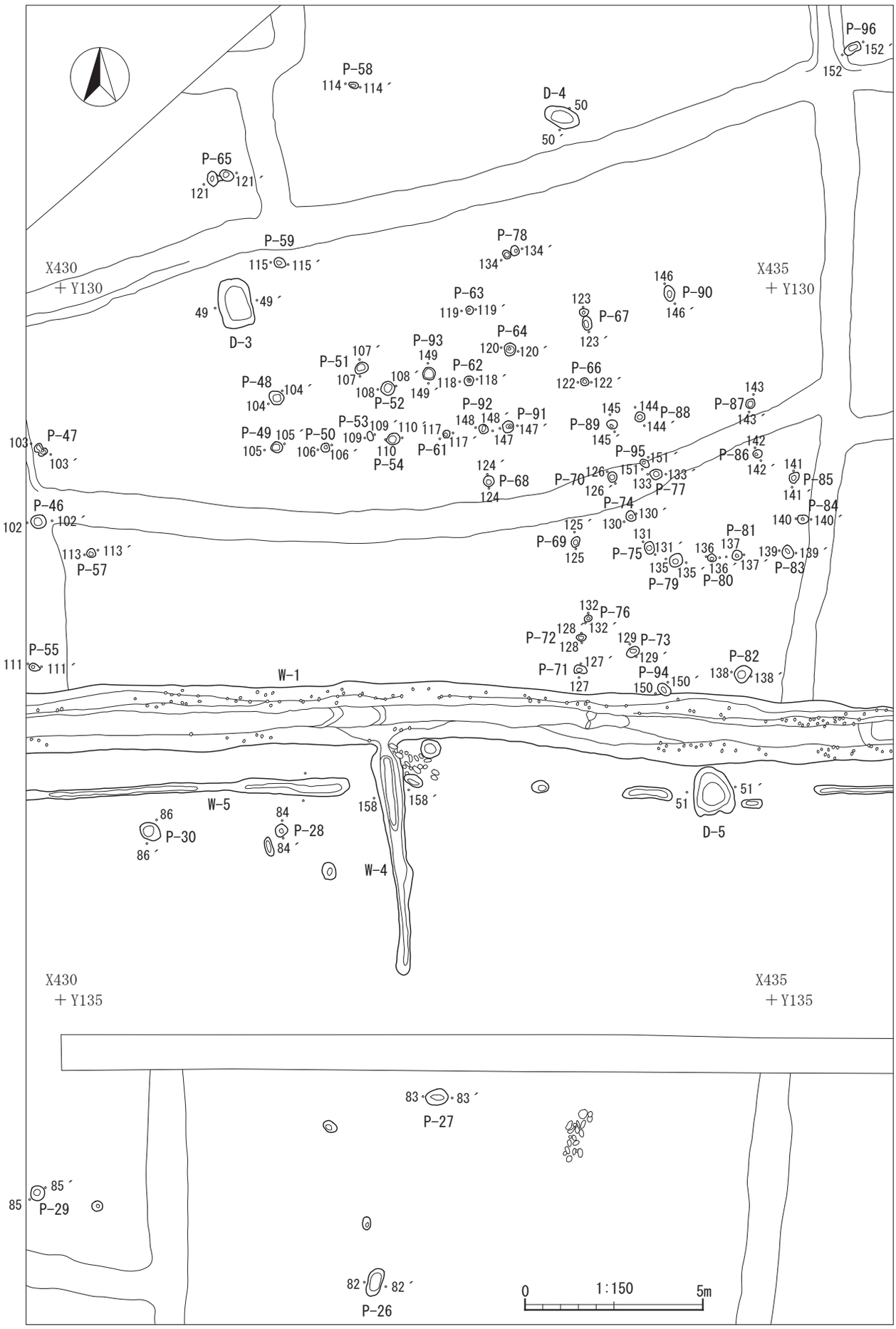
第18図　7・8区1面B水田⑤～⑦エレベーション、大畦畔東壁セクション



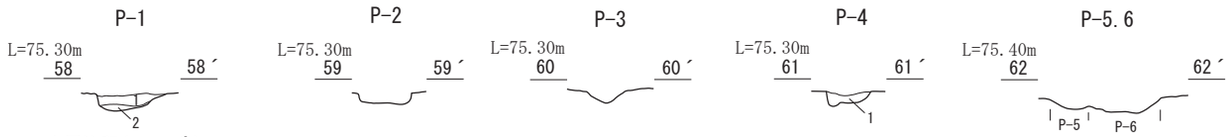
第19図　7・8区1面東・西・南・北壁、D－1・2～4セクション、水口、小畦畔上の石検出状況、D－5エレベーション



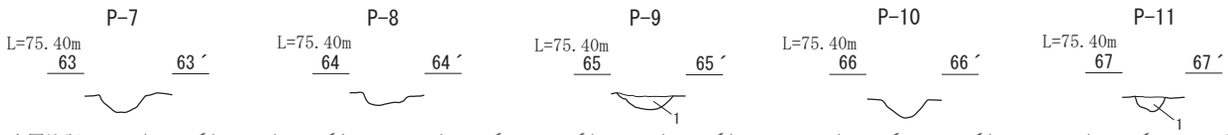
第20図　7・8区1面B水田大畦畔、大畦畔上の痕跡・№4～8検出状況、W―3エレベーション



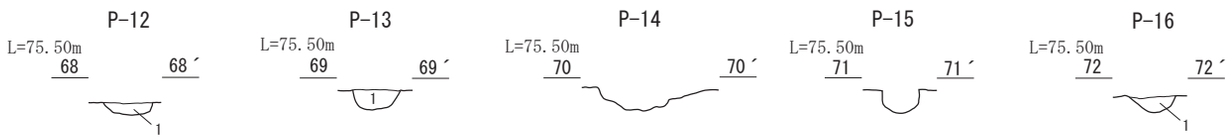
第21図　7・8区1面B水田、ピット、土坑、溝平面図

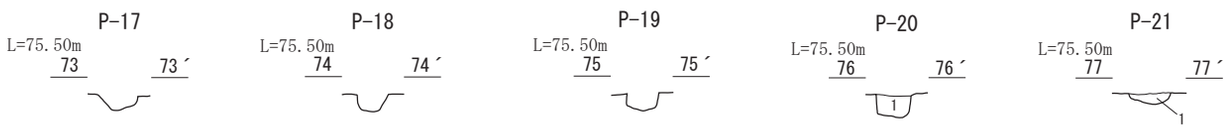


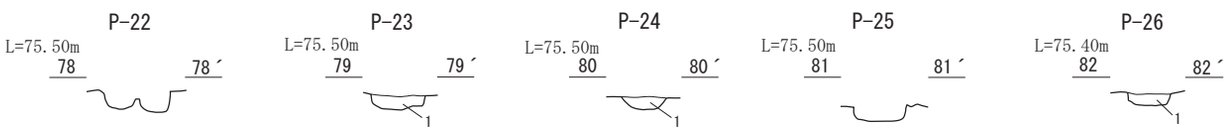
P-1 土層注記(58-58´)
1.10YR 3/4 にぶい黄褐色 粘なし 締中
As-Bを多量に含む
2.10YR 4/1 褐灰色 粘なし 締中
As-Bを多量に含む

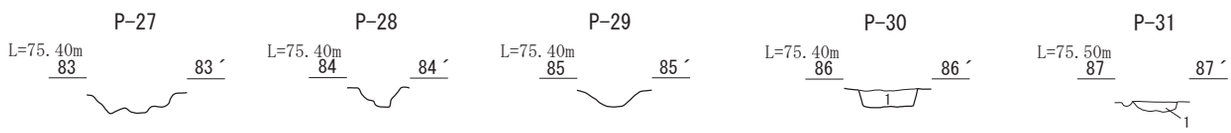


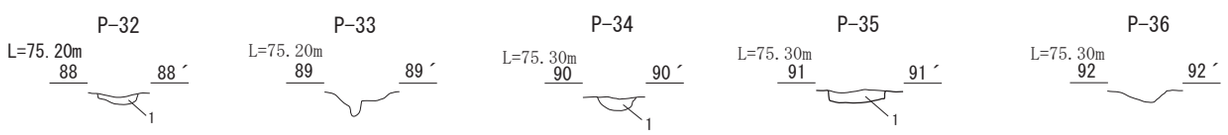
土層注記、P-4 (61-61´)、P-9(65-65´) P-11～13(67-67´～69-69´)、P-16(72-72´)、P-20・21(76-76´・77-77´)、P23・24(79-79´・80-80´)
P-26(82-82´)P-30～32(86-86´～88-88´)、P-34・35(90-90´・91-91´)、P-39(95-95´)、P-41・42(97-97´・98-98´)、P-44(100-100´)
1.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締中 As-Bを多量に含む

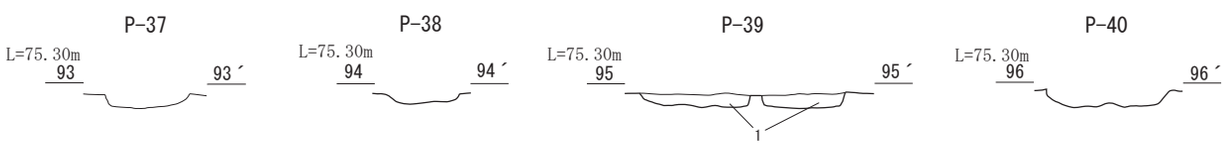


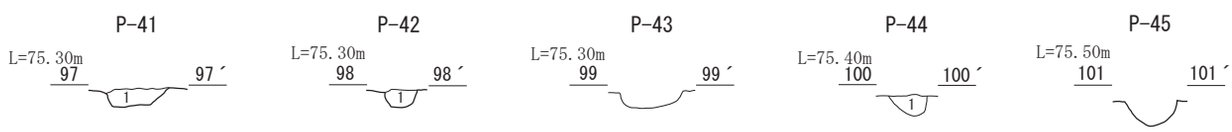


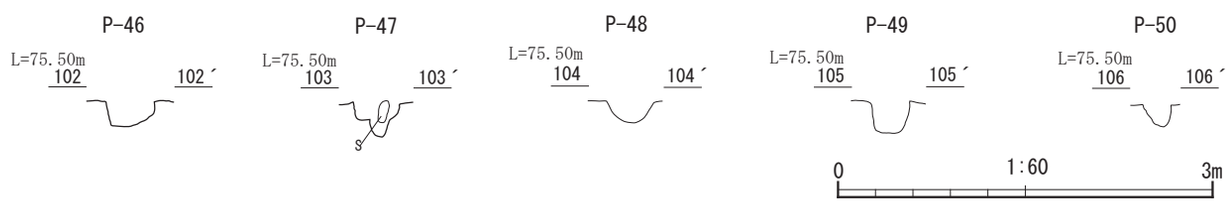




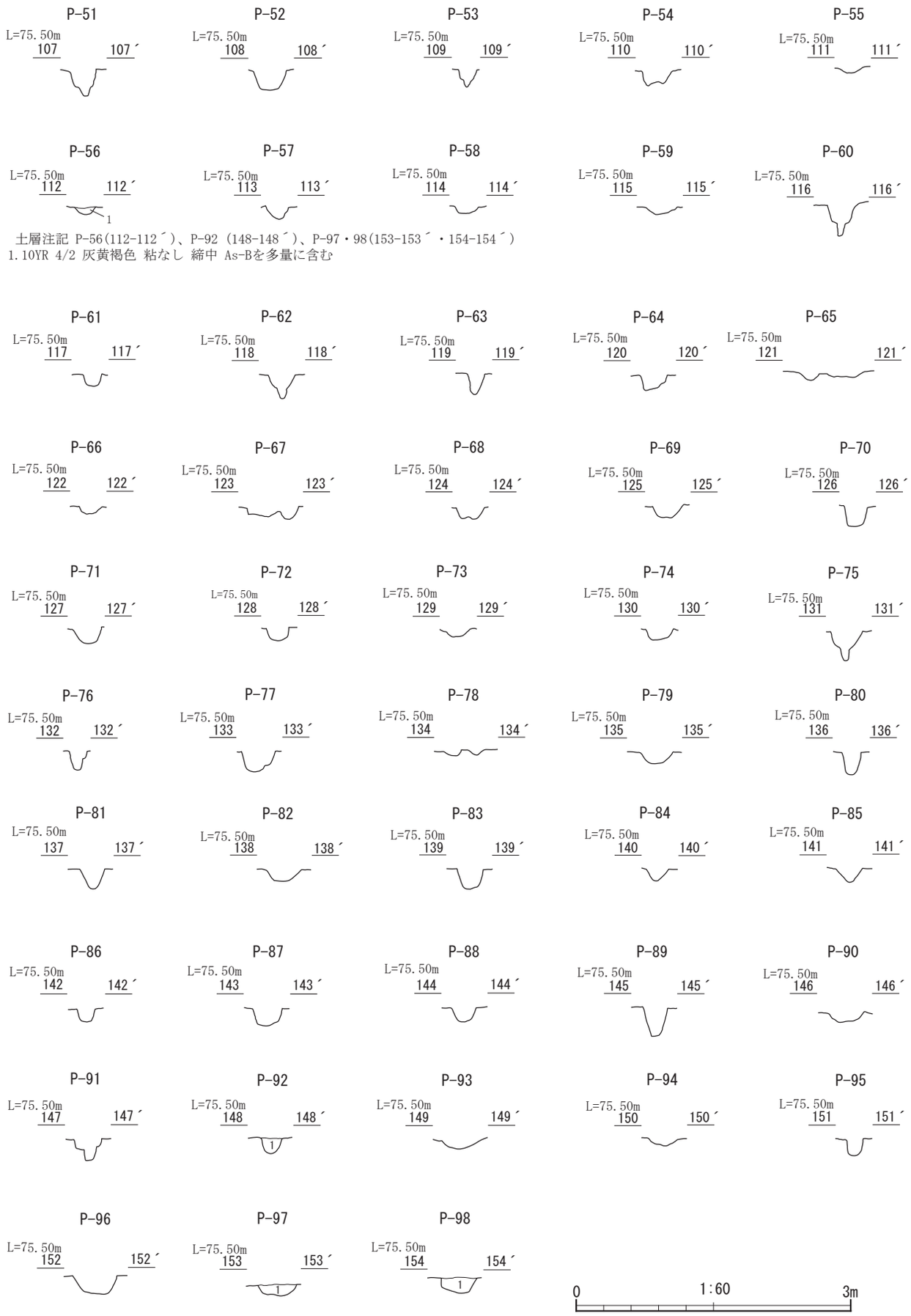








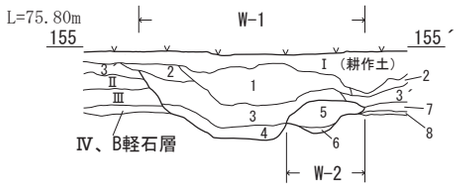
第22図　7・8区1面P－1～50セクション・エレベーション



土層注記 P-56(112-112´)、P-92 (148-148´)、P-97・98(153-153´・154-154´)
1.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締中 As-Bを多量に含む

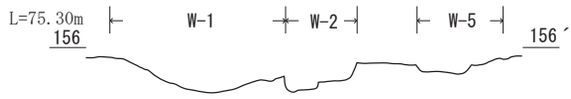
第23図　7・8区1面P―51～98セクション・エレベーション

W-1・2 東壁

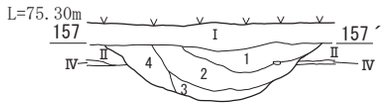


W-1・2東壁 土層注記(155-155´)
1.10YR 5/6 黄褐色 粘なし 締弱 ビニール袋に入った盛土
2.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締中 黒褐色の粘性土をブロック状に20%含む
3.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締弱 As-A（φ1～2mm）を5%含む
3´.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締中 As-A（φ1～2mm）を5%含む
4.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締弱 As-A（φ1～2mm）を2%含む
5.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締中 As-A（φ1～2mm）を15%含む
6.10YR 5/3 にぶい黄褐色 粘なし 締中 As-Aの二次堆積
7.10YR 4/2 灰黄褐色 粘なし 締弱 As-A（φ1～2mm）を10%含む
8.10YR 4/2 灰黄褐色 粘弱 締弱 As-A（φ1mm以下）を7%含む

W-1・2・5



W-3南壁



W-3 土層注記(157-157´)
1.10YR 5/1 褐灰色 粘弱 締中 As-Aを5%含む ビニール片あり
2.10YR 5/1 褐灰色 粘弱 締中 As-Aを3%含む
3.10YR 5/1 褐灰色 粘中 締中 軽石を含まない
4.10YR 5/1 褐灰色 粘弱 締弱 As-Aを2%含む

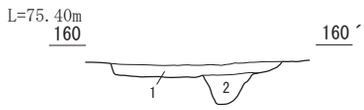
W-4

W-4 土層注記(158-158´)
1.10YR 3/4 暗褐色 粘なし 締弱 As-Aを多量に含む

W-5

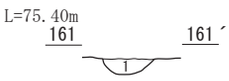
W-5 土層注記(159-159´)
1.10YR 5/2 灰黄褐色 粘弱 締弱 As-Aを多量に含む

W-8



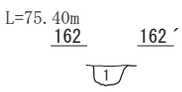
W-8 土層注記(160-160´)
1.10YR 6/2 灰黄褐色 粘弱 締弱 As-Aの二次堆積
2.10YR 5/1 褐灰色 粘弱 締中 3/2黒褐色粘性土ブロックとAs-A（φ1～2mm）を少し含む

P-99



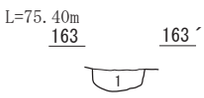
P-99 土層注記(161-161´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締弱 白色軽石（φ1mm）を3%、V層をブロック状に含む

P-100



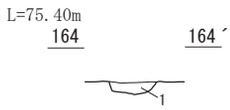
P-100 土層注記(162-162´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締弱 白色軽石（φ1mm）を含む

P-101



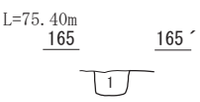
P-101 土層注記(163-163´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締弱 白色軽石（φ1mm）を2%、V層の土をブロック状に含む

P-102



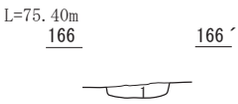
P-102 土層注記(164-164´)
1.10YR 3/2 黒褐色 粘中 締強 白色軽石（φ1mm）を2%含む

P-103



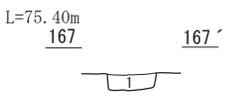
P-103 土層注記(165-165´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締中 白色軽石（φ1mm）を3%含む

P-104



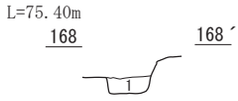
P-104 土層注記(166-166´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘中 締中 白色軽石（φ1mm）を3%含む、V層の土ををブロック状に含む

P-105



P-105 土層注記(167-167´)
P-108 土層注記(170-170´)
1.10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘弱 締弱、白色軽石（φ1mm）を2%含む、V層の土をブロック状に含む

P-106

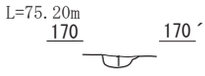


P-106 土層注記(168-168´)
1.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締中 白色軽石（φ1mm）を2%含む

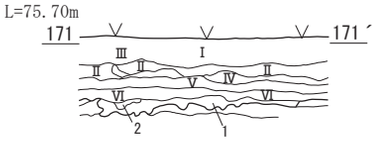
P-107

P-107 土層注記(169-169´)
1.10YR 4/2 灰黄褐色 粘中 締強 白色軽石（φ1mm）を2%含む

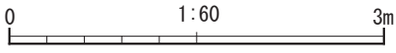
P-108



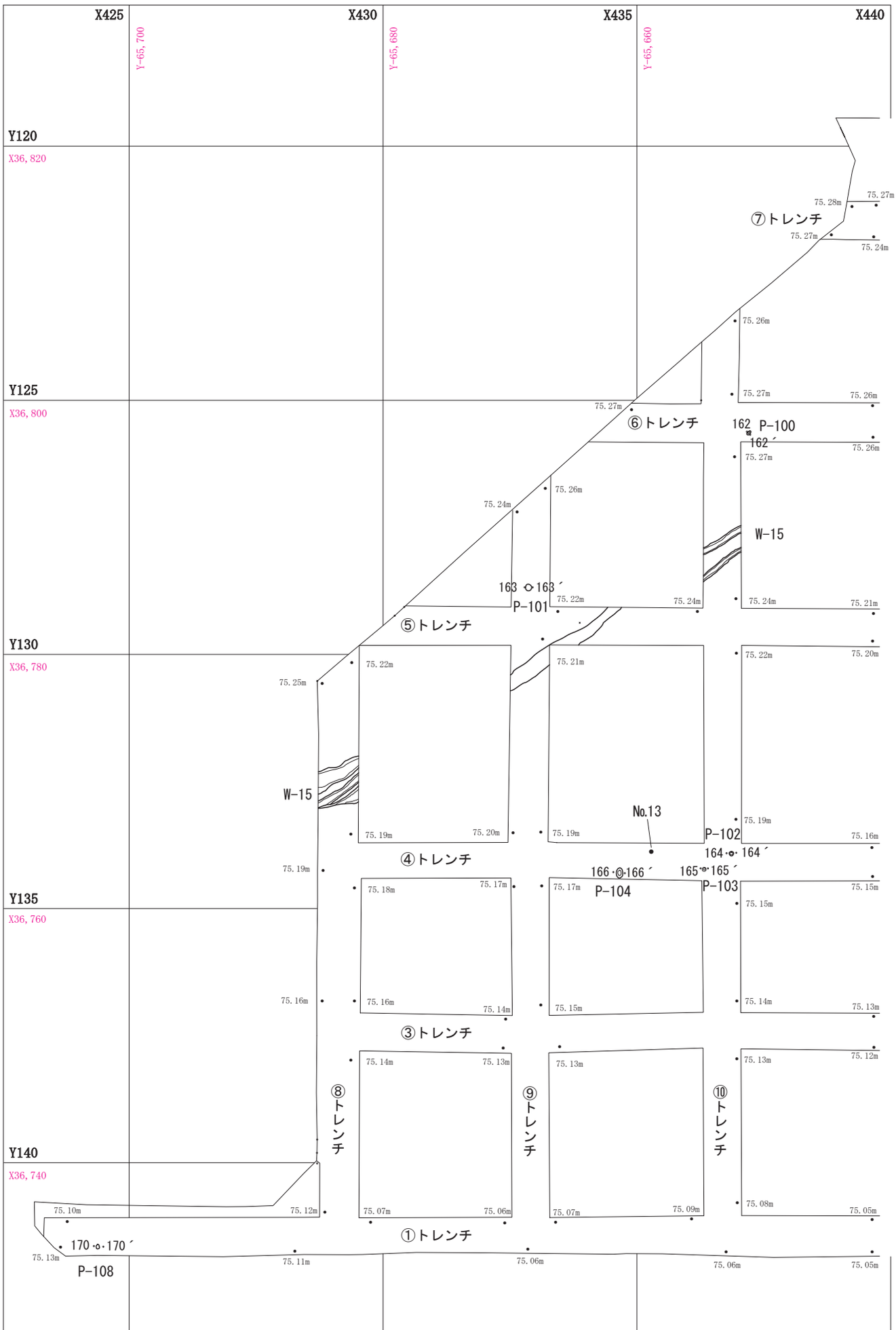
W-15東壁



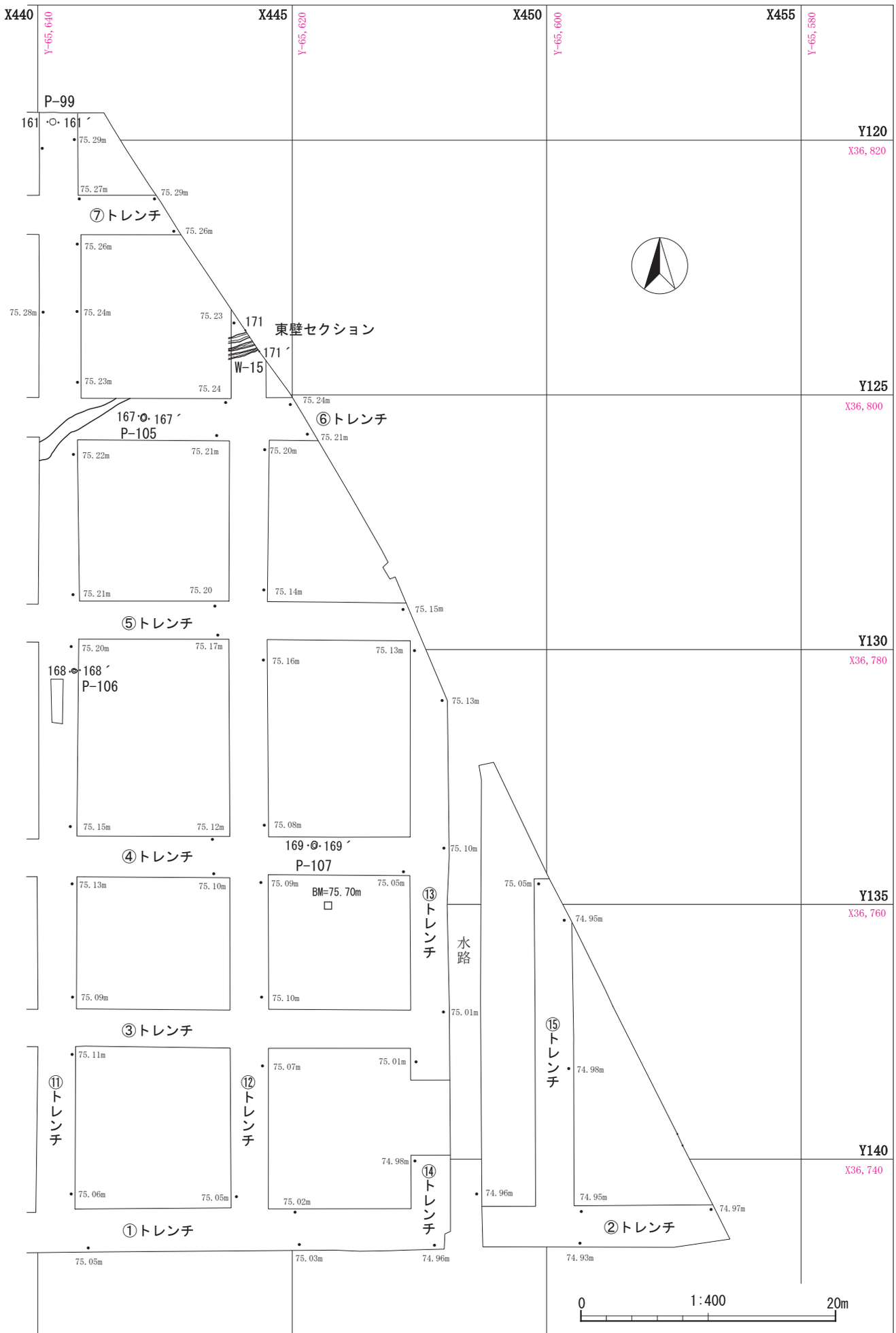
W-15 土層注記(171-171´)
1.10YR 5/3 にぶい黄褐色 粘なし 締中 砂質土
2.10YR 3/3 暗褐色 粘弱 締弱 砂質土



第24図　7・8区1面W—1～5・8セクション・エレベーション　2面P—99～108、W—15東壁セクション



第25図　南部拠点地区遺跡群№２　７・８区２面　遺構確認トレンチ・W―15、P―100～104・108平面図（西側）



第26図　南部拠点地区遺跡群№2　7・8区2面遺構確認トレンチ・W—15、P—99・105～107平面図（東側）

付章　自然科学分析報告

南部拠点地区遺跡群№.2におけるプラント・オパール分析

株式会社古環境研究所

1．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。とくに、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（藤原・杉山，1984）。

南部拠点地区遺跡群№.2の発掘調査では、調査区6区においてAs-B軽石層直下より畦畔状遺構が確認された。また、As-C軽石混じり層においても水田耕作土とみられる堆積層が認められた。そこで、これらの層における稲作の可能性を検討する目的で、プラント・オパール分析を実施することになった。

2．試料

調査地点は、№.1地点（7・8区南壁）、№.2地点（7・8区東壁）、№.3地点（7区北壁）、№.4地点（6区北壁）の4地点である。分析試料は、各地点において上位よりAs-B軽石層直下層（B水田層、1面）、As-C軽石混じり層（2面）の2層準より採取された計8点である。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

2）試料約1ｇに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02ｇ添加

3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理

4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

5）沈底法による20μm以下の微粒子除去

6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

7）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率を乗じて、試料1ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}ｇ）を乗じて、単位面積で層厚1㎝あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節型は0.48、チマキザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。

４．分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、以下のとおりである。

〔イネ科〕

イネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）

〔イネ科―タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、その他

〔イネ科―その他〕

未分類等

５．考察

⑴　稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料１ｇあたり5,000個以上の高密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/ｇ程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/ｇとして検討を行った。

１）As-B 軽石層直下のＢ水田層（１面）

№１地点～№４地点のすべてにおいてイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は、それぞれ7,500個/ｇ、6,900個/ｇ、5,300個/ｇ、4,800個/ｇといずれも稲作跡の判断基準値とされる3,000個/ｇを超過している。このことから、As-B 軽石層直下層（１面）については、調査区の広い範囲で水田稲作が行われていたと考えられる。

２）As-C 軽石混じり層（２面）

№１地点～№４地点のすべてでイネのプラント・オパールが検出された。このうち№４地点では、密度が3,000個/ｇと高い値であることから、本地点では２面においても稲作が行われていた可能性が考えられる。その他の地点では密度が600～1,200個/ｇと低い値であることから、稲作が行われていた可能性は考えられるものの、他所からプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。

仮に№１地点～№３地点の As-C 軽石混じり層（２面）で稲作が行われていたとするならば、プラント・オパール密度が低いことの要因として、①耕作期間（稲作が行われた年数）が非常に短かった、②土層の堆積速度が速かった、③稲の生産性が低かった、④土壌の容脱作用等でプラント・オパールが風化をうけ、未成熟のものが分解された、⑤稲藁の多くが耕作地から持ち出されていた、などが考えられる。

⑵　プラント・オパール分析から推定される植生と環境

イネ以外の分類群では、As-B 軽石層直下層（１面）、As-C 軽石混じり層（２面）ともヨシ属が高い密度で検出されている。推定生産量（図の右側）をみると、いずれもヨシ属が卓越している。このことから、As-B 軽石層直下層（１面）、As-C 軽石混じり層（２面）の堆積時の調査地周辺は、ヨシ属が繁茂する湿地の環境であった考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、両層準ではススキ属型も比較的多いことから、畦畔や周辺の比較的乾燥したところにはススキ属が生育していたと考えられる。

６．まとめ

南部拠点地区遺跡群№２においてプラント・オパール分析を行い、稲作跡の可能性について検討した。その結果、As-B 軽石層直下層（１面）では、分析を行った№１～№４の４地点においてイネのプラント・オパールが高い密度で検出され、調査区の広い範囲で水田稲作が営まれていたことが認められた。また As-C 軽石混じり層（２面）では、№４地点において水田稲作が行われていた可能性が考えられた。なお両層準の堆積時の調査地周辺は、ヨシ属の繁茂する湿地の環境であり、畦畔や周辺の比較的乾燥したところにはススキ属が生育していたと推定された。

文献

杉山真二　(1987)　タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，31，p.70-83．

杉山真二・松田隆二・藤原宏志　(1988)　機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用―古代農耕追究のための基礎資料として―．考古学と自然科学，20，p.81-92．

藤原宏志　(1976)　プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―．考古学と自然科学，９，p.15-29．

藤原宏志　(1998)　稲作の起源を探る．岩波新書．

表１　南部拠点地区遺跡群№２のプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/ｇ）

分類群（和名・学名）＼層　位		№１地点		№２地点		№３地点		№４地点	
		１面	２面	１面	２面	１面	２面	１面	２面
イネ科	Gramineae（Grasses）								
イ　ネ	*Oryza sativa*	75	12	69	6	53	6	48	30
ヒエ属型	*Echinochloa type*	6		6					
ヨシ属	*Phragmites*	58	116	34	53	41	82	48	71
ススキ属型	*Miscanthus* type	70	41	52	35	70	41	53	24
タケ亜科	Bambusoideae（Bamboo）								
メダケ節型	*Pleioblastus* sect.Nipponocalamus	12	12	17	6	6	6	6	6
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect.Nezasa	17	12	17		6		12	6
チマキザサ節型	*Sasa* sect.Sasa etc.	12	12	11	6	6	23	30	12
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect.Crassinodi	6		6			6	6	6
その他	Others	6	6	6					
未分類等	Unknown	284	238	303	216	263	286	261	237
プラント・オパール総数		546	449	521	322	445	450	464	392

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イ　ネ	*Oryza* sativa	2.22	0.34	2.02	0.17	1.55	0.17	1.40	0.87
ヒエ属型	*Echinochloa type*	0.49		0.48					
ヨシ属	*Phragmites*	3.66	7.32	2.17	3.32	2.58	5.15	3.00	4.49
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.86	0.50	0.64	0.43	0.87	0.51	0.66	0.29
メダケ節型	*Pleioblastus* sect.Nipponocalamus	0.13	0.13	0.20	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect.Nezasa	0.08	0.06	0.08		0.03		0.06	0.03
チマキザサ節型	*Sasa* sect.Sasa etc.	0.09	0.09	0.09	0.04	0.04	0.17	0.22	0.09
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect.Crassinodi	0.02		0.02			0.02	0.02	0.02

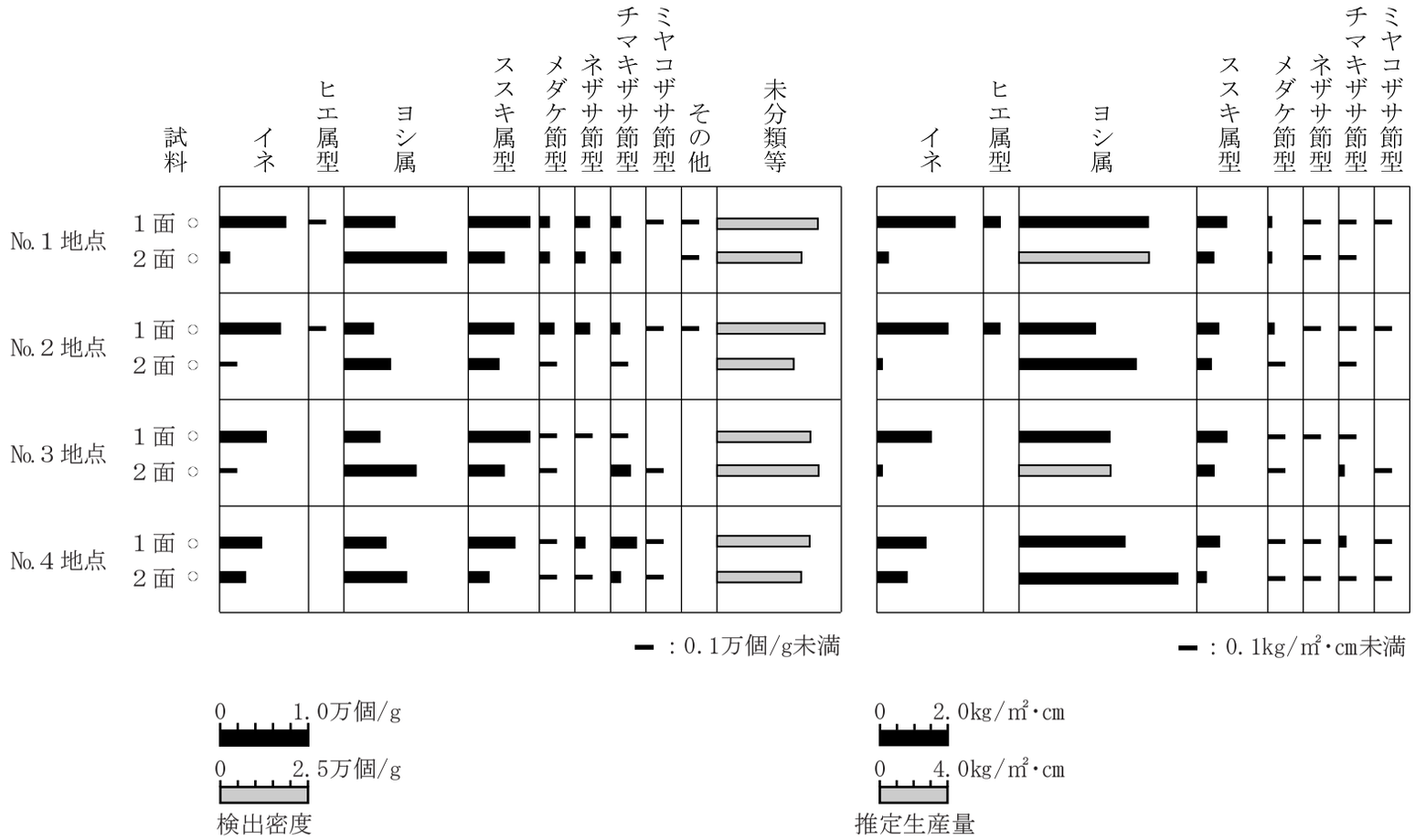
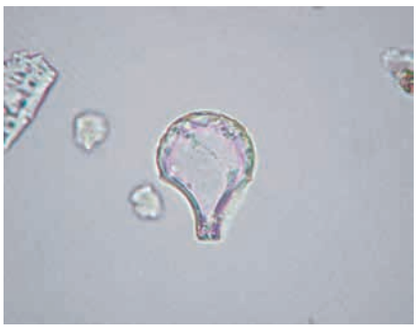
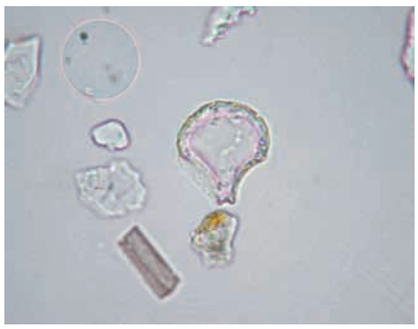
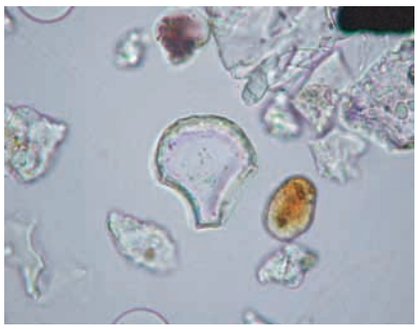


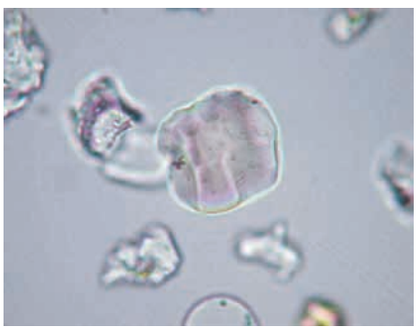
図1　南部拠点地区遺跡群No.2のプラント・オパール分析結果

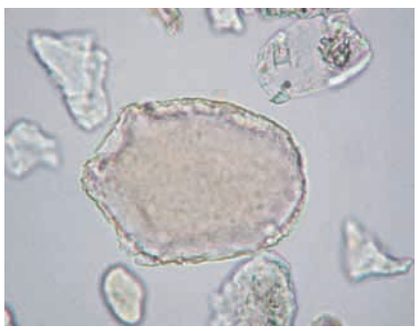
プラント・オパールの顕微鏡写真

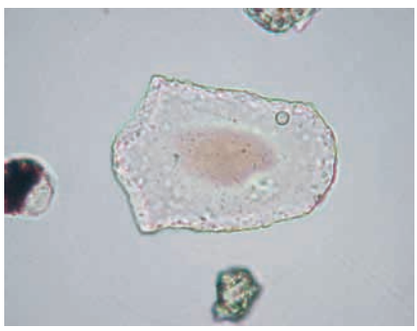

イネ

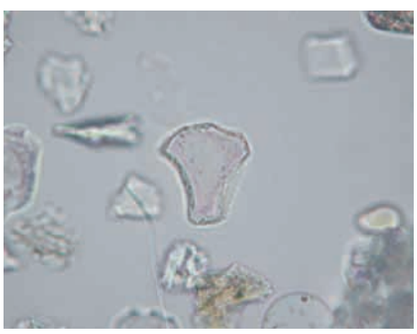

イネ

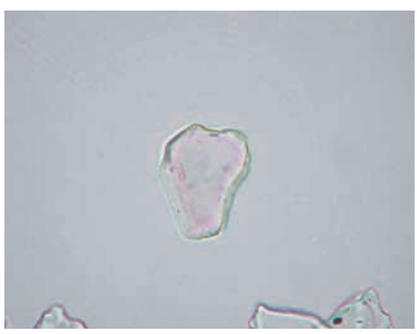

イネ

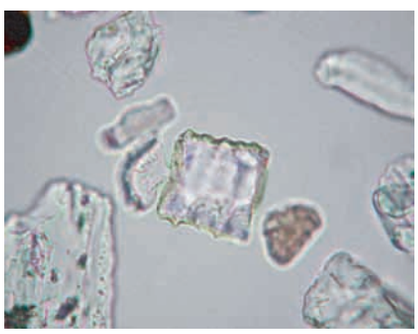

ヒエ属型

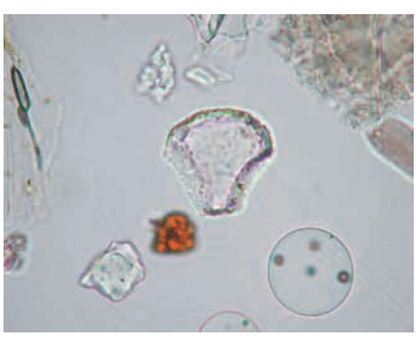

ヨシ属

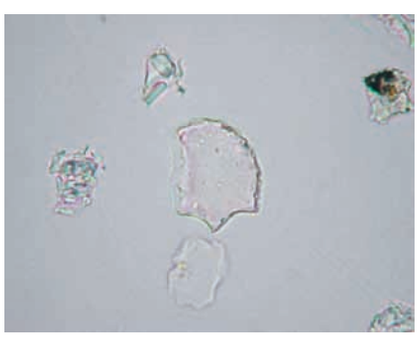

ヨシ属

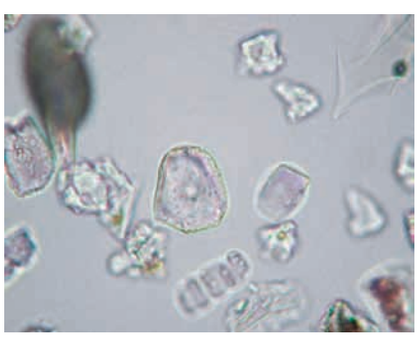

ススキ属型


ススキ属型


ネザサ節型


メダケ節型


チマキザサ節型


ミヤコザサ節型

50 μm

6区調査前全景(西から)

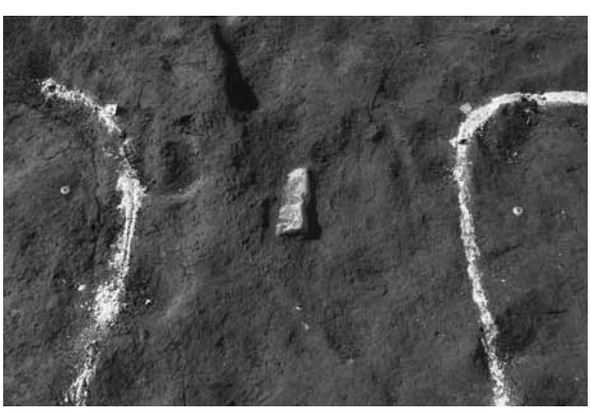
6区1面B水田全景(西から)

6区1面B水田全景(東から)

6区1面B水田全景(東から)

6区1面B水田全景(東から)

6区1面北壁②セクション



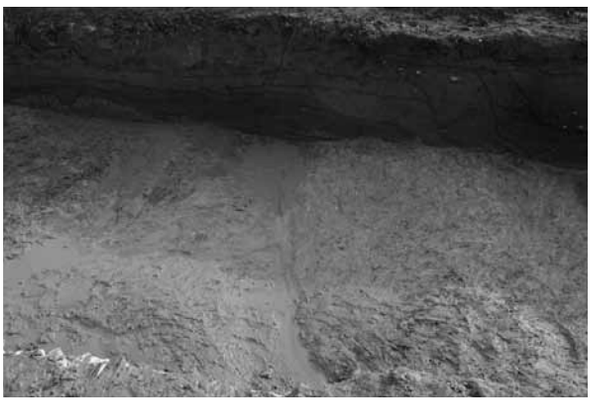
6区1面畦畔上の石No.10出土状況

6区2面⑲トレンチ全景(東から)

図版2

６区２面⑲トレンチ全景(西から)

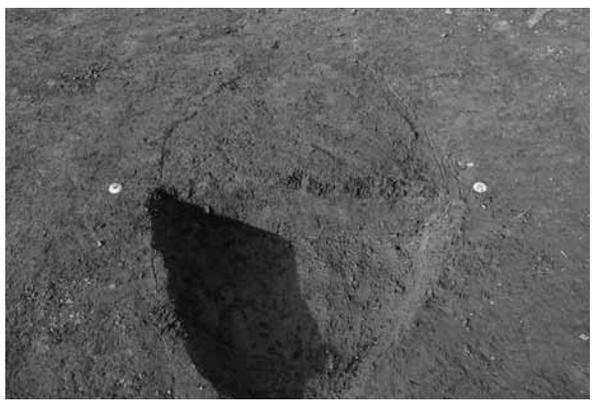
６区２面No.14遺物出土状況



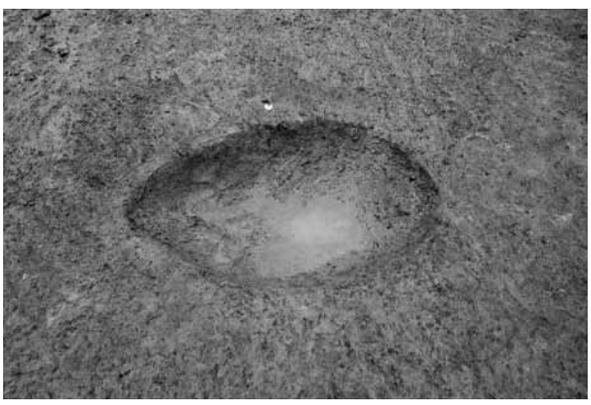
６区２面Ｗ－9全景(北から)

６区２面Ｗ－10全景(南から)

６区２面Ｗ－11全景(東から)



６区２面Ｄ－6セクション



６区２面Ｄ－6完掘

６区埋め戻し完了全景(西から)

7区調査前全景(南から)

7区調査前全景(東から)

7区1面B水田全景(東から)

7区1面B水田全景(南から)

7区1面北壁セクション

7区1面B水田畦畔検出状況

7区1面B水田畦畔セクション

7区1面B水田畦畔検出状況

図版4

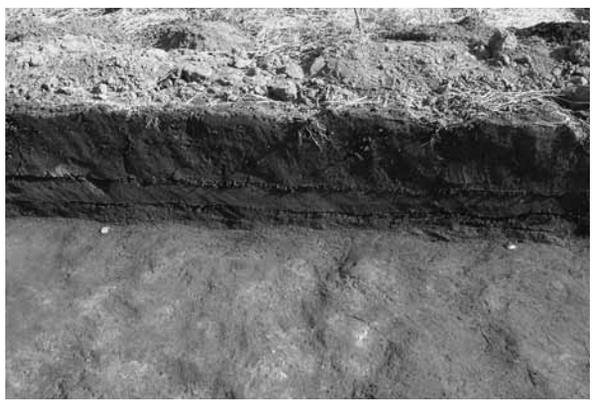
７区１面Ｗ－7全景(南から)

７区１面Ｗ－7北壁セクション

７区２面⑯トレンチ全景(南から)

７区２面⑰トレンチ全景(南から)

７区２面⑱トレンチ全景(西から)

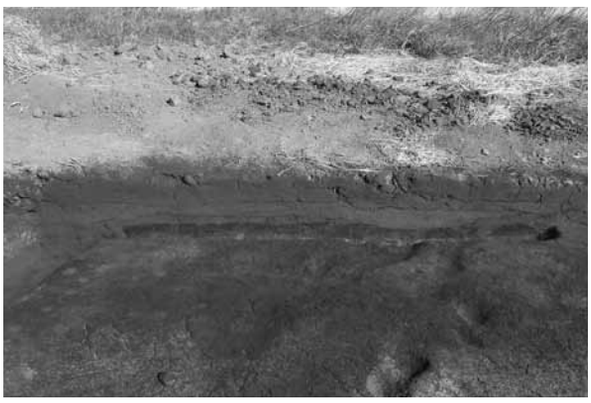


７区２面東壁①セクション

７区２面Ｗ－12全景(西から)

７区２面Ｗ－13全景(西から)

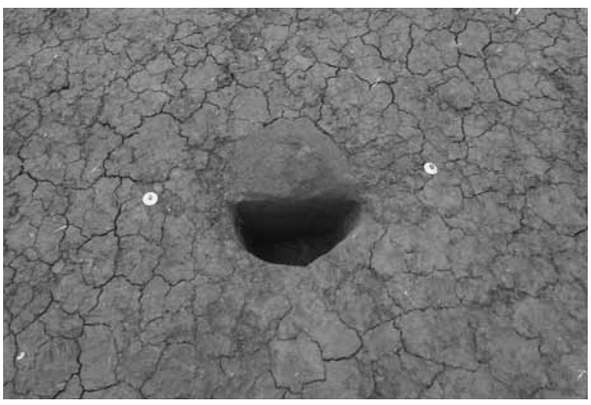
７区２面Ｗ－14全景（西から）



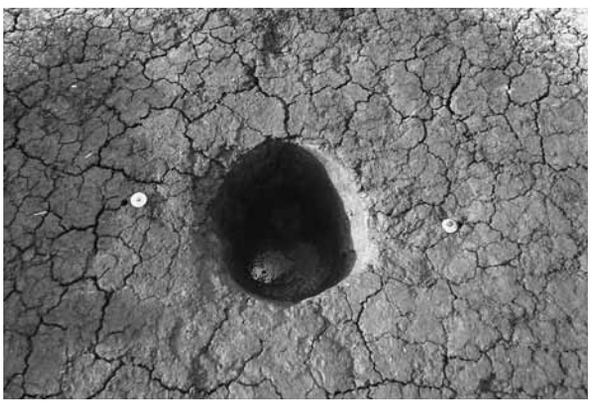
７区２面Ｗ－12 ～ 14セクション

７区２面Ｗ－12 ～ 14 全景（西から）

７区２面Ｄ－7全景



７区２面Ｐ－109セクション



７区２面Ｐ－109完掘全景

７区埋め戻し完了全景（南から）

７区埋め戻し完了全景（西から）

図版6

７・８区全景(空撮 南から)

７・８区調査前全景(東から)

７・８区調査前全景(北から)

７・８区１面Ｂ水田全景(南から)

７・８区１面Ｂ水田全景(北から)

7・8区1面B水田全景(西から)

7・8区1面B水田全景(北から)

7・8区1面B水田全景(東から)

7・8区1面B水田全景(北から)

7・8区1面B水田全景(東から)

7・8区1面B水田全景(西から)

7・8区1面B水田全景(西から)

7・8区1面B水田全景(北から)

図版8

７・８区１面Ｂ水田全景(大畦畔北から)

７・８区１面Ｂ水田全景(大畦畔南から)

７・８区１面Ｂ水田、Ｗ－1・2全景(東から)

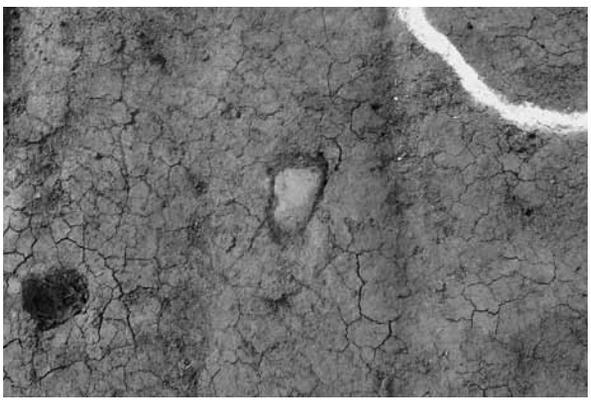
７・８区１面Ｂ水田全景(南から)

７・８区１面Ｂ水田全景(南から)

７・８区１面Ｂ水田全景(東から)

７・８区１面Ｂ水田全景(東から)

７・８区１面大畦畔東壁セクション

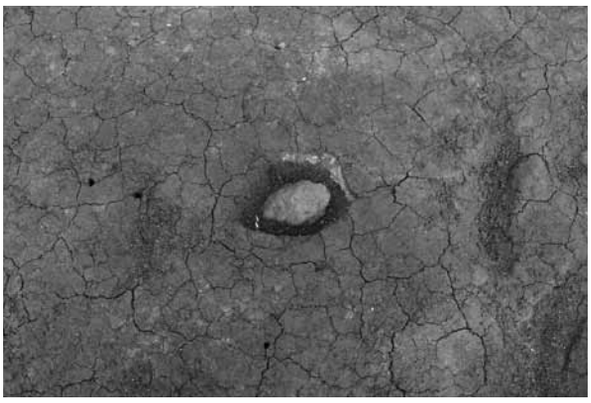


7・8区1面畦畔上の石No.1出土状況

7・8区1面畦畔上の石No.3出土状況

7・8区1面畦畔上の石No.4出土状況(大畦畔)

7・8区1面畦畔上の石No.7出土状況(大畦畔)



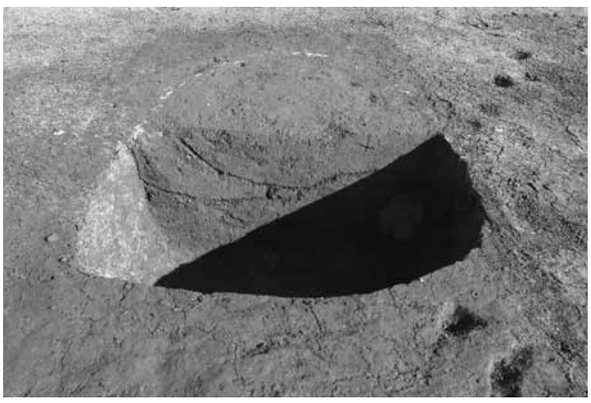
7・8区1面畦畔上の石No.8出土状況(大畦畔)

7・8区1面畦畔上の石No.9出土状況

7・8区1面D－1セクション

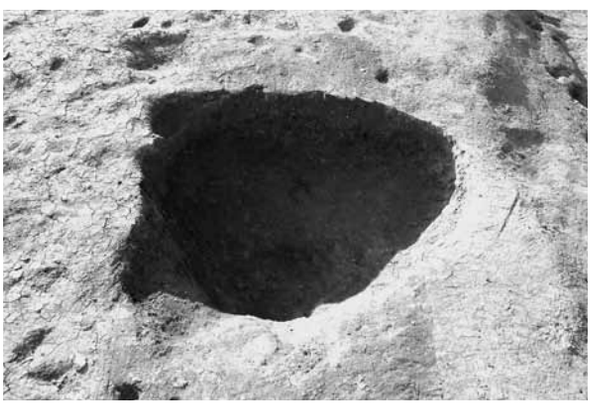
7・8区1面D－1完掘全景

図版10

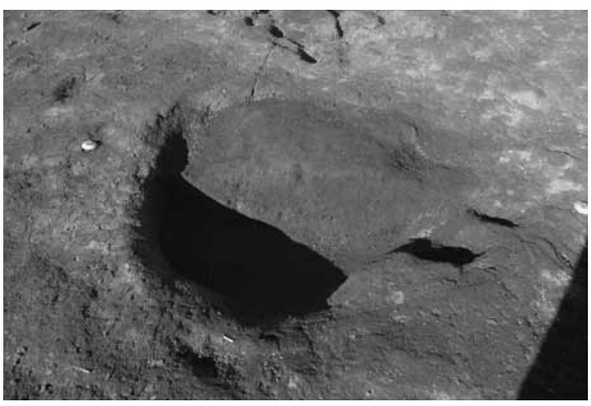


７・８区１面Ｄ－2セクション

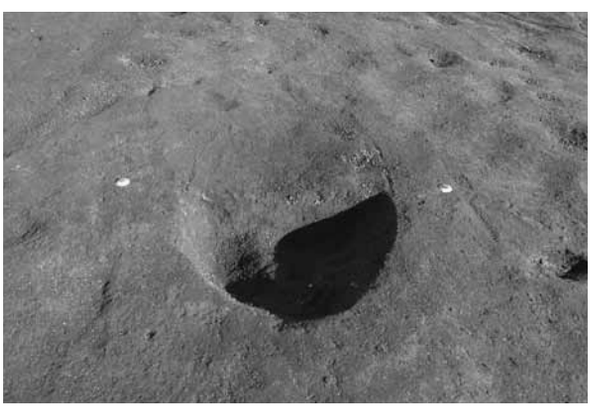
７・８区１面Ｄ－3セクション



７・８区１面Ｄ－5完掘全景

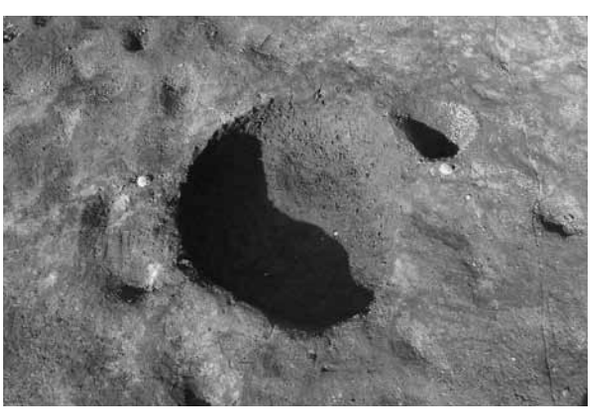


７・８区１面Ｐ－1セクション

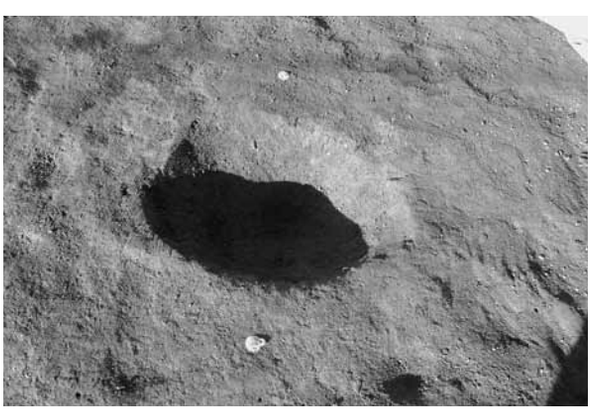


７・８区１面Ｐ－4セクション

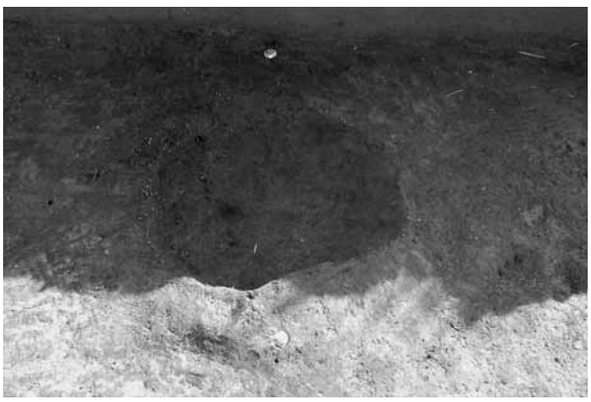
７・８区１面Ｐ－4完掘全景



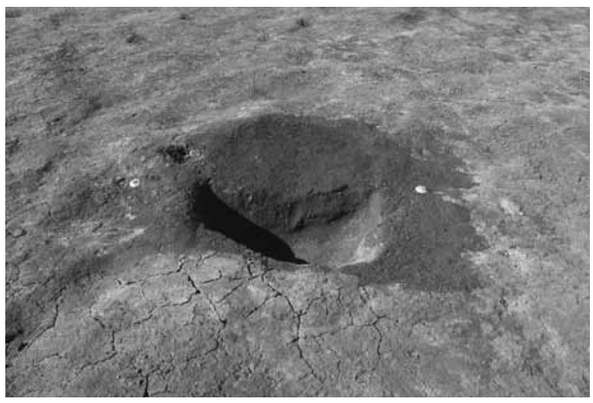
７・８区１面Ｐ－9完掘全景



７・８区１面Ｐ－10完掘全景



7・8区1面P－12完掘全景



7・8区1面P－16セクション

7・8区1面P－20セクション

7・8区1面W－1・2東壁セクション

7・8区1面W－1・5全景(西から)

7・8区1面W－3全景(北から)

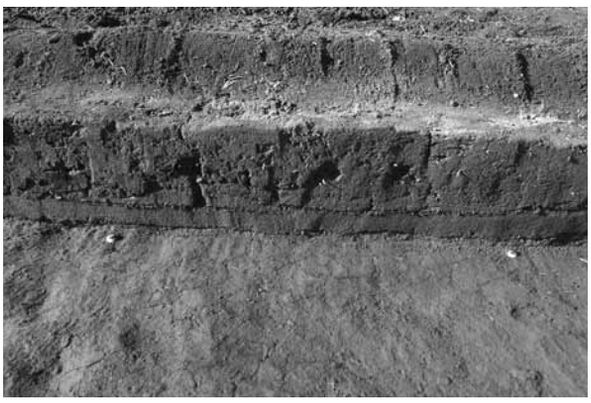
7・8区1面W－4セクション

7・8区1面W－5西壁セクション

図版12

７・８区１面Ｗ－6全景(西から)

７・８区１面Ｗ－8セクション



７・８区１面北壁①セクション

７・８区１面東壁②セクション

７・８区２面全景(東から)

７・８区２面全景(南から)

７・８区２面全景(西から)

７・８区２面①トレンチ全景(西から)

７・８区２面④トレンチ全景(西から)

７・８区２面⑥トレンチ全景(西から)

７・８区２面⑦トレンチ全景(北から)

７・８区２面⑧トレンチ全景(北から)

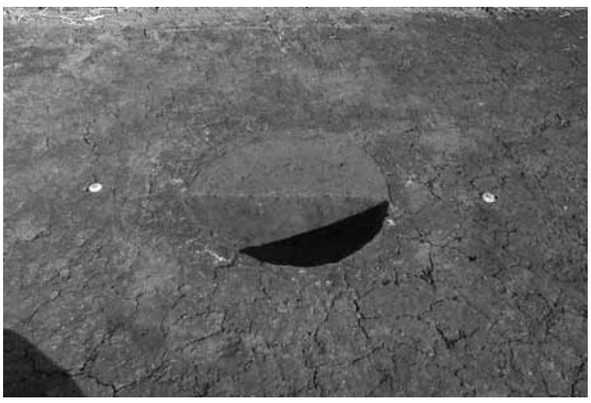
７・８区２面⑩トレンチ全景(北から)

７・８区２面⑪トレンチ全景(北から)

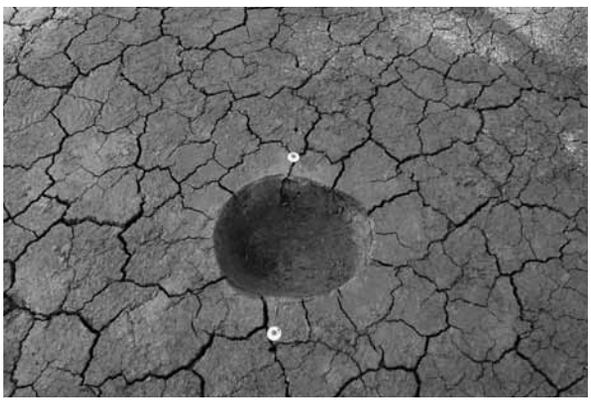
７・８区２面⑫トレンチ全景(北から)

７・８区２面⑮トレンチ全景(北から)

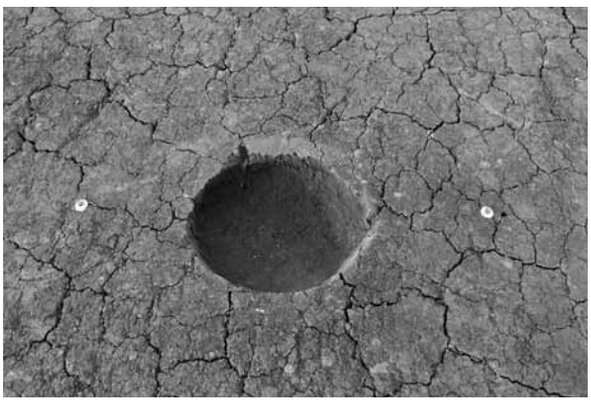
図版14



７・８区２面Ｐ－99セクション



７・８区２面Ｐ－100完掘全景



７・８区２面Ｐ－102完掘全景

７・８区２面Ｐ－105セクション

７・８区２面Ｐ－108完掘全景

７・８区２面Ｗ－15東壁セクション

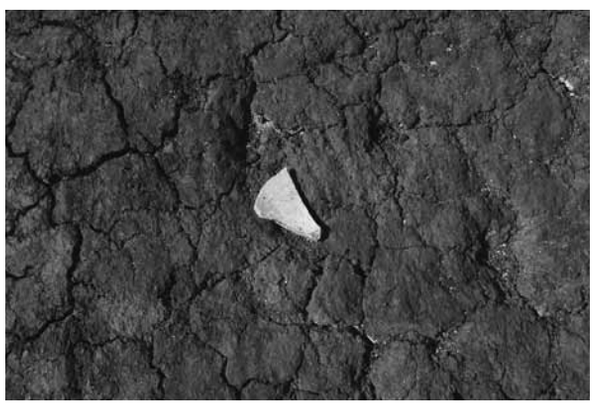
７・８区２面Ｗ－15全景(東壁側)

７・８区２面Ｗ－15全景(西壁側)

７・８区２面西壁セクション

７・８区内基本土層断面 (南壁)

７・８区２面No.13遺物出土状況



７・８区２面遺物出土状況

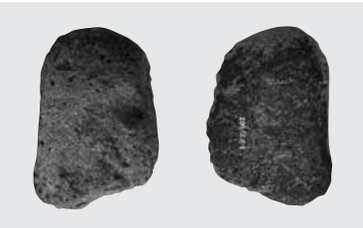
プラント・オパールNo. 1 採取状況

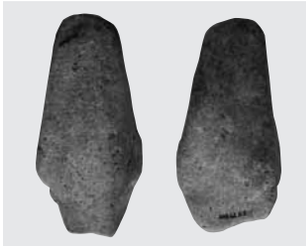
７・８区１面作業風景(北から)

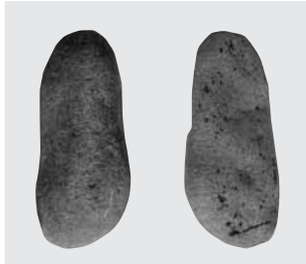
７・８区埋め戻し完了全景(南から)

７・８区埋め戻し完了全景(北から)

図版16

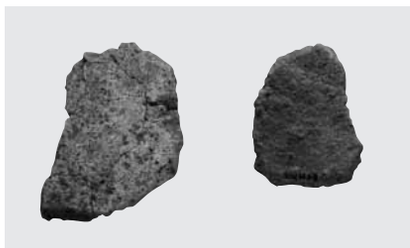

1

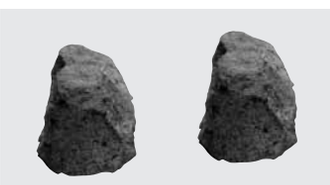

2


3

4

5

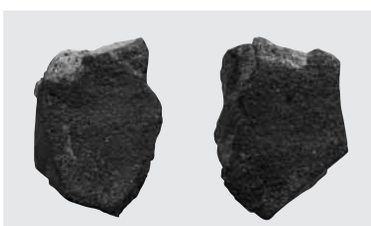

6


7

8

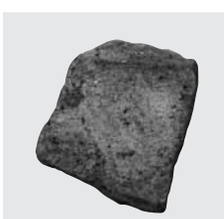
9

10


11

12

13


14

15

16

６区、７・８区１・２面出土遺物

抄　録

フリガナ	ナンブキョテンチクイセキグンナンバー２
書名	南部拠点地区遺跡群№２
副書名	前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書№２
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 板垣　宏・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発行年月日	西暦2009年３月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
南部拠点地区遺跡群（ナンブキョテンチクイセキグンナンバー２）№２	前橋市下阿内町（マエバシシシモアウチマチ）80-1番ほか	10201	20G62	36°19′45″	139°06′08″	20081030 ～ 20090319	9,092㎡	前橋市南部拠点地区土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南部拠点地区遺跡群№２	生産	古墳時代 平安時代 中・近世	ピット10基　溝１条 As-B下水田 土坑７基　溝14条 ピット99基	縄文、弥生土器片石、土師、須恵器片、陶磁器片、砥石	As-B下水田 大畦畔

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書№２

南部拠点地区遺跡群№２（20Ｇ62）

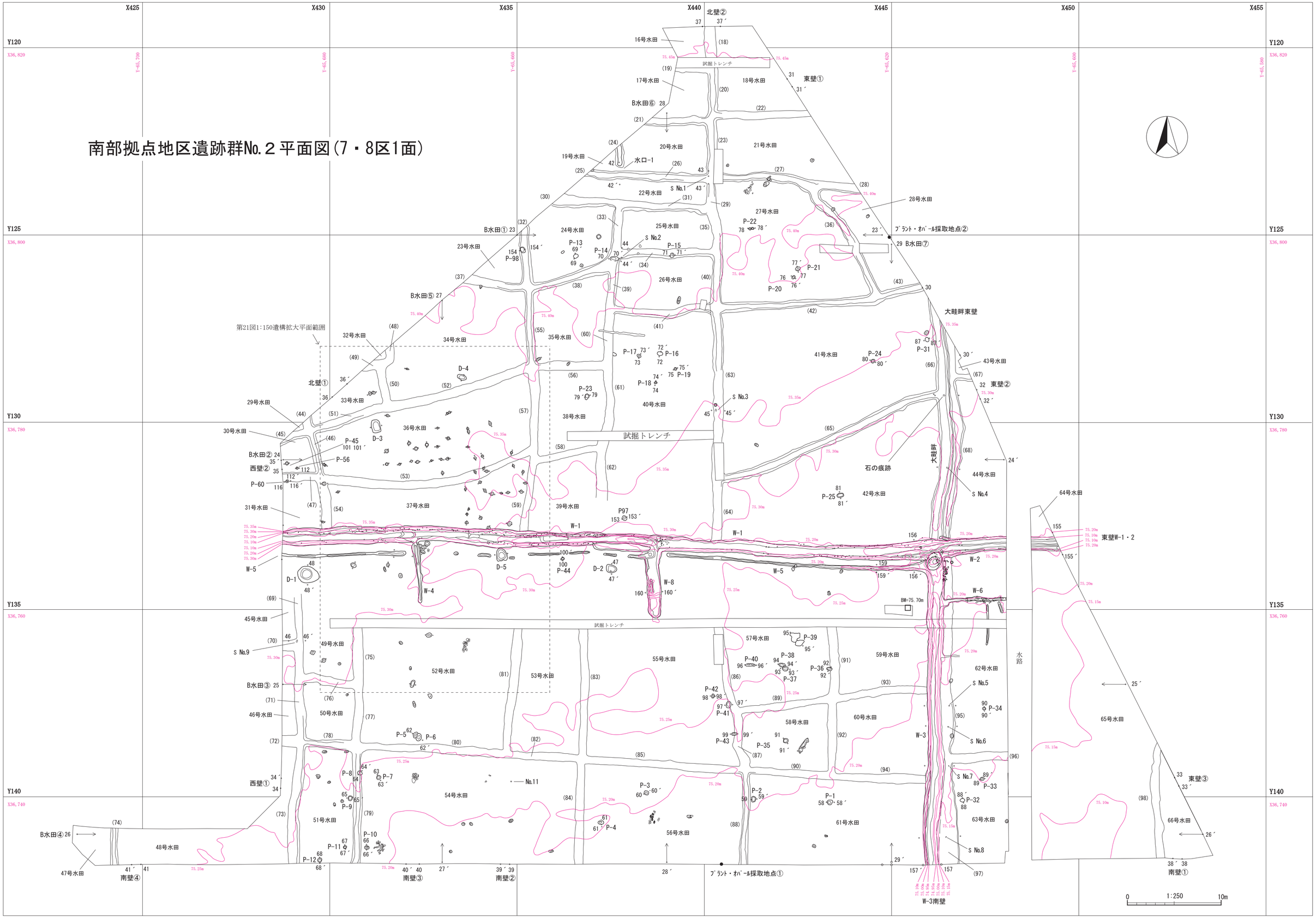
2009年３月12日　印刷
2009年３月19日　発行

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-２
TEL　027-231-9531

編　集　スナガ環境測設株式会社

印　刷　朝日印刷工業株式会社

南部拠点地区遺跡群No.２平面図(7・8区1面)



南部拠点地区遺跡群No.２

平成二一年三月

スナガ環境測設株式会社作成